

## ホタルジャコ科 Family Acropomatidae Gill 1893

### ホタルジャコ属 Genus *Acropoma* Temminck & Schlegel 1843

#### ハネダホタルジャコ *Acropoma hanedai* Matsubara 1953

南シナ海から日本の北西太平洋、国内では駿河湾から日向灘の太平洋、沖縄舟状海盆に分布する。本種は熊野灘で採集された標本に基づいて Matsubara (1953) によって記載された。本種は肛門がたたまれた腹鰭の先端付近に位置することで同属他種と区別できる。(笹木大地)



ハネダホタルジャコ *Acropoma hanedai*, FRLM 64591, 132 mm SL, 熊野灘

#### ホタルジャコ *Acropoma japonicum* Günther 1859

インドー西太平洋、日本では京都府から九州西岸、千葉県外房から鹿児島県の太平洋沿岸、瀬戸内海に分布する。本種は肛門がたたまれた腹鰭の先端より前にあること、側線有孔鱗数は43-45であることから同科他種と区別できる。(笹木大地)



ホタルジャコ *Acropoma japonicum*, FRLM 46543, 89 mm SL, 熊野灘

### アカムツ属 Genus *Doederleinia* Steindachner 1883

#### アカムツ *Doederleinia berycoides* (Hilgendorf 1879)

朝鮮半島南岸からオーストラリア北西岸にかけての西太平洋、日本では青森県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、北海道から九州南岸の太平洋、大隅諸島、種子島、東シナ海、大東諸島近海に分布する。本種は臀鰭棘が3であること、体色は朱紅色であること、口腔内が黒色であることが特徴。(笹木大地)



アカムツ *Doederleinia berycoides*, FRLM 36426, 250 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

志摩市志摩町御座  
やまみ大敷, 2009年7月  
(木村清志撮影)



## カワリハナダイ科 Family Symphysanodontidae Katayama 1984

### カワリハナダイ属 Genus *Symphysanodon* Bleeker 1877

#### カワリハナダイ *Symphysanodon katayamai* Anderson 1970

インドネシア, パラオ, 台湾, 南日本の西太平洋, 日本では沖縄県から神奈川県, 八丈島に分布する。三重県では志摩半島沖の釣りや熊野灘の巻網で採集された。腹鰭第1軟条はわずかに伸長すること, 体側に幅広い黄色縦帯があること, 尾鰭下葉は赤いことで日本産同属他種と区別できる。(木村清志)



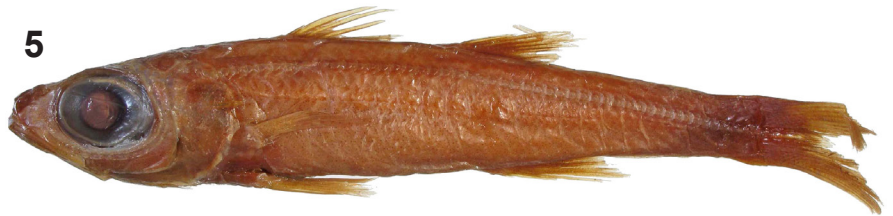
カワリハナダイ *Symphysanodon katayamai*, FRLM 57239, 143 mm SL  
志摩市志摩町御座沖

## ヤセムツ科 Family Epigonidae Poey 1861

### ヤセムツ属 Genus *Epigonus* Rafinesque 1810

#### ナガヤセムツ *Epigonus ctenolepis* Mochizuki & Shirakihara 1983

駿河湾および尾鷲沖から知られている(岡本, 2019)。本種は尾鷲沖から得られた標本に基づき Mochizuki and Shirakihara (1983) によって記載された。本種は主鰓蓋骨に1棘があること, 眼が長楕円形であること, 胸鰭は18-20軟条であることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



ナガヤセムツ *Epigonus ctenolepis*, FUMT-P 1567, 98 mm SL, ホロタイプ, 熊野灘  
(固定標本, 岡本 誠氏撮影)

#### ハゲヤセムツ *Epigonus denticulatus* Dieuzeide 1950

全世界の熱帯から温帯域, 日本では東北太平洋沖, 駿河湾, 三重県尾鷲, 宮崎県, 東シナ海, 鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の中間海域, 九州-パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は主鰓蓋骨に強い1棘がないこと, 鰓耙数28-34, 側線有孔鱗数が49-51にあること, 胸鰭は短く肛門の直上に



ハゲヤセムツ *Epigonus denticulatus*, FRLM 34145, 93 mm SL, 熊野灘

は達しないこと, 生鮮時の体色は淡褐色であることから同属他種と区別できる(岡本, 2019; 岡本・宮本, 2022)。(笹木大地)

#### ヤセムツ *Epigonus pectinifer* Mayer 1974

全世界に広く分布する。日本では駿河湾, 三重県尾鷲, 宮崎県, 大隅諸島黒島, 沖縄舟状海盆に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は主鰓蓋骨に強い1棘があること, 第1背鰭と第2背鰭は比較的接近すること, 眼は円形であること, 胸鰭は15-17軟条であることから同属他種と区別できる。(笹木大地)



ヤセムツ *Epigonus pectinifer*, FRLM 33940, 78 mm SL, 熊野灘



## クシスミクイオ科 Family Howellidae Ogilby 1899

### クシスミクイオ属 Genus *Howella* Ogilby 1899

#### トゲクシスミクイオ *Howella zina* Fedoryako 1976

青森県沖から土佐湾までの太平洋，東シナ海，九州－パラオ海嶺北部，沖ノ島島，ハワイ諸島に分布する。本種は側線有孔鱗数が33-39であること，鋤骨，口蓋骨に歯があること，下鰓蓋骨の棘は長大であること，鱗の小棘は強く小棘域も広いことで同属他種と区別できる。

(笹木大地)



トゲクシスミクイオ *Howella zina*, FRLM 45517, 74 mm SL, 熊野灘

## イシナギ科 Family Stereolepididae Smith, Ghedotti & Davis 2022

### イシナギ属 Genus *Stereolepis* Ayres 1859

#### オオクチイシナギ *Stereolepis doederleini* Lindberg & Krasyukova 1969

台湾東岸から韓国および日本の北西太平洋に分布し，日本では北海道から屋久島まで広く分布する。三重県では熊野灘沿岸から標本が得られている。同属のコクチイシナギ *Stereolepis gigas* Ayres 1859 に似るが上顎後端が眼の中央以降であること，側線有孔鱗数が57-68であることで区別できる。

(武内 俊)



オオクチイシナギ *Stereolepis doederleini*, FRLM 34089, 193 mm SL, 尾鷲市

## スズキ科 Family Lateolabracidae Ghedotti, Davis and Smith 2018

### スズキ属 Genus *Lateolabrax* Bleeker 1855

#### スズキ *Lateolabrax japonicus* (Cuvier 1828)

韓国の東シナ海沿岸に分布。日本では北海道から鹿児島県にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，種子島から記録がある。尾柄は長く細いこと，背鰭軟条数が通常12-14であること，および尾鰭後縁の切れ込みは深いことでヒラスズキ *Lateolabrax latus* Katayama 1957 と区別することができ，体に黒斑がなく，吻は長く，顔は尖ることでタイリクスズキ *Lateolabrax* sp. と区別することができる。ただし全長25 cm



スズキ *Lateolabrax japonicus*, FRLM 51883, 161 mm SL, 英虞湾内座賀島

以下の個体では体に黒斑をもつことがあるが，その大きさは鱗より小

いか同程度。三重県では全域でよく見られる。  
(宿女太志)

**ヒラスズキ**  
*Lateolabrax latus*  
 Katayama 1957

石川県、兵庫県、島根県、山口県以南の日本海・東シナ海沿岸、茨城県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海、大隅諸島から記録がある。尾柄は短く太いこと、背鰭軟条数が通常15-16であること、尾柄後縁の切れ込みは浅いことでスズキ *Lateolabrax japonicus* (Cuvier 1828) およびタイリクスズキ *Lateolabrax* sp. と区別することができる。スズキより外海に分布する傾向があり、三重県では伊勢湾内より熊野灘沿岸域の方がよく見られる。(宿女太志)

**タイリクスズキ**  
*Lateolabrax* sp.

中国、台湾、韓国などの東シナ海沿岸に自然分布。日本では福井県、石川県、静岡県、愛媛県、香川県、宮崎県などで養殖されており、西日本を中心に生け簀から散逸した個体が確認される。尾柄は長く細いこと、背鰭軟条数が通常12-14であること、および尾鰭後縁の切れ込みは深いことでヒラスズキ *Lateolabrax latus* Katayama 1957 区別することができる。体に通常黒斑があり(成魚になっても消失することはない)、多くは鱗より大きい、吻は短く、顔は丸いことでスズキ *Lateolabrax japonicus* (Cuvier 1828) と区別することができる。三重県では熊野川河口から標本が得られ、答志島で漁獲された。(宿女太志)



ヒラスズキ *Lateolabrax latus*, FRLM 56672, 273 mm SL, 英虞湾内座賀島



タイリクスズキ *Lateolabrax* sp.  
 上 FRLM 13858, 402 mm SL, 紀宝町鶴殿熊野川河口  
 下 鳥羽市答志島 (笹木大地撮影)

**ハタンポ科 Family Pempheridae Bleeker 1859**

**キンメモドキ属 Genus *Parapriacanthus* Steindachner 1870**

**キンメモドキ**  
*Parapriacanthus ransonneti*  
 Steindachner 1870

インドー西太平洋、日本では山口県日本海側から九州北西岸、千葉県外房域から九州南岸の太平洋沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘に分布し、定置網で混獲される。本種は体がオレンジからピンク色であること、尾鰭先端が黒いことなどが特徴。(笹木大地)



キンメモドキ *Parapriacanthus ransonneti*, FRLM 51013, 65 mm SL  
 志摩市志摩町御座



## ハタンポ属 Genus *Pempheris* Cuvier 1829

### ツマグロハタンポ *Pempheris japonica* Döderlein 1883

韓国および日本に分布し、国内では若狭湾から九州北岸・北西岸、茨城県鹿島灘から九州南岸の太平洋沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、沖縄島に分布する（小枝ほか、2012）。三重県では熊野灘の定置網で混獲される。本種は体が強い櫛鱗で覆われ、鱗は剥がれにくく、これはボニンハタンポ *Pempheris familia* Koeda & Motomura 2017 と共通の特徴であるが、側線上方横列鱗数が 12-13 であること、胸鰭基部に明瞭な黒斑がないことで区別できる（Koeda and Motomura, 2017）。

（笹木大地）



ツマグロハタンポ *Pempheris japonica*, FRLM 36944, 132 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

### ミエハタンポ *Pempheris sasakii* Jordan & Hubbs 1925

日本、台湾、ベトナムに分布する（小枝、2020a）。日本では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸、大隅諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は胸鰭基部に黒斑がないこと、表層の鱗の下に小鱗をもつが、その数は多くないこと、臀鰭軟条数は 41-45 であることから同科他種と区別できる。（笹木大地）



ミエハタンポ *Pempheris nyctereutes*, FRLM 63009, 124 mm SL, 尾鷲市

### ミズホハタンポ *Pempheris xanthoptera* Tominaga 1963

韓国済州島および日本に分布し、国内では房総半島から鹿児島県の太平洋沿岸、対馬、五島列島から鹿児島県の東シナ海沿岸、伊豆・小笠原諸島、種子島、屋久島、口永良部島、硫黄島、竹島から記録されている（Koeda and Bessho-Uehara, 2024）。三重県では熊野灘で普通にみられ定置網で混獲される。本種は従来ミナミハタンポ *Pempheris schwenkii* Bleeker 1855 として扱われていたが、ミナミハタンポは通常種子島以南（稀に鹿児島県南さつま市）に分布し、三重県を含む本州には分布しないことが明らかとなり、本種には標準和名ミズホハタンポが提唱された（Koeda and Bessho-Uehara, 2024）。本種は尾鰭が黄色いことで、尾鰭がピンクから茶色であるミナミハタンポと区別できる（Koeda and Bessho-Uehara, 2024）。（笹木大地）



ミズホハタンポ *Pempheris xanthoptera*, FRLM 43824, 58 mm SL, 英虞湾内座賀島

## チヨウセンバカマ科 Family Banjosidae Jordan & Thompson 1912

### チヨウセンバカマ属 Genus *Banjos* Bleeker 1876

#### チヨウセンバカマ *Banjos banjos banjos* (Richardson 1846)

東シナ海，琉球列島，韓国，日本の北西太平洋に分布し，日本では新潟県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸，千葉県から九州南岸の太平洋沿岸に分布する．三重県では志摩市や南伊勢町から標本が得られている．本亜種は眼窩幅が体長の5.8–8.1%であること，背鰭第1棘と第2棘，第8棘の長さがそれぞれ体長の4.5–8.0%と11.2–18.3%，9.5–18.7%であることで同属他亜種と区別できる (Matsunuma and Motomura, 2017). (武内 俊)



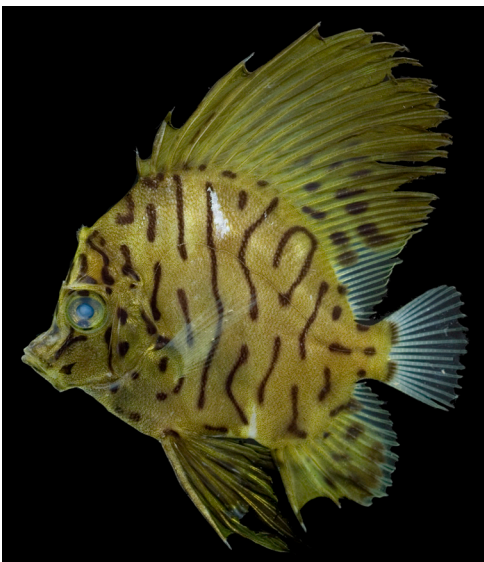
チヨウセンバカマ *Banjos banjos banjos*, FRLM 41147, 195 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

## カワビシャ科 Family Pentacerotidae Bleeker 1859

### テングダイ属 Genus *Evistias* Jordan 1907

#### テングダイ *Evistias acutirostris* (Temminck & Schlegel 1844)

台湾から日本，ハワイ諸島，オーストラリアからニュージーランド，イースター島などの西太平洋，中部太平洋．日本では沖縄県から北海道に分布する．三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲される．背鰭IV, 26–29，成魚の背鰭棘は短く，最後棘（第4棘）は第1軟条の1/2程度． (木村清志)



テングダイ *Evistias acutirostris*  
上 FRLM 36872, 188 mm SL, 志摩市志摩町御座  
左 FRLM 35278, 48 mm SL, 尾鷲市



## カワビシャ属 Genus *Histiopterus* Temminck & Schlegel 1844

### カワビシャ *Histiopterus typus* Temminck & Schlegel 1844

紅海, アフリカ南岸・東岸からパプアニューギニア, 日本, オーストラリアに至るインド-西太平洋. 日本では鹿児島県から青森県に分布する. 三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲された. 背鰭 IV, 27-28, 成魚の背鰭第 3, 4 棘は長く, 最後棘 (第 4 棘) は第 1 軟条とほぼ同長, 第 3 棘は太い. (木村清志)



カワビシャ *Histiopterus typus*  
上 FRLM 45526, 172 mm SL, 尾鷲市早田町  
左 FRLM 55454, 40 mm SL, 熊野灘

## ツボダイ属 Genus *Pentaceros* Cuvier 1829

### ツボダイ *Pentaceros japonicus* Steindachner 1883

日本, ハワイ諸島, ニューカレドニア, ペルー沖南東太平洋. 日本では琉球列島から北海道. 三重県では熊野灘の定置網や底曳網で漁獲される. 背鰭 XI, 13-15, 体高は高い.



ツボダイ *Pentaceros japonicus*  
上 FRLM 54520, 148 mm SL, 志摩市志摩町和具沖  
左 FRLM 51033, 96 mm SL, 熊野灘



**クサカリツボダイ**  
***Pentaceros wheeleri***  
**(Hardy 1983)**

日本，天皇海山列，ハワイ諸島，米国アリューシャン列島からカリフォルニア。日本では種子島，三重県，八丈島，小笠原諸島，千葉県から記録されている。三重県では熊野灘の底曳網で採集された。背鰭，VIII-IX，8-10，体高は低い。

(木村清志)



クサカリツボダイ *Pentaceros wheeleri*, FRLM 54543, 272 mm SL, 熊野灘

**オオメハタ科 Family Malakichthyidae Jordan & Richardson 1910**

**オオメハタ属 Genus *Malakichthys* Döderlein 1883**

**ヒゲオオメハタ**  
***Malakichthys barbatus***  
**Yamanoue & Yoseda 2001**

日本，広東省沖，オーストラリア北西岸・北東岸に分布する。日本では駿河湾から土佐湾の太平洋沿岸，鹿児島湾，種子島に分布する。三重県では志摩市和具沖の水深 300 m 付近でしばしば採集される。本種は下顎先端付近に多くの棘があることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



ヒゲオオメハタ *Malakichthys barbatus*, FRLM 60756, 236 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**ナガオオメハタ**  
***Malakichthys elegans***  
**Matsubara & Yamaguti 1943**

済州島，日本からオーストラリア北西岸の西太平洋，日本では相模湾以南の太平洋，大隅諸島，屋久島，東シナ海，沖縄舟状海盆に分布する。本種は下顎先端に一对の棘をもつこと，臀鰭基底は短いこと，体高が低いこと，側線有孔鱗数は 48-51 であることから同属他種と区別できる。

(笹木大地)



ナガオオメハタ *Malakichthys elegans*, FRLM 58349, 152 mm SL, 熊野灘

尾鷲市九鬼漁港，2023 年 10 月  
 (武藤 滉撮影)





**オオメハタ**  
***Malakichthys griseus***  
**Döderlein 1883**

済州島，日本からオーストラリア北西岸の西太平洋，日本では新潟県沖，千葉県外房から九州南岸の太平洋，大隅諸島，沖縄舟状海盆に分布する．本種は下顎先端に一对の棘をもつこと，臀鰭基底は短いこと，体高が高いこと，側線有孔鱗数は42-49であることから同属他種と区別できる．  
 (笹木大地)



オオメハタ *Malakichthys griseus*, FRLM 39922, 250 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**ワキヤハタ**  
***Malakichthys wakiyae***  
**Jordan & Hubbs 1925**

韓国と日本に分布する．国内では山口県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸，駿河湾から鹿児島県の太平洋沿岸，宇治群島，大隅諸島，東シナ海大陸棚縁辺域に分布する．本種は下顎先端に一对の棘をもつこと，臀鰭基底は長いことから同属他種と区別できる．  
 (笹木大地)



ワキヤハタ *Malakichthys wakiyae*, FRLM 55467, 163 mm SL, 志摩市大王町波切沖

**ワニギス科 Family Champsodontidae Jordan & Snyder 1902**

**ワニギス属 Genus Champsodon Günther 1867**

**ミナミワニギス**  
***Champsodon longipinnis***  
**Matsubara & Amaoka 1964**

東インド洋から西太平洋，日本では愛知県三谷，三重県尾鷲，土佐湾，奄美大島，沖縄舟状海盆から報告がある．この写真の標本は熊野灘で操業するまき網によって混獲されたものである．本種は腹部に鱗があり，無鱗域はあっても腹鰭基部周辺のみであること，第1背鰭の上半分は黒いこと，主上顎骨後端は眼の後縁を越えることで同属他種と区別できる．  
 (笹木大地)



ミナミワニギス *Champsodon longipinnis*, FRLM 47884, 82 mm SL, 熊野灘

**ワニギス**  
***Champsodon snyderi***  
**Franz 1910**

西太平洋，日本では新潟県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸，宮城県から九州南岸の太平洋沿岸，大阪府岬町，鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は腹



ワニギス *Champsodon snyderi*, FRLM 45286, 51 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

部に鱗がないこと，前上顎骨先端付近に凹みがあること，下顎背面に鱗がないことなどから同属他種と区別できる．  
 (笹木大地)

## ホカケトラギス科 Family Hemerocoetidae Kaup 1873

### ヒメトラギス属 Genus *Osopsaron* Jordan & Starks 1904

#### ウサギトラギス *Osopsaron formosense* Kao & Shen 1985

台湾から日本，韓国済州島，パプアニューギニアの西太平洋，日本では島根県，長崎県，神奈川県から高知県の太平洋，種子島，沖縄島，座間味島，石垣島に分布する．三重県では志摩市安乗沖で採集された．本種は第1背鰭が著しく伸長することが特徴．  
(笹木大地)



ウサギトラギス *Osopsaron formosense*, FRLM 39045, 42 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

## トビギンポ科 Family Creediidae Waite 1899

### トビギンポ属 Genus *Limnichthys* Waite 1904

#### トビギンポ *Limnichthys fasciatus* Waite 1904

南東インド洋から西太平洋，日本では千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸，伊豆・小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では志摩市安乗から標本が得られている．本種は背鰭と臀鰭の鰭条数の合計は



トビギンポ *Limnichthys fasciatus*, FRLM 37102, 27 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

52-56 であること，体側中央に1暗帯があることで同属他種と区別できる．  
(笹木大地)

### ネズスナギンポ属 Genus *Myopsaron* Shibukawa 2010

#### ネズスナギンポ *Myopsaron nelsoni* Shibukawa 2010

これまでに小笠原諸島父島および沖縄島から記録されていた．三重県では志摩市安乗沖から複数個体が採集され，これは本州における初記録である．本種は臀鰭起部が体の後半部にあることや側線が体側前部で中



ネズスナギンポ *Myopsaron nelsoni*, FRLM 37101, 33 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

断することから同科他種と区別できる．  
(笹木大地)

## スミクイウオ科 Family Synagropidae Smith 1961

### ヒメスミクイウオ属 Genus *Parascombrops* Alcock 1889

#### バケスミクイウオ *Parascombrops analis* (Katayama 1957)

西太平洋に分布する．日本では茨城県沖，三重県尾鷲，土佐湾，日向灘から記録されている（岡本・前田，2021）．本種は三重県尾鷲市から得られた標本に基づいて Katayama (1957) によって記載された．本種は臀鰭棘が3本であること，腹鰭棘の前縁が鋸歯状であることが特徴．  
(笹木大地)



バケスミクイウオ *Parascombrops analis*  
KAUM-I. 179959, 宮崎県



**オリーブヒメスミクイウオ**  
***Parascombrops nakayamai***  
**Schwarzhans & Prokofiev 2017**

チモール海, オーストラリア北西沖, バヌアツ沖, ウォリス・フツナ, フィリピン北部, 台湾, 日本(土佐湾, 日向灘, 男女群島および甕島列島)に分布する(Schwarzhans and Prokofiev, 2017; 岡本ほか, 2021; 2022). 三重県では尾鷲沖の熊野灘から標本が得られており, これは本種の北限記録である. 本種はヒメスミクイウオに似るが鋤骨にはその両側のみに歯が存在すること(ヒメスミ



オリーブヒメスミクイウオ *Parascombrops nakayamai*, FRLM 32901, 72 mm SL, 熊野灘

クイウオ *Parascombrops philippinensis* る)によって区別できる(岡本ほか, (Günther 1880)は鋤骨全体に歯がある(2021). (笹木大地)

**ヒメスミクイウオ**  
***Parascombrops philippinensis***  
**(Günther 1880)**

東インド洋から西太平洋, 日本では京都府および山口県の日本海, 神奈川県三崎, 土佐湾から鹿児島県本土, 愛媛県瀬戸内海, 東シナ海, 鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種とオリーブヒメスミクイウオ *Parascombrops nakayamai* Schwarzhans & Prokofiev 2017 との比較については, オリーブヒメスミクイウオの項を参照. (笹木大地)



ヒメスミクイウオ *Parascombrops philippinensis*, FRLM 54476, 44 mm SL, 尾鷲市

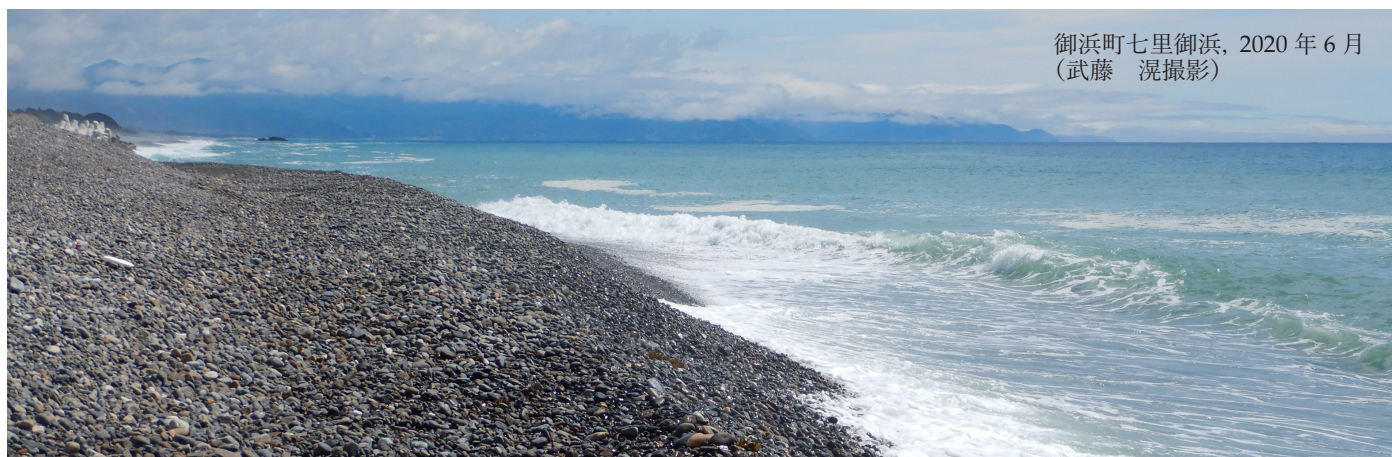
**スミクイウオ属 Genus *Synagrops* Günther 1887**

**スミクイウオ**  
***Synagrops japonicus***  
**(Döderlein 1883)**

インドー太平洋, 日本では富山湾以南の日本海・東シナ海, 北海道から九州南岸の太平洋, 大隅諸島に分布する. 本種は臀鰭棘が2であること, 腹鰭棘の前縁はなめらかであることで同科他種と区別できる. (笹木大地)



スミクイウオ *Synagrops japonicus*, FRLM 44077, 112 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



御浜町七里御浜, 2020年6月  
(武藤 滉撮影)



## ニザダイ目 Order Acanthuriformes

### クロサギ科 Family Gerreidae Bleeker 1859

### クロサギ属 Genus *Gerres* Quoy & Gaimard 1824

#### セダカダイミョウサギ

#### *Gerres akazakii*

Iwatsuki, Kimura & Yoshino 2007

現在のところ日本のみに分布する。国内では奄美大島から静岡県の太平洋岸、三重県では英虞湾や五ヶ所湾の定置網で採集された。背鰭X, 9, 吻背面にU字型の凹みがない。

(木村清志)



セダカダイミョウサギ *Gerres akazakii*, FRLM 36860, 86 mm SL, 志摩市志摩町御座

#### クロサギ

#### *Gerres equulus*

Temminck & Schlegel 1844

韓国と日本。国内では鹿児島県から宮城県、新潟県に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘ともに沿岸域で採集された。河口、汽水域にもよく進入する。背鰭IX, 10, 吻背面のU字型の凹みの周囲に小鱗がない。

(木村清志)



クロサギ *Gerres equulus*, FRLM 29159, 183 mm SL, 志摩市志摩町御座

#### イトヒキサギ

#### *Gerres filamentosus*

Cuvier 1829

アフリカ東岸からフィジー、日本、オーストラリア、ニューカレドニアに至るインド-西太平洋。日本では琉球列島から三重県。三重県では御浜町の定置網で漁獲された。背鰭第2棘は糸状に伸長する、体側に暗色楕円斑からなる横帯がある、上顎後端は虹彩前縁をとる垂線に達しない、側線有孔鱗数 43-46。

(木村清志)



イトヒキサギ *Gerres filamentosus*, FRLM 63314, 253 mm SL, 御浜町阿田和



**ダイミョウサギ**  
***Gerres japonicus***  
**Bleeker 1854**

香港から上海の中国南シナ海・東シナ海沿岸，韓国，日本．日本では鹿児島県から宮城県，山陰地方に分布する．三重県では主に熊野灘の定置網で漁獲されている．背鰭X, 9, 吻背面にU字型の凹みがある．

(木村清志)



ダイミョウサギ *Gerres japonicus*, FRLM 43829, 156 mm SL, 志摩市志摩町御座

**ホソイトヒキサギ**  
***Gerres macracanthus***  
**Bleeker 1854**

アフリカ南岸・東岸からフィリピン，日本に至るインドー西太平洋．日本では沖縄県から三重県に分布．三重県では尾鷲の定置網で漁獲された．背鰭第2棘は糸状に伸長する，体側にやや不明瞭な暗色横帯がある．

(木村清志)



ホソイトヒキサギ *Gerres macracanthus*, FRLM 34083, 100 mm SL, 紀北町白浦

**ヤマトイトヒキサギ**  
***Gerres microphthalmus***  
**Iwatsuki, Kimura & Yoshino 2007**

現在のところ日本のみに分布する．国内では種子島から相模湾．三重県では熊野灘沿岸の定置網で採集された．背鰭第2棘は糸状に伸長する，体側に暗色楕円斑からなる横帯がある，上顎後端は虹彩前縁をとおり垂線に達するか，わずかに達しない，側線有孔鱗数 40-43.

(木村清志)



ヤマトイトヒキサギ *Gerres microphthalmus*, FRLM 61920, 237 mm SL, 尾鷲市

志摩市志摩町片田，麦崎灯台  
 2024 年 4 月（笹木大地撮影）



## キス科 Family Sillaginidae Richardson 1846

### キス属 Genus *Sillago* Cuvier 1816

#### シロギス

*Sillago japonica*  
Temminck & Schlegel 1843

温帯性種で、日本では北海道から九州の沿岸域に分布する。三重県では伊勢湾を含む沿岸域で普通に見られる。伊勢湾から伊勢湾口域では重要な水産資源として漁獲されている。本種は体側に斑紋がないこと、第2背鰭に小黑点列がないことで同属他種と区別できる。なお、同属のアオギス *Sillago parvisquamis* Gill



シロギス *Sillago japonica*, FRLM 52950, 158 mm SL, 英虞湾内座賀島

1861 については伊勢湾では絶滅したと考えられているが、かつて三重県にも分布していた可能性が指摘されている（木村, 2024）。（笹木大地）

## マンジュウダイ科 Family Ephippidae Bleeker 1859

### ツバメウオ属 Genus *Platax* Cuvier 1816

ナンヨウツバメウオ  
*Platax orbicularis*  
(Forsskål 1775)

インドー太平洋に分布。日本では鳥取県、岩手県、茨城県、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、八丈島から記録がある。吻の外縁は若干凹むこと、下顎下面の小孔は5対であること、体側の暗色横帯には不定形の黒色斑がまじることによって日本産同属他種と区別することができる。幼魚では成魚と大きく形態が異なり、各鰭の縁辺は赤くなく、体側には縁取りのある輝青色斑がある。三重県では枯葉に擬態した幼魚が夏から秋ごろに見られる。（宿女太志）

ナンヨウツバメウオ  
*Platax orbicularis*, FRLM 41703  
79 mm SL  
志摩市志摩町片田麦崎



ツバメウオ  
*Platax teira*  
(Fabricius 1775)

インドー西太平洋に分布。日本では新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸、北海道以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、南大東島、小笠原諸島から記録がある。下顎下面の小孔は5対であること、吻の外縁は凹まないこと、腹鰭は黄色であること、腹鰭基部後方に1黒色斑があること、生時、体には光沢がないことなどで日本産同属他種と区別することができる。幼魚は体側に2暗色縦帯があり、腹鰭は著しく長くないことが特徴。三重県では熊野灘沿岸域で漁獲されている。（宿女太志）

ツバメウオ *Platax teira*, 志摩市志摩町御座  
右上 FRLM 39650, 169 mm SL  
下 FRLM 36734, 377 mm SL





## ニベ科 Family Sciaenidae Cuvier 1829

### オオニベ属 Genus *Argyrosomus* De la Pylaie 1835

#### オオニベ

***Argyrosomus japonicus***  
(Temminck & Schlegel 1843)

インドー西太平洋, 日本では相模湾, 土佐湾から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 種子島, 馬毛島に分布する. 三重県では熊野灘に分布し, 定置網で漁獲される. 背鰭・臀鰭軟条部の被鱗域は高さの1/3以下であること, 尾鰭が二重湾入形であること, 側線上に黒色あるいは光沢のある鱗が等間隔に並ぶことが特徴.

(笹木大地)



オオニベ *Argyrosomus japonicus*, FRLM 37362, 275 mm SL, 志摩市大王町波切

### クログチ属 Genus *Atrobucca* Chu, Lo & Wu 1963

#### クログチ

***Atrobucca nibe***  
(Jordan & Thompson 1911)

インドー西太平洋, 日本では房総半島から鹿児島県, 瀬戸内海, 東シナ海大陸棚域に分布する. 三重県では熊野灘から標本が得られている. 本種は口腔内が黒いこと, 胸鰭上半分が黒いことが特徴.

(笹木大地)



クログチ *Atrobucca nibe*, FRLM 38977, 334 mm SL, 熊野灘

### ニベ属 Genus *Nibea* Jordan & Thompson 1911

#### ニベ

***Nibea mitsukurii***  
(Jordan & Snyder 1900)

東シナ海から日本に分布する. 国内では新潟県から島根県浜田の日本海, 仙台湾から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種はコイチ *Nibea albiflora* (Richardson 1846) に似るが, 側線上方の斜帯は中断せず乱れないこと, 第1鰓弓の鰓耙数は22-27であること, 体の腹側は白っぽいことにより区別できる.

(笹木大地)



ニベ *Nibea mitsukurii*, FRLM 52896, 236 mm SL, 熊野市遊木町

南伊勢町沖熊野灘, 三重大学練習船勢水丸によるトロール採集, 2013年11月  
(木村清志撮影)



## シログチ属 Genus *Pennahia* Fowler 1926

### シログチ *Pennahia argentata* (Houttuyn 1782)

南シナ海から日本、韓国までの北西太平洋、日本では青森県から九州南岸、瀬戸内海、東シナ海に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘に分布する。本種はタイワンシログチ *Pennahia macrocephala* (Tang 1937) に似るが臀鰭第2棘長は眼径とほぼ同長であること、下顎先端部と下顎歯の内側に暗色斑がないか、あっても薄くて不明瞭であることで区別できる。また、鰓蓋に黒色斑があることも本種の特徴。  
(笹木大地)



シログチ *Pennahia argentata*, FRLM 37119, 173 mm SL, 志摩市阿児町安乗

## イサキ科 Family Haemulidae Gill 1885

## コロダイ属 Genus *Diagramma* Oken 1817

### コロダイ *Diagramma pictum* (Thunberg 1792)

モザンビーク海峡からフィジー、日本、ニューカレドニアに至るインド-西太平洋。日本では琉球列島から茨城県、新潟県に分布する。三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲されている。下顎にひげがない、背鰭 IX-X, 22-23。Johnson et al. (2001) はオーストラリア沿岸に生息する集団を *Diagramma pictum labiosum* Macleay 1883 とし、それ以外を *Diagramma pictum pictum* とした。しかし、最近の研究では *D. p. labiosum* を種に昇格させることが多いため、ここでもそれにしたかった。  
(木村清志)



コロダイ *Diagramma pictum*  
上 成魚, FRLM 56677, 203 mm SL  
志摩市志摩町御座沖  
下 幼魚, FRLM 57380, 23 mm SL  
英虞湾内座賀島

## イサキ属 Genus *Parapristipoma* Bleeker 1873

### イサキ *Parapristipoma trilineatum* (Thunberg 1793)

ベトナム北部、中国南シナ海、東シナ海沿岸、台湾、韓国、日本。日本では鹿児島県から宮城県、新潟県に分布。三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網、釣りなどで漁獲される。背鰭 XIII-XIV, 16-18, 体は黄緑褐色、体背側面に2条の淡色縦帯がある（不明瞭な場合も多い）。  
(木村清志)



イサキ *Parapristipoma trilineatum*, FRLM 56079, 192 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



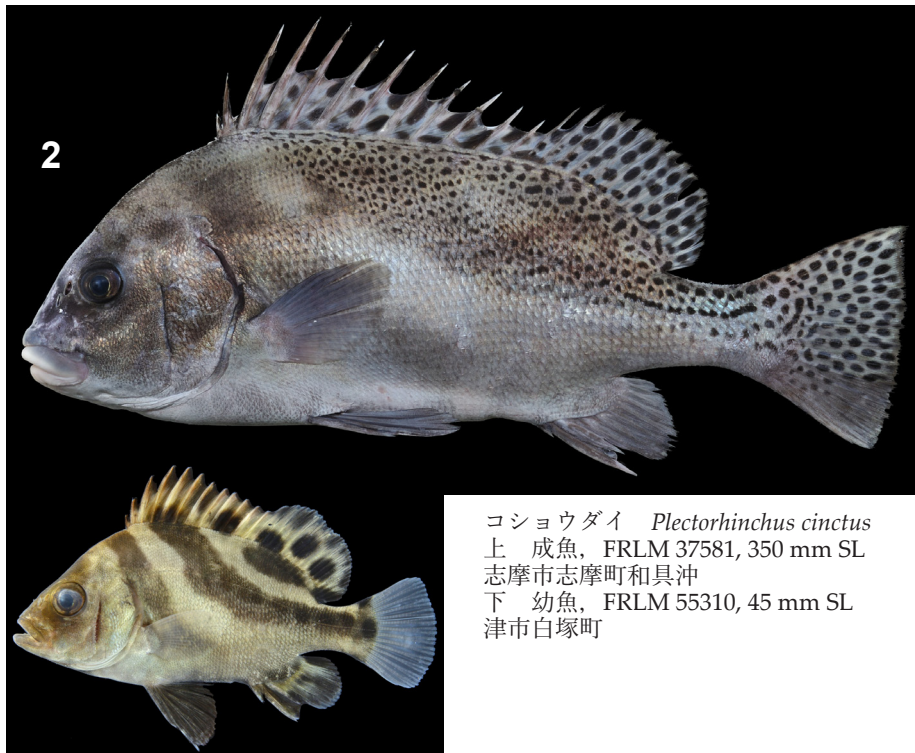
## コショウダイ属

Genus *Plectorhinchus* Lacepède 1801

## コショウダイ

*Plectorhinchus cinctus*  
(Temminck & Schlegel 1843)

ペルシャ湾からベトナム，中国南シナ海・東シナ海沿岸，日本に至るインドー西太平洋．日本では鹿児島県から青森県，新潟県に分布する．三重県では主に熊野灘の定置網などで漁獲される．幼魚は伊勢湾の河口域にもよく出現する．項部から胸鰭にかけて暗色斜走帯があり，その後方の体背側面や背鰭，尾鰭に暗色斑点がある．  
(木村清志)



コショウダイ *Plectorhinchus cinctus*  
上 成魚，FRLM 37581, 350 mm SL  
志摩市志摩町和具沖  
下 幼魚，FRLM 55310, 45 mm SL  
津市白塚町

## オシャレコショウダイ

*Plectorhinchus flavomaculatus*  
(Cuvier 1830)

紅海，アフリカ南岸，東岸から日本，オーストラリアに至るインドー西太平洋．日本では沖縄県から神奈川県に分布．三重県では南伊勢町からの記録がある．吻から鰓蓋部にかけて幅狭い橙黄色縦帯がある，体側面や背鰭に橙黄色斑点や斑点が繋がった斜線がある．  
(木村清志)

オシャレコショウダイ

*Plectorhinchus flavomaculatus*

上 成魚，南伊勢町賛浦

(久保典彦氏撮影)

下 幼魚，FRLM 20317, 60 mm SL

インドネシア



## クロコショウダイ

*Plectorhinchus gibbosus*  
(Lacepède 1802)

紅海，アフリカ南岸，東岸からソシエテ諸島，日本，ノーフォーク島に至るインドー太平洋．日本では琉球列島から千葉県に分布する．三重県では英虞湾内で採集された標本がある．背鰭 XIV, 15-16，体はほぼ一様に黒褐色，幼魚は尾鰭後半が白い．  
(木村清志)

クロコショウダイ

*Plectorhinchus gibbosus*

右上 幼魚，FRLM 43001, 119 mm SL

与論島

下 成魚，南伊勢町賛浦 (岡田 誠撮影)





**アジアコショウダイ**  
***Plectorhinchus picus***  
 (Cuvier 1828)

イエメン、マダガスカルからソシエテ諸島、日本、仏領ポリネシアに至るインドー太平洋。日本では琉球列島から相模湾。三重県では熊野市や南伊勢町で採集されている。頭部や体の地色は灰色で胸部、腹部を除き多くの黒斑が密に分布する。幼魚は体色が異なる。(木村清志)



4



アジアコショウダイ *Plectorhinchus pica*  
 上 成魚, FRLM 49238, 462 mm SL  
 熊野市須野町  
 左 未成魚, FRLM 61254, 270 mm SL  
 南伊勢町宿浦



**ムスジコショウダイ**  
***Plectorhinchus vittatus***  
 (Linnaeus 1758)

アフリカ東岸からソシエテ諸島、日本、ニューカレドニアに至るインドー太平洋。日本では琉球列島から神奈川県に分布する。三重県では尾鷲市で採集された。頭部や体に数本の暗色縦帯があり、腹部にも2, 3本の暗色縦帯がある、眼の直上の縦帯は左右が連続する。(木村清志)

5



ムスジコショウダイ *Plectorhinchus vittatus*  
 右上 幼魚, FRLM 20497, 130 mm SL, インドネシア  
 下 成魚, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

**ミゾイサキ属 Genus *Pomadasys* Lacepède 1802**

**スジミゾイサキ**  
***Pomadasys quadrilineatus***  
 Shen & Lin 1984

中国南シナ海沿岸から日本に至る北西太平洋。日本では沖縄県から神奈川県に分布する。三重県では尾鷲市の定置網で採集された。生鮮時体側に数本の黄色から黄褐色の縦帯がある。(木村清志)

5



スジミゾイサキ *Pomadasys quadrilineatus*, FRLM 33302, 101 mm SL, 尾鷲市



# マツダイ科 Family Lobotidae Gill 1861

## ヒゲダイ属 Genus *Hapalogenys* Richardson 1844

### シマセトダイ

*Hapalogenys kishinouyei*  
Smith & Pope 1906

フィリピン，台湾，中国東シナ海沿岸，日本．日本では鹿児島県から青森県に分布．三重県では南伊勢町から記録がある．下顎のひげは痕跡的，体側面に数本の暗色縦帯がある．  
(木村清志)

シマセトダイ *Hapalogenys kishinouyei*  
FRLM 45641, 337 mm SL, 南伊勢町



### ヒゲソリダイ

*Hapalogenys nigripinnis*  
(Temminck & Schlegel 1843)

中国南シナ海・東シナ海沿岸，台湾，韓国，日本．日本では鹿児島県から青森県に分布する．三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網，巻網などで漁獲されている．体側に暗色斜走帯がある，下顎のひげは痕跡的，主上顎骨に鱗がある．  
(木村清志)



ヒゲソリダイ *Hapalogenys nigripinnis*  
上 成魚，FRLM 61407, 345 mm SL  
御浜町阿田和  
左 稚魚，FRLM 51919, 11 mm SL  
英虞湾内座賀島

### ヒゲダイ

*Hapalogenys sennin*  
Iwatsuki & Nakabo 2005

韓国，日本．日本では鹿児島県から神奈川県，山形県に分布．三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲された．体はほぼ一様に暗色，下顎のひげは明瞭，主上顎骨は無鱗．  
(木村清志)

ヒゲダイ *Hapalogenys sennin*  
FRLM 46092, 157 mm SL  
志摩市志摩町御座



## マツダイ属 Genus *Lobotes* Cuvier 1829

### マツダイ *Lobotes surinamensis* (Bloch 1790)

東太平洋を除く世界中の熱帯から温帯域。国内でも北海道以南の太平洋沿岸，青森県以南の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海および南西諸島まで全国に分布する。三重県では熊野灘に分布し，伊勢湾でもみられる。本種は体高が高く側偏すること，鋤骨と口蓋骨に歯がないこと，前鰓蓋骨縁辺に鋸歯があること，主鰓蓋骨に2棘を持つこと等で特徴づけられる。  
(鈴木 啓)



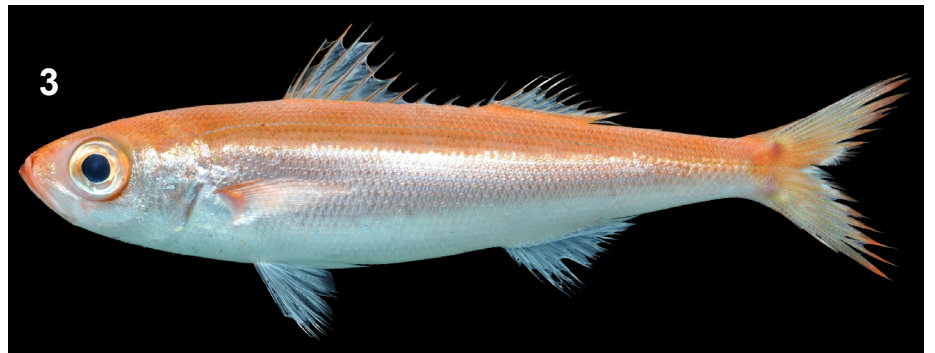
マツダイ *Lobotes surinamensis*, FRLM 54895, 56 mm SL, 英虞湾内座賀島

## ハチビキ科 Family Emmelichthyidae Poey 1867

### ロウソクチビキ属 Genus *Emmelichthys* Richardson 1845

#### ロウソクチビキ *Emmelichthys struhsakeri* Heemstra & Randall 1977

中央・西太平洋，日本では新潟県柏崎，兵庫県浜坂，山口県日本海側，青森県尻屋崎，茨城県から宮崎県の太平洋，東シナ海，八丈島，小笠原諸島，沖ノ島島，トカラ列島，奄美大島，琉球列島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。鰓腔後縁背方に1つの肉質突起があること，第1背鰭と第2背鰭は分離し，その間に2-3本の遊離棘があることが特徴。  
(笹木大地)



ロウソクチビキ *Emmelichthys struhsakeri*, FRLM 40331, 148 mm SL, 志摩市志摩町和具

## ハチビキ属 Genus *Erythrocles* Jordan 1919

#### ヒチビキ *Erythrocles microceps* Miyahara & Okamura 1998

西太平洋，日本では京都，兵庫県浜坂，土佐湾，日向灘，奄美大島，九州-パラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は鰓腔後縁背方に1つの肉質突起があること，第1背鰭と第2背鰭は接近することが特徴。  
(笹木大地)



ヒチビキ *Erythrocles microceps*, FRLM 61355, 130 mm SL, 熊野灘



**ハチビキ**  
***Erythrocles schlegelii***  
**(Richardson 1846)**

インドー西太平洋、日本では青森県下北半島、新潟県および千葉県館山湾から九州南岸の日本海・東シナ海、太平洋、小笠原諸島、琉球列島に分布する。本種は全長 20 cm 以上で尾柄に明瞭な隆起線があること、鰓腔後縁に 2 つの肉質突起があることが特徴。  
 (笹木大地)



ハチビキ *Erythrocles schlegelii*, FRLM 50690, 210 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**フエダイ科 Family Lutjanidae Gill 1861**

**イシフエダイ属 Genus *Aphareus* Cuvier 1830**

**イシフエダイ**  
***Aphareus furca***  
**(Lacepède 1801)**

紅海とインドー太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では主に種子島以南に分布するが相模湾、三重県、宮崎県からも記録がある。三重県では尾鷲市早田の定置網から標本が得られている。他のフエダイ科の種とは背鰭が鱗に覆われないこと、背鰭に深い欠刻がないこと、鋤骨に歯帯がないこと、上枝鰓耙数は通常 6 であること、生時の体色は暗青色で固定後は暗色であることで区別できる。  
 (武内 俊)



イシフエダイ *Aphareus furca*, FRLM 46880, 203 mm SL, 尾鷲市早田町

**オオグチイシチビキ**  
***Aphareus rutilans***  
**Cuvier 1830**

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域と東はハワイ諸島まで分布し、日本では太平洋側は相模湾と館山湾以南、日本海側は長崎県壱岐以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から標本が得られている。他のフエダイ科の種とは背鰭が鱗に覆われないこと、背鰭に深い欠刻がないこと、鋤骨に歯帯がないこと、上枝鰓耙数は通常 18 であること、生時の



オオグチイシチビキ *Aphareus rutilans*, FRLM 39799, 159 mm SL, 志摩市大王町波切  
 体色は淡褐色で固定後は明色であることで区別できる。  
 (武内 俊)

**アオチビキ属 Genus *Aprion* Valenciennes 1830**

**アオチビキ**  
***Aprion virescens***  
**Valenciennes 1830**

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域と東はハワイ諸島とマルキーズ諸島まで分布し、日本では太平洋側は静岡県以南、東シナ海側は男女群島以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のフエダイ科の種とは背鰭が鱗に覆われないこと、背鰭に深い欠刻がないこと、眼前部の鼻孔の下方に溝があることで区別できる。フエダイ科の中でも特に大型種。  
 (武内 俊)



アオチビキ *Aprion virescens*, FRLM 57385, 171 mm SL, 志摩市志摩町御座



## タカサゴ属 Genus *Caesio* Lacepède 1801

### ササムロ *Caesio caerulaurea* Lacepède 1801

アフリカ東岸からフレンチポリネシアに至るインドー太平洋に分布。国内では大隅諸島以南の南西諸島および小笠原諸島に多く生息するが、相模湾から鹿児島県にかけての太平洋沿岸でも見られる。三重県では熊野灘に分布する。本属は前上顎骨の後方突起が1個であること、体高が比較的高いことで特徴付けられ、尾鰭両葉の中央に黒色帯があること、側線上方に黄色縦帯があることにより、日本産同属のユメウメイロ



ササムロ *Caesio caerulaurea*, FRLM 57398, 155 mm SL, 志摩市志摩町御座

*Caesio cuning* (Bloch 1791), ハナタカ ムササギ *Caesio teres* Seale  
サゴ *Caesio lunaris* Cuvier 1830 およ 1906 と区別できる。(鈴木 啓)

## ヒメタカサゴ属 Genus *Dipterygonotus* Bleeker 1849

### ヒメタカサゴ *Dipterygonotus balteatus* (Valenciennes 1830)

アフリカ東岸からソロモン諸島にかけてのインドー西太平洋に広く分布し、国内では相模湾から鹿児島県までの太平洋沿岸および沖縄島から記録がある。三重県では熊野灘に分布する。本種は本科魚類の中でも体高が低く、背鰭が鱗に覆われないことでホソタカサゴ *Gymnocaesio gymnoptera* (Bleeker 1856) と類似するが、背鰭が14-15棘8-11軟条で



ヒメタカサゴ *Dipterygonotus balteatus*, FRLM 46321, 82 mm SL, 紀北町長島

あること、胸鰭が16-19軟条である ことにより区別できる。(鈴木 啓)  
こと、体側上半部が赤褐色であるこ

## ハマダイ属 Genus *Etelis* Cuvier 1828

### オオアカムツ *Etelis boweni* Andrews, Fernandez-Silva, Randall & Ho 2021

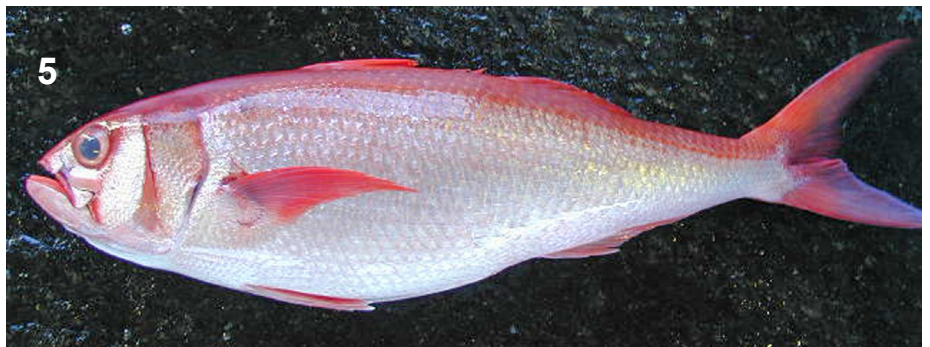
インドー西太平洋、日本では大隅諸島から記録されている。三重県では尾鷲市場に水揚げされた写真に基づく記録がある。この個体は主鰓蓋骨棘後端が円いことで本種に同定された。本種は尾鰭上葉先端が黒色であること、尾鰭下葉先端は白いこと、側線下方鱗数が12であることで同属他種と区別できる(ジョンほか, 2023)。(笹木大地)



オオアカムツ *Etelis boweni*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

### ハチジョウアカムツ *Etelis carbunculus* Cuvier 1828

インドー西太平洋の熱帯から温帯域とハワイ諸島とライン諸島、オーストラル諸島まで分布し、日本では主に伊豆諸島および奄美大島以南に分布するが、神奈川県以南の太平洋沿岸からも記録がある。三重県では志摩市志摩町和具から標本が得られている。同科他種とは背鰭が鱗に覆わ



ハチジョウアカムツ *Etelis carbunculus*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

れないこと、背鰭に深い欠刻がある こと、主上顎骨に鱗があること、尾鰭下葉先端は白いこと、主鰓蓋骨棘 後端が尖ること、側線下方鱗数が14 であることで区別できる(ジョンほか, 2023)。(武内 俊)



**オオクチハマダイ**  
*Etelis radiosus*  
 Anderson 1981

インドー西太平洋の東西はマスカリン諸島からカロリン諸島、南北は琉球列島からニューカレドニアまで分布し、日本では主に伊豆諸島、種子島以南に分布する。三重県では尾鷲市の定置網から標本が得られている。他のフエダイ科の種とは背鰭が鱗に覆われず深い欠刻があること、主上顎骨に鱗があること、尾鰭下葉先端は白くないこと、主上顎骨後端は眼の中央下かそれより後方であることで区別できる。（武内 俊）



オオクチハマダイ *Etelis radiosus*, FRLM 34379, 229 mm SL, 尾鷲市

**フエダイ属 Genus *Lutjanus* Bloch 1790**

**ゴマフエダイ**  
*Lutjanus argentimaculatus*  
 (Forsskal 1775)

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域と東はライン諸島まで分布し、日本では太平洋側は岩手県宮古市以南、日本海側は佐賀県唐津市以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から標本が得られている。背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、鋤骨に歯帯があること、第1鰹弓上枝の鰹耙数は20以下であること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は側線とほぼ平行に走ること、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しないこと、生時の体側に6-8本の暗色横帯がありその間隔は横帯の幅よりかなり狭いこと、背



ゴマフエダイ *Lutjanus argentimaculatus*, FRLM 62950, 301 mm SL, 尾鷲市

鰭軟条部および尾鰭は透明から淡赤 または淡水域に生息することも特徴。褐色であることで区別できる。汽水 徴。（武内 俊）

**ベンガルフエダイ**  
*Lutjanus bengalensis*  
 (Bloch 1790)

インドー西太平洋のインドからインドネシア、北は日本まで分布し、日本では神奈川県真鶴以南の太平洋沿岸と鹿児島県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある（木村ほか、2008）。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、鋤骨に歯帯があること、第1鰹弓上枝の鰹耙数は20以下であること、眼の中心は体軸より上方にあること、体側に4本の青白色縦帯（生時、固定後は暗色）があること、背鰭棘数は通常11であること、すべての鰭に暗色域がないことで区別できる。（武内 俊）



ベンガルフエダイ *Lutjanus bengalensis*, FRLM 33801, 123 mm SL, 尾鷲市

**バラフエダイ**  
***Lutjanus bohar***  
**(Fabricius 1775)**

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では静岡県沼津以南の太平洋沿岸と、鹿児島県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しないこと、体側下半部の鱗は体軸とほぼ平行に走ること、体側に顕著な縦帯がないこと、尾柄部に顕著な暗色または白色斑がないこと（ただし幼魚期の背鰭基底後端に白色斑がある）、体側に白色斑がないこと、眼前部に溝があり前・後鼻孔はその中に開孔することで区別できる。（武内 俊）



バラフエダイ *Lutjanus bohar*, FRLM 63346, 69 mm SL, 南伊勢町宿浦

**ニセクロホシフエダイ**  
***Lutjanus fulviflamma***  
**(Forsskal 1775)**

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では神奈川県以南の太平洋沿岸と鹿児島県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけてみられる。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出すること、体側後半部の側線上に1暗色斑があること、側頭部の鱗列数は通常4-5であることで区別できる。（武内 俊）



ニセクロホシフエダイ *Lutjanus fulviflamma*, FRLM 46371, 91 mm SL, 英虞湾内座賀島

**オキフエダイ**  
***Lutjanus fulvus***  
**(Forster 1801)**

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では相模湾以南の太平洋沿岸と鹿児島県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけてみられる。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しないこと、体側下半部の鱗は体軸とほぼ平行に走ること、体側に顕著な縦帯がないこと、尾柄部に顕著な暗色または白色斑がないこと（ただし幼魚期の第2背鰭後部基底に白色斑がある）、体側に白色斑がないこと、眼前部に顕著な溝がないこと、



オキフエダイ *Lutjanus fulvus*, FRLM 61685, 129 mm SL, 尾鷲市

体側に顕著な暗色斑がないこと、前 是暗色で後縁部は白色であることで  
 鰓蓋骨後縁の欠刻が深いこと、尾鰭 区別できる。（武内 俊）



**ヒメフェダイ**  
***Lutjanus gibbus***  
**(Forsskal 1775)**

紅海とインド-西太平洋の熱帯から温帯域と東はハワイ諸島とライン諸島まで分布し、日本では太平洋側は神奈川県佐島と千葉県館山湾以南、日本海側は福岡県津屋崎に分布する。三重県では熊野灘沿岸から標本が得られている。他のフェダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しないこと、体側下半部の鱗はほぼ斜め上方へ向かうこと、背鰭は通常10棘13-14軟条であること、臀鰭軟条数は通常8であることで区別できる。

(武内 俊)



ヒメフェダイ *Lutjanus gibbus*, FRLM 63338, 57 mm SL, 尾鷲市九鬼町

**ヨスジフェダイ**  
***Lutjanus kasmira***  
**(Fabricius 1775)**

紅海とインド-西太平洋の熱帯から温帯域と東はハワイ諸島とライン諸島、ピトケアン諸島まで分布し、日本では太平洋側は神奈川県早川以南、日本海側は富山湾以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のフェダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、鋤骨に歯帯があること、第1鰓弓上枝の鰓耙数は20以下であること、眼の中心は体軸より上方にあること、生時体側に4本の青白色（固定後は暗色）縦帯があること、背鰭棘数は通常10であること、背鰭外縁と尾鰭外縁、胸鰭上部は通常暗色であることで区別できる。

(武内 俊)



ヨスジフェダイ *Lutjanus kasmira*  
上 FRLM 63347, 92 mm SL  
南伊勢町宿浦  
下 FRLM 51088, 43 mm SL  
志摩市志摩町御座

**ヨコスジフェダイ**  
***Lutjanus ophuysenii***  
**(Bleeker 1860)**

フェダイ科の種では珍しく温帯性であり、西太平洋の中国南部と台湾、韓国、日本に分布する。日本では宮城県南三陸から九州南岸の太平洋沿岸、新潟県から九州西岸までの日本海と東シナ海沿岸に分布する。三重県では熊野灘沿岸でしばしば漁獲される。他のフェダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出すること、体側の側線下部に1黒色斑があることで区別できる。

(武内 俊)



ヨコスジフェダイ *Lutjanus ophuysenii*, FRLM 38855, 143 mm SL, 志摩市志摩町御座



**ロクセンフエダイ**  
***Lutjanus quinquelineatus***  
 (Bloch 1790)

インドー西太平洋の東西はソコトラ島とオマーン、ペルシャ湾からフィリピンとフィジーまで、南北は日本からニューサウスウェールズとロードハウ島まで分布し、日本では伊豆半島以南の太平洋沿岸と九州以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から標本が得られている。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、鋤骨に歯帯があること、第1鰓弓上枝の鰓耙数は20以下であること、眼の中心は体軸より上方にあること、生時体側に5本の青白色（固定後は暗色）縦帯があることで区別できる。

(武内 俊)

**キュウセンフエダイ**  
***Lutjanus rufolineatus***  
 (Valenciennes 1830)

インドー西太平洋の東西はモルディブからマーシャル諸島とサモア、南北は日本からノーザンテリトリーとクイーンズランドまで分布し、日本では千葉県波左間以南の太平洋沿岸と九州南岸以南に分布する。三重県では尾鷲市の定置網から標本が得られている。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しないこと、体側下半部の鱗は体軸とほぼ



ロクセンフエダイ *Lutjanus quinquelineatus*, FRLM 61399, 173 mm SL, 尾鷲市



キュウセンフエダイ *Lutjanus rufolineatus*, FRLM 62976, 84 mm SL, 尾鷲市

平行に走ること、体側に黄色縦帯があること、尾柄部と体側に白色斑がないこと、眼前部に顕著な溝がないこと、体側に顕著な暗色斑がないこ

と、前鰓蓋骨後縁の欠刻が深いこと、尾鰭は生時では黄色で固定後は淡色であることで区別できる。

(武内 俊)

**クロホシフエダイ**  
***Lutjanus russellii***  
 (Bleeker 1849)

西太平洋の東西はインドネシアとタイランド湾からフィリピン、サモア、トンガと南北は日本海南部からオーストラリア西部からクイーンズランドまで分布し、日本では太平洋側は宮城県万石浦以南、日本海側は山口県深川湾以南に分布する。三重県では主に熊野灘沿岸でみられるが伊勢湾からも標本が得られている。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出すること、体側後半部の側線上に1暗色斑があること、側頭部の鱗列数は通常1-2であることで区別できる。

(武内 俊)



クロホシフエダイ *Lutjanus russellii*, FRLM 42356, 96 mm SL, 英虞湾内座賀島

**センネンダイ**  
***Lutjanus sebae***  
**(Cuvier 1816)**

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本での主な分布は琉球列島および小笠原諸島だが太平洋側では三重県以南、日本海側では兵庫県香住以南から記録がある。三重県では志摩市片田の定置網から標本が得られている。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しないこと、体側下半部の鱗はほぼ斜め上方へ向かうこと、背鰭は通常11棘16軟条であること、臀鰭軟条数は通常10であることで区別できる。(武内 俊)



センネンダイ *Lutjanus sebae*, FRLM 58572, 535 mm SL, 志摩市志摩町片田

**フエダイ**  
***Lutjanus stellatus***  
**Akazaki 1983**

フエダイ科の中では、珍しく温帯域に多い種で北西太平洋のベトナム、中国、韓国、日本に分布し、太平洋側は茨城県以南、日本海側は京都府以南および瀬戸内海に分布する。南西諸島からも記録はあるが数は少ない。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のフエダイ科の種とは背鰭基部に鱗で覆われる部分があること、眼の中心は体軸より上方にあること、側線より上方の鱗列は斜め上後方へ向かうこと、鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しないこと、体側下半部の鱗は体軸とほぼ平行に走ること、体側上後半部に白色斑があることで区別できる。(武内 俊)



フエダイ *Lutjanus stellatus*, FRLM 60781, 190 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

**アオダイ属 Genus *Paracaesio* Bleeker 1874**

**ウメイロ**  
***Paracaesio xanthura***  
**(Bleeker 1869)**

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では太平洋側は神奈川県三崎以南、日本海側は京都府以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のフエダイ科の種とは尾鰭が深く二又し中央部後縁は切れ込むこと、体の地色は淡紫青色で体側上半部は幅広く黄色いこと、尾鰭は全体的に黄色であることで区別できる。(武内 俊)



ウメイロ *Paracaesio xanthura*, FRLM 53268, 121 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖



## ヒメダイ属 Genus *Pristipomoides* Bleeker 1852

### オオヒメ

#### *Pristipomoides filamentosus* (Valenciennes 1830)

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域と東はハワイ諸島とソシエテ諸島まで分布し、日本では太平洋側は神奈川県三浦半島以南、大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のフエダイ科の種とは側線有孔鱗数が60-65であること、生時の虹彩は薄黄色から暗黄色（固定後は淡色）であること、尾鰭後縁は赤っぽい（固定後は淡色）こと、頭部背面に暗青色から暗色の小斑点が多数ある（固定後は暗色）こと、後鼻孔と眼前縁の幅は瞳孔径とほぼ同じことで区別できる。（武内 俊）



オオヒメ *Pristipomoides filamentosus*, FRLM 63044, 373 mm SL, 尾鷲市早田町



オオヒメ頭部背面 FRLM 63044



ヒメダイ頭部背面 FRLM 65829

### ヒメダイ

#### *Pristipomoides sieboldii* (Bleeker 1855)

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域と東はハワイ諸島とソシエテ諸島まで分布し、日本では太平洋側は神奈川県以南、日本海側は山口県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のフエダイ科の種とは側線有孔鱗数が70-74であること、鋤骨齒帯中央部は後方へ伸びること、舌上に齒帯があることで区別できる。（武内 俊）



ヒメダイ *Pristipomoides sieboldii*, FRLM65829, 242 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

## クマササハナム口属 Genus *Pterocaesio* Bleeker 1876

### タカサゴ

#### *Pterocaesio digramma* (Bleeker 1864)

マレーシアからバヌアツにかけてのインドー西太平洋に分布する。国内では相模湾以南の太平洋・東シナ海沿岸、南西諸島および小笠原諸島で多く見られるが、若狭湾から山口県にかけての日本海沿岸からも記録がある。三重県では熊野灘に分布する。本種は体側上半部に2黄色縦帯があり体側中央付近の縦帯が側線の下方を走ること、尾鰭両葉の後端が暗色であることで同属他種と区別できる。（鈴木 啓）



タカサゴ *Pterocaesio digramma* 尾鷲市  
上 FRLM 42540, 94 mm SL  
下 FRLM 63610, 89 mm SL



**ニセタカサゴ**  
***Pterocaesio marri***  
**Schultz 1953**

アフリカ東岸からマルケサス諸島にかけてのインドー西太平洋に広く分布する。国内では相模湾以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島で見られ、京都府若狭湾（Hata and Kai, 2019）および山口県（園山ほか, 2020）の日本海沿岸からも記録がある。三重県では熊野灘に分布する。本種は同属のタカサゴと類似するが、体側中央付近の縦帯が側線上を走ることで区別できる。

（鈴木 啓）

**クマササハナムロ**  
***Pterocaesio tile***  
**(Cuvier 1830)**

アフリカ東岸からピトケアン諸島にかけてのインドー太平洋。国内では三重県以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島にかけて分布する。本種は尾鰭両葉の中央部に暗色帯があることで同属他種と区別できる。またこの特徴はササムロと類似するが、本種は体高が比較的低く細長いこと、前上顎骨の後方突起が2

**イッセンタカサゴ**  
***Pterocaesio trilineata***  
**Carpenter 1987**

アフリカ東岸からフィジーにかけてのインドー西太平洋に広く分布する。国内では南西諸島で見られ、神奈川県、宮崎県および鹿児島県の太平洋沿岸、山口県日本海沿岸（園山ほか, 2020）からも記録がある。三重県では熊野灘に分布し、本科魚類では最も普通にみられる。本種は同属のタカサゴやニセタカサゴと類似するが、体側上半部に2-3本の黄緑色縦帯があること、上部尾柄周囲鱗列数が通常11であること、側線有



ニセタカサゴ *Pterocaesio marri*, FRLM 63255, 184 mm SL, 御浜町阿田和



クマササハナムロ *Pterocaesio tile*, FRLM 42137, 109 mm SL, 志摩市志摩町御座(英虞湾)

個であることで区別できる。

（鈴木 啓）



イッセンタカサゴ *Pterocaesio trilineata*, FRLM 63312, 194 mm SL, 御浜町阿田和

孔鱗数が62-72であることで区別できる。

（鈴木 啓）

**バケアカムツ属 Genus *Randallichthys* Anderson, Kami & Johnson 1970**

**バケアカムツ**  
***Randallichthys filamentosus***  
**(Fourmanoir 1970)**

西・中央太平洋、日本では伊豆・小笠原諸島、琉球列島、沖ノ島島から記録されている。三重県からは南伊勢町奈屋浦沖で採集された記録がある（Suzuki et al., 1994）。本種は主上顎骨に鱗がないこと、胸鰭長は腹鰭長とほぼ同じか、それより短いこと、腹鰭下部が暗色であること、臀鰭軟条数が通常9であることが特徴。

（笹木大地）



バケアカムツ *Randallichthys filamentosus*, FRLM 45094, 319 mm SL, 沖縄県



## イトヒキフエダイ属 Genus *Symphorus* Günther 1872

### イトヒキフエダイ *Symphorus nematophorus* (Bleeker 1860)

インド洋南東部および西太平洋、日本では熊野灘から日向灘の太平洋、薩摩半島沿岸、大隅諸島以南に分布する。三重県からは日比野・長野（2020）が写真に基づく記録を報告している。本種は体高が高くイレズミフエダイ *Symphorichthys spilurus* (Günther 1874) に類似するが、尾柄部に暗色斑がないこと、頭部に縦線がないか、あっても中断しないこと、成魚の吻部外郭は丸いことで区別できる。（笹木大地）



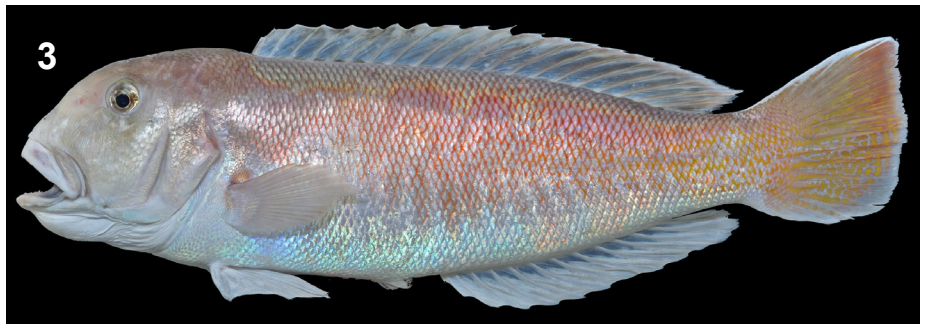
イトヒキフエダイ *Symphorus nematophorus*, 尾鷲市（長野 淳氏撮影）

## アマダイ科 Family Latilidae Gill 1862

## アマダイ属 Genus *Branchiostegus* Rafinesque 1815

### シロアマダイ *Branchiostegus albus* Dooley 1978

中国、台湾、韓国などの東シナ海沿岸に分布。日本では福井県以南の日本海・東シナ海沿岸、茨城県、神奈川県、三重県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海から記録がある。背鰭に暗色斑がなく、背鰭前方の背中線は黒くない、眼の周辺部に模様はなく、頬部の鱗は小さく大きさが揃っている。眼径は両眼間隔より小さく、生時尾鰭に黄色横帯があることで日本産同属他種と区別できる。アマダイ

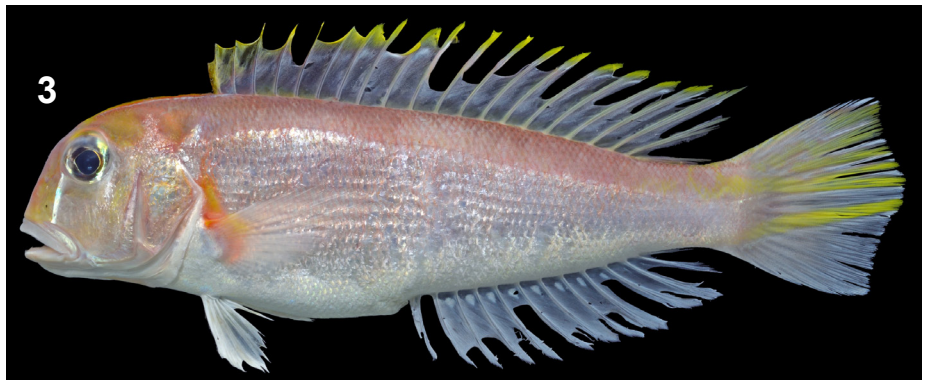


シロアマダイ *Branchiostegus albus*, FRLM 39929, 401 mm SL, 志摩市志摩町御座（英虞湾）

属魚類のなかでは沿岸のやや浅瀬を好む傾向がある。味が良く市場価値が非常に高い。三重県では熊野灘沿岸域で漁獲されている。（宿女太志）

### キアマダイ *Branchiostegus auratus* (Kishinouye 1907)

中国、台湾、韓国などの東シナ海沿岸に分布。日本では福井県、島根県、山口県の日本海沿岸、長崎県、千葉県以南の太平洋沿岸から記録がある。背鰭前方の背中線は黒く、背鰭に黒斑がなく、生時眼下に1本の銀白色線があり、頬部の鱗は皮下に埋没せず明瞭、胸鰭と尾鰭の上縁は黒くないことで日本産同属他種と区別することができる。日本産同属他種と比較するとあまり大きくならず、漁獲量が極めて少ない。三重県



キアマダイ *Branchiostegus auratus*, FRLM 64598, 190 mm SL, 熊野灘

では熊野灘沿岸域で稀に漁獲される。（宿女太志）



**アカアマダイ**  
***Branchiostegus japonicus***  
 (Houttuyn 1782)

中国、台湾、韓国などの東シナ海沿岸に分布。日本では青森県以南の日本海・東シナ海沿岸、茨城県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海から記録がある。背鰭前方の背中線は黒く、生時眼後下縁に銀白色の三角形斑があり、頬部の鱗は皮下に埋没し不明瞭であることで日本産同属他種と区別することができる。近年東シナ海での漁獲量が減少し、中国からの輸入



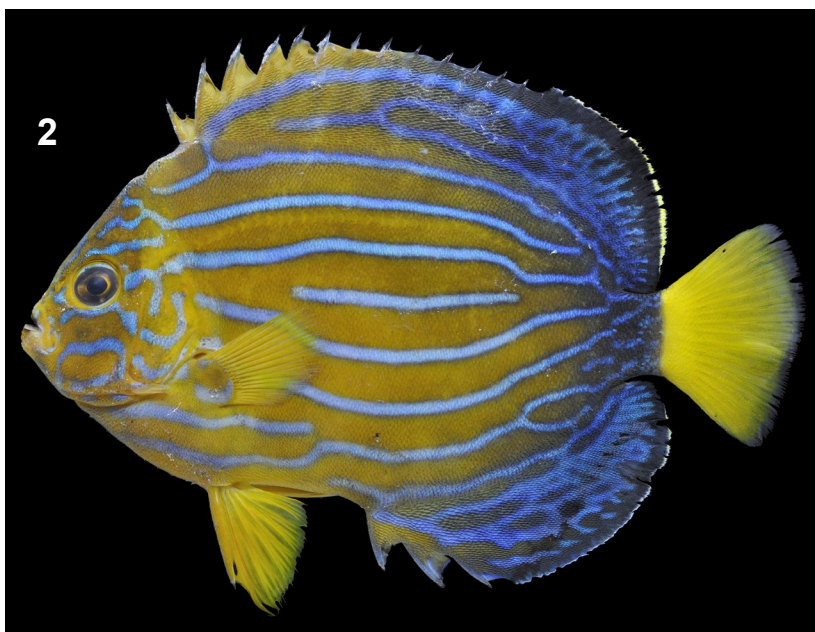
アカアマダイ *Branchiostegus japonicus*, FRLM 65126, 241 mm SL, 御浜町阿田和沖  
 量が増加している。三重県では熊野 灘沿岸域で漁獲される。(宿女太志)

**キンチャクダイ科 Family Pomacanthidae Jordan & Evermann 1898**

**キンチャクダイ属 Genus *Chaetodontoplus* Bleeker 1876**

**キンチャクダイ**  
***Chaetodontoplus septentrionalis***  
 (Temminck & Schlegel 1844)

宮城県以南の太平洋沿岸、山形県以西の日本海および瀬戸内海（河野ほか、2018）に分布。国外では朝鮮半島南部、台湾および中国からベトナムに分布。体の地色はくすんだ黄色で体側に10本前後の青色縦帯をもつ。頭部の青色帯は網目状。尾鰭は黄色。本種を含むキンチャクダイ科魚類は前鰓蓋骨の隅角部に強大な1棘をもつ。未成魚では体の地色は黒色で、背鰭始部から腹鰭にかけて黄色横帯をもつという成魚とは全く異なる色彩をもつ。本種は本科魚類の中では温帯域の環境によく適応した種で、三重県では成魚がエビ網漁などで混獲される。(松尾 怜)



キンチャクダイ *Chaetodontoplus septentrionalis*, FRLM 45720, 97 mm SL  
 志摩市志摩町御座

**“アカネキンチャクダイ”**  
***Chaetodontoplus septentrionalis***  
 ×  
***Chaetodontoplus melanosoma***

神奈川県三浦半島から宮崎県の太平洋沿岸。体の地色は濃褐色。頭部の地色はくすんだ黄色で網目状の青色帯をもつ。尾鰭は黄色。未成魚の色彩は知られていない。なお、本種はキンチャクダイ *Chaetodontoplus septentrionalis* (Temminck & Schlegel 1844) とキヘリキンチャクダイ *Chaetodontoplus melanosoma* (Bleeker 1853) の交雑個体であることが強く示唆されている。(松尾 怜)



“アカネキンチャクダイ” *Chaetodontoplus septentrionalis* X *Chaetodontoplus melanosoma*  
 FRLM 27103, 123 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



## サザナミヤッコ属 Genus *Pomacanthus* Lacepède 1802

### タテジマキンチャクダイ *Pomacanthus imperator* (Bloch 1787)

インドー西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では青森県、茨城県以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。成魚の体側には黄色と青色の斜走帯が交互に並ぶが、未成魚の体の地色は濃青色で体側には同心円状の白色帯が多数並ぶ。本科魚類としては大型で体長 40 cm に達する。三重県では熊野灘以南の岩礁域で主に未成魚が見られるが、稀に成魚が採集されることもある。美しい色彩から観賞魚として人気がある。(松尾 怜)



タテジマキンチャクダイ *Pomacanthus imperator*, FRLM 45547, 237 mm SL, 熊野市

### サザナミヤッコ *Pomacanthus semicirculatus* (Cuvier 1831)

インドー西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、壱岐、五島列島、鹿児島県北薩、南西諸島および小笠原諸島。体の地色は緑がかった黄色で体側には濃青色の斑点が密に並ぶ。背鰭と臀鰭の一部の軟条は後方へ糸状に伸長する。未成魚では体の地色は濃青色で体側には弧状の白色帯が多数並ぶ。体長 40 cm に達する大型種。三重県では熊野灘以南の岩礁域で主に未成魚が見られるが、稀に成魚が採集されることもある。美しい色彩から観賞魚として人気がある。(松尾 怜)



サザナミヤッコ *Pomacanthus semicirculatus*, FRLM 63256, 342 mm SL, 御浜町阿田和

## チョウチョウオ科 Family Chaetodontidae Rafinesque 1815

## チョウチョウオ属 Genus *Chaetodon* Linnaeus 1758

### カガミチョウチョウオ *Chaetodon argentatus* Smith & Radcliffe 1911

フィリピン、ベトナム、台湾、日本の西太平洋。日本では琉球列島から相模湾、伊豆諸島、小笠原諸島に分布する。三重県では紀北町の熊野灘で採集された。体側に網目状の模様があり、眼をとる黒色横帯のほか体に3本の幅広い黒色横帯がある。(木村清志)



カガミチョウチョウオ *Chaetodon argentatus*, FRLM 43144, 94 mm SL, 与論島



**トゲチヨウチヨウウオ**  
***Chaetodon auriga***  
**Forsskal 1775**

インドー太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。日本国内では岩手県以南の太平洋沿岸，兵庫県以西の日本海，南西諸島および小笠原諸島に分布。体側の前半部に右上がりの，後半部に右下がりの斜走帯が多数並ぶ。成魚では背鰭軟条の一部が後方へ糸状に伸長する。三重県では夏から秋にかけて主に未成年が死滅回遊魚として出現する。鮮やかな色彩で観賞魚として人気がある。

(松尾 怜)

トゲチヨウチヨウウオ

*Chaetodon auriga*

上 FRLM 62993, 131 mm SL, 尾鷲市

下 FRLM 61773, 48 mm SL

熊野市二木島町



**チヨウチヨウウオ**  
***Chaetodon auripes***  
**Jordan & Snyder 1901**

西太平洋の熱帯域から温帯域に分布。国内では宮城県以南の太平洋沿岸，津軽海峡以南の日本海，南西諸島および小笠原諸島。体の地色は黄色で多数の暗色縦帯が体軸と平行に並ぶ。眼をとる黒色横帯をもちその直後に白色横帯をもつ。未成年は背鰭軟条部に黒斑をもつが，成魚では消失する。本種は温帯域で越冬可能な数少ないチヨウチヨウウオ属魚類で，三重県ではタイドプールなどでしばしば未成年が出現するほか，成魚はエビ網漁などで混獲される。

(松尾 怜)



チヨウチヨウウオ *Chaetodon auripes*

上 FRLM 39961, 121 mm SL

志摩市志摩町和具沖

下 FRLM 53270, 59 mm SL

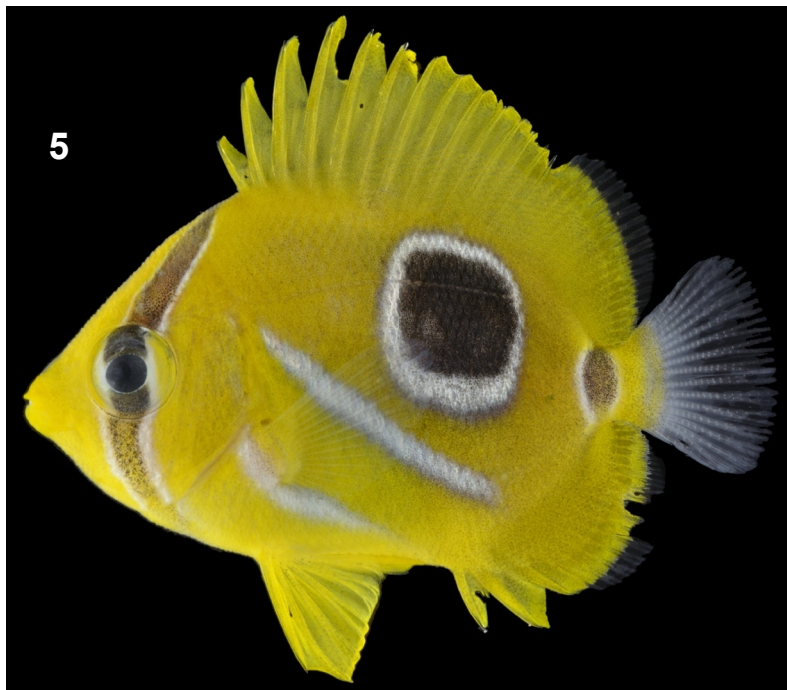
志摩市志摩町越賀



**ウミヅキチョウチョウウオ**  
***Chaetodon bennetti***  
**Cuvier 1831**

インドー西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では千葉県房総半島以南の太平洋沿岸，南西諸島。体の地色は黄色。体側上方に水色に縁どられた黒色斑をもつほか，鰓蓋上部から臀鰭基底にかけて2本の水色の斜走帯をもつ。三重県からは英虞湾内でトリクチス期稚魚の標本が得られている。観賞魚として流通するが，自然下では主にサンゴのポリプを摂餌しているため餌付けが困難であり飼育は難しい。（松尾 怜）

ウミヅキチョウチョウウオ  
*Chaetodon bennetti*, FRLM 53557  
 20 mm SL, 和歌山県



**セグロチョウチョウウオ**  
***Chaetodon ephippium***  
**Cuvier 1831**

東インド洋から太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では茨城県以南の太平洋沿岸，南西諸島および小笠原諸島。体の地色は灰色で，体側の上後半部に前方および下方が白く縁どられた黒色域をもつ。トゲチョウチョウウオと同様，成魚では背鰭軟条の一部が後方へ糸状に伸長する。本属魚類としては大型に成長し，最大で体長 30 cm に達する。三重県では夏から秋にかけて主に未成魚が死滅回遊魚として出現する。（松尾 怜）

セグロチョウチョウウオ  
*Chaetodon ephippium*, FRLM 31588  
 38 mm SL, 英虞湾内座賀島



**コクテンカタギ**  
***Chaetodon guentheri***  
**Ahl 1923**

日本，台湾，ニューギニア島東部からオーストラリア東岸までの西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では千葉県房総半島以南の太平洋沿岸，南西諸島および小笠原諸島。体側に黒小斑点が並ぶことでゴマチョウチョウウオ *Chaetodon citrinellus* Cuvier 1831 と類似するが，臀鰭の縁辺に黒色域をもたないことで区別できる。（松尾 怜）

コクテンカタギ  
*Chaetodon guentheri*, FRLM 34510  
 91 mm SL, 尾鷲市





ミゾレチヨウチヨウウオ  
*Chaetodon kleinii*  
Bloch 1790

紅海とアラビア海を除くインドー太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では千葉県房総半島以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島に分布。体側の前半部の地色は白色で幅広の褐色横帯をもつ。体側の後半部の地色はくすんだ黄色。三重県沿岸では岩礁性海岸などで主に未成魚が見られる。チヨウチヨウウオ属魚類としては雑食傾向が強い。

(松尾 怜)

ミゾレチヨウチヨウウオ  
*Chaetodon kleinii*, FRLM 45669  
50 mm SL, 南伊勢町

ニセフウライチヨウチヨウウオ  
*Chaetodon lineolatus*  
Cuvier 1831

インドー太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では福島県以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。和名に反してあまりフウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon vagabundus* Linnaeus 1758 には似ておらず、むしろヒメフウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon oxycephalus* Bleeker 1853 に類似するが、背鰭軟条数が 25-27 であること（ヒメフウライチヨウチヨウウオでは 23-24）、頂部と眼上部の黒色帯は連続すること（vs. 連続しない）などから区別される。本属魚類としては大型に成長し最大で体長 36 cm に達する。三重県では夏から秋にかけて未成魚が死滅回遊魚として出現するが稀。

(松尾 怜)

チヨウハン  
*Chaetodon lunula*  
(Lacepède 1802)

インドー太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、山口県日本海側、南西諸島および小笠原諸島。体の地色は黄色で体側に暗色の斜走帯が多数並ぶ。眼をとる黒色帯をもち、その後方に白色帯をもつ。胸鰭の上方に幅広の黒色斜帯をもつ。未成魚では背鰭軟条部に眼状斑をもつが、成魚では消失する。三重県では夏から秋にかけて主に未成魚が死滅回遊魚として出現するが、チヨウチヨウウオやトゲチヨウチヨウウオと比較すると数は少ない。

(松尾 怜)

チヨウハン *Chaetodon lunula*  
FRLM 53664, 55 mm SL  
英虞湾内座賀島



ニセフウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon lineolatus*, FRLM 53538, 28 mm SL  
英虞湾内座賀島

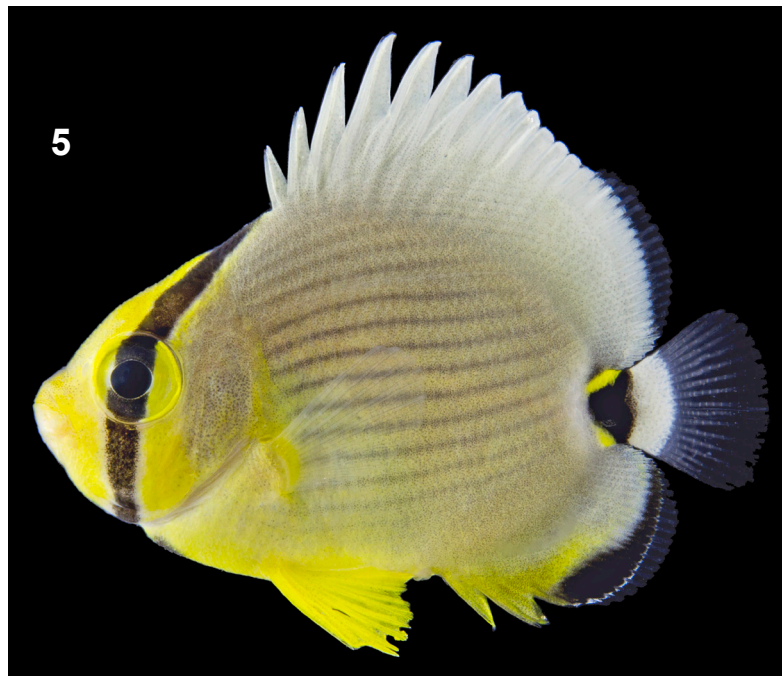




**ミスジチヨウチヨウウオ**  
***Chaetodon lunulatus***  
**Quoy & Gaimard 1825**

東インド洋から西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では千葉県房総半島以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。体の地色はクリーム色で体側に紫色の斜走帯が多数並ぶ。頂部から眼をとる黒色横帯をもつほか、背鰭および臀鰭の軟条部の基底、および尾鰭に黄色に縁どられた黒色帯をもつ。観賞魚として流通するがポリプ食性が強く飼育は難しい。(松尾 怜)

ミスジチヨウチヨウウオ  
*Chaetodon lunulatus*, FRLM 53531  
 20 mm SL, 英虞湾内座賀島



**アケボノチヨウチヨウウオ**  
***Chaetodon melannotus***  
**Bloch & Schneider 1801**

インドー太平洋の熱帯から亜熱帯域に分布。国内では千葉県房総半島以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。体の地色は白色で右上がりの斜走帯が多数並ぶ。吻部から後頭部、背鰭、臀鰭、尾鰭の前半および腹鰭は黄色。三重県では夏から秋にかけて主に未成年が死滅回遊魚として出現する。(松尾 怜)

アケボノチヨウチヨウウオ  
*Chaetodon melannotus*, FRLM 42233  
 57 mm SL, 英虞湾内座賀島



**シラコダイ**  
***Chaetodon nippon***  
**Steindachner & Döderlein 1883**

千葉県房総半島以南の太平洋沿岸、屋久島および小笠原諸島に分布。国外では台湾およびフィリピンから知られる。体の地色はくすんだクリーム色で、背鰭軟条部から尾柄部をとおり臀鰭軟条部に至る暗色帯をもつ。本属魚類の中では珍しく温帯性が強く、琉球列島では稀。三重県では熊野灘沿岸で見られ、成魚はエビ網漁などで混獲される。

(松尾 怜)

シラコダイ *Chaetodon nippon*  
 FRLM 60897, 108 mm SL  
 志摩市志摩町越賀沖





**スミツキトノサマダイ**  
***Chaetodon plebeius***  
**Cuvier 1831**

西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では駿河湾以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。体の地色は黄色で体側上方に淡青色の楕円斑をもつほか、尾柄部に白く縁どられた黒色斑をもつ。臀鰭棘は4本。三重県からはトリクチス期の稚魚の標本が得られている。

(松尾 怜)

スミツキトノサマダイ  
*Chaetodon plebeius*, FRLM 53556  
 25 mm SL, 和歌山県

**アミチョウチョウウオ**  
***Chaetodon rafflesii***  
**Anonymous [Bennett] 1830**

東インド洋から中央太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では相模湾以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。体の地色は明るい黄色で体側に暗色の網目模様をもつ。頂部から眼をとる黒色横帯をもつほか、尾鰭にも黒色横帯をもつ。三重県では夏から秋にかけて未成魚が死滅回遊魚として出現するが稀。

(松尾 怜)

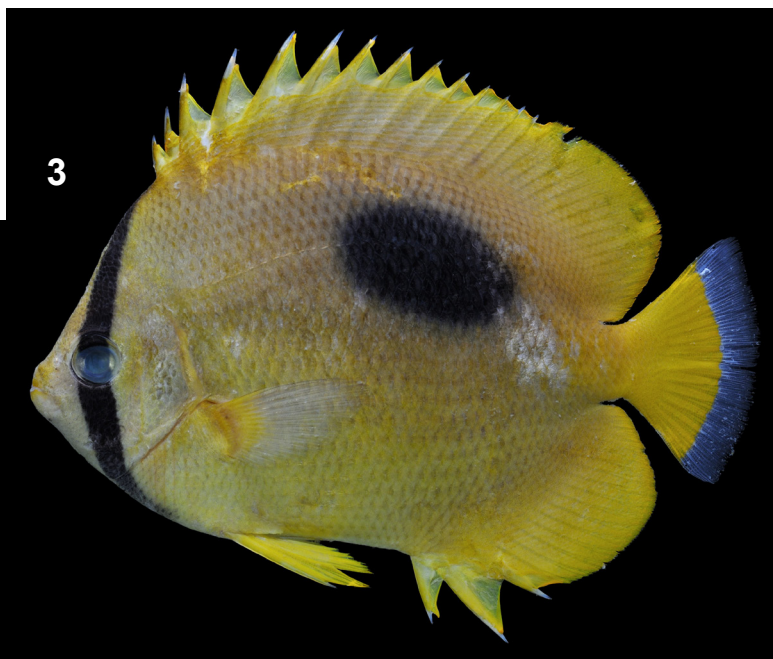
アミチョウチョウウオ  
*Chaetodon rafflesii*, FRLM 55442  
 25 mm SL, 英虞湾内座賀島

**トノサマダイ**  
***Chaetodon speculum***  
**Cuvier 1831**

インドー西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では相模湾以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。体の地色は黄色で体側上半部に大きな黒色斑をもつほか、頭部に眼をとる黒色横帯をもつ。三重県では夏から秋にかけて主に未成魚が死滅回遊魚として出現する。

(松尾 怜)

トノサマダイ *Chaetodon speculum*  
 左 FRLM 57342, 20 mm SL, 英虞湾内座賀島  
 右 FRLM 35864, 95 mm SL, 尾鷲市

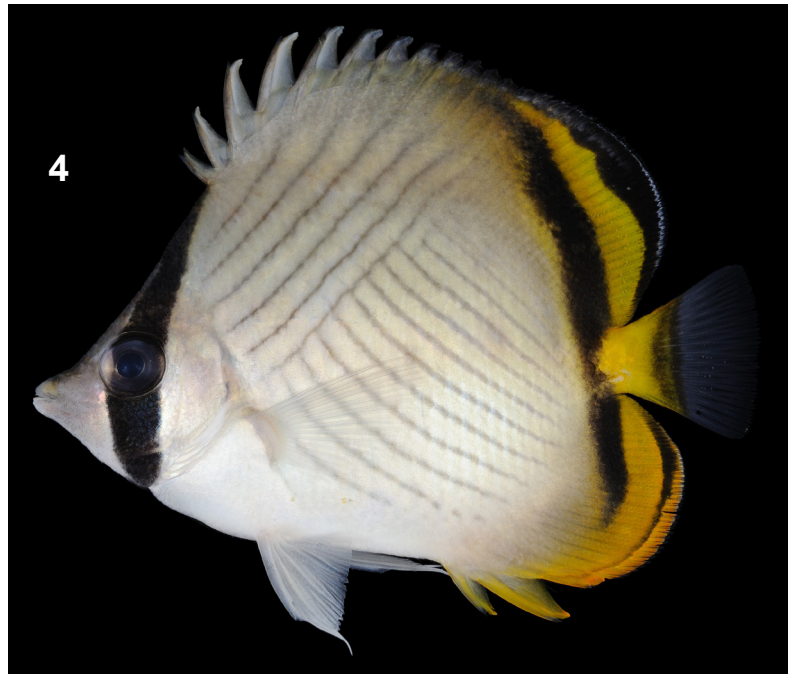




**フウライチョウチョウウオ**  
***Chaetodon vagabundus***  
**Linnaeus 1758**

インドー太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では千葉県房総半島以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。体の地色は白色で、背鰭と臀鰭の軟条部および尾鰭は黄色。体側の前半部に右上がりの、後半部に右下がりの斜走帯が多数並ぶことでトゲチョウチョウウオ *Chaetodon auriga* Forsskal 1775 と類似するが、背鰭軟条部の基底から尾柄部をとり臀鰭基底に達する黒色帯をもつこと、背鰭軟条が糸状に伸長しないことで区別できる。三重県では夏から秋にかけて主に未成年が死滅回遊魚として出現する。

(松尾 怜)



フウライチョウチョウウオ *Chaetodon vagabundus*, FRLM 62953, 53 mm SL  
 熊野市二木島町

**ツキチョウチョウウオ**  
***Chaetodon wiebeli***  
**Kaup 1863**

朝鮮半島南岸、台湾からタイランド湾までの南シナ海。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、山口県以西の日本海および南西諸島。体の地色は黄色で体側に暗色の斜走帯が多数並ぶ。チョウチョウウオ *Chaetodon auripes* Jordan & Snyder 1901 と色彩が類似するが、本種は体側の暗色帯は斜走すること（チョウチョウウオでは体軸と並行）、頭部の白色横帯は鰓蓋の上方で折れ曲がること（vs. 折れ曲がらない）、尾鰭に黒色横帯をもつこと（vs. 黒色横帯をもたない）などから区別される。

(松尾 怜)

ツキチョウチョウウオ  
*Chaetodon wiebeli*, FRLM 61238  
 102 mm SL, 南伊勢町宿浦



**ハタタテダイ属 Genus *Heniochus* Cuvier 1816**

**ハタタテダイ**  
***Heniochus acuminatus***  
**(Linnaeus 1758)**

インドー太平洋の熱帯域から温帯域に分布。日本国内では青森県以南の太平洋沿岸、富山県以西の日本海から東シナ海、瀬戸内海（河野ほか、2018）、南西諸島および小笠原諸島。本種を含むハタタテダイ属魚類は背鰭第4棘が伸長することで他のチョウチョウウオ科魚類から区別される。岩礁域から内湾の砂泥域、汽水域まで幅広い環境に出現する。三重県では主に未成年が見られるが、時折成魚も採集されている。

(松尾 怜)



ハタタテダイ *Heniochus acuminatus*  
 左 FRLM 52153, 46 mm SL, 英虞湾内座賀島  
 右 FRLM 61763, 143 mm SL, 熊野市二木島町



**ミナミハタタテダイ**  
***Heniochus chrysostomus***  
**Cuvier 1831**

西太平洋の熱帯から亜熱帯域に分布。国内では相模湾以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島。頭部から眼をとおり腹鰭先端まで至る幅広の斜走帯をもつことで日本産の同属他種から区別される。未成魚では臀鰭軟条部に眼状斑をもつが、成魚では消失する。三重県では熊野灘沿岸で未成魚が稀に見られる。観賞魚として流通するが、ポリプ食性が強く飼育は難しいとされる。

(松尾 怜)



ミナミハタタテダイ  
*Heniochus chrysostomus*  
 FRLM 53243, 37 mm SL  
 英虞湾内座賀島

**ムレハタタテダイ**  
***Heniochus diphreutes***  
**Jordan 1903**

インドー太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では千葉県房総半島から鹿児島県までの太平洋沿岸、山口県以西の日本海および東シナ海、南西諸島および小笠原諸島。ハタタテダイに酷似するが、背鰭棘数は通常12本であること〔ハタタテダイ *Heniochus acuminatus* (Linnaeus 1758) では11本〕、臀鰭の黒色域は最長軟条まで及ぶこと (vs. 及ばない)、胸部の輪郭は丸みを帯びること (vs. 直線状) などから区別される。和名のとおり群れて生活していることが多く、ときに数百匹を超える大群をつくることもある。(松尾 怜)

ムレハタタテダイ *Heniochus diphreutes*  
 左 FRLM 42565, 142 mm SL, 尾鰭市  
 右 FRLM 55765, 51 mm SL  
 英虞湾内座賀島



**オニハタタテダイ**  
***Heniochus monoceros***  
**Cuvier 1831**

アフリカ東岸からピトケアン諸島、日本、オーストラリア、仏領ポリネシアに至るインドー太平洋。日本では琉球列島から神奈川県、小笠原諸島に分布する。三重県では志摩市沖の熊野灘で採集された。眼をとおり暗色横帯は背鰭第2あるいは3棘から下顎に至る。(木村清志)

オニハタタテダイ *Heniochus monoceros*  
 FRLM 65173, 132 mm SL, 小笠原諸島

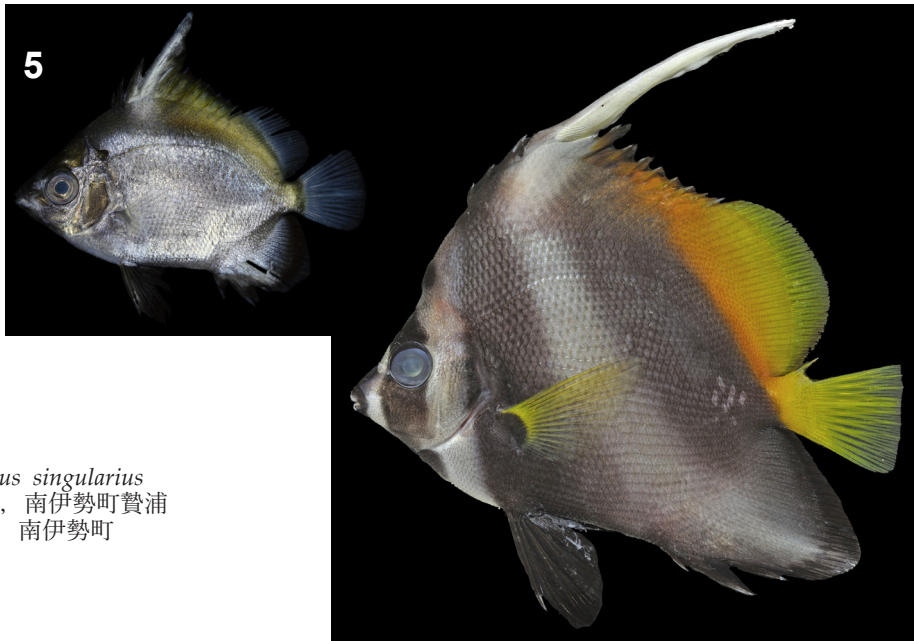




**シマハタタテダイ**  
***Heniochus singularius***  
**Smith & Radcliffe 1911**

東インド洋から西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では神奈川県以南の太平洋沿岸、南西諸島。眼をとる黒色横帯は頭部腹面まで達することにより日本産同属他種から区別される。成魚では後頭部の突起が発達する。熱帯性が強く、三重県を含む本州太平洋沿岸における記録は稀。(松尾 怜)

シマハタタテダイ *Heniochus singularius*  
 左 FRLM 61233, 34 mm SL, 南伊勢町賛浦  
 右 FRLM 45668, 67 mm SL, 南伊勢町

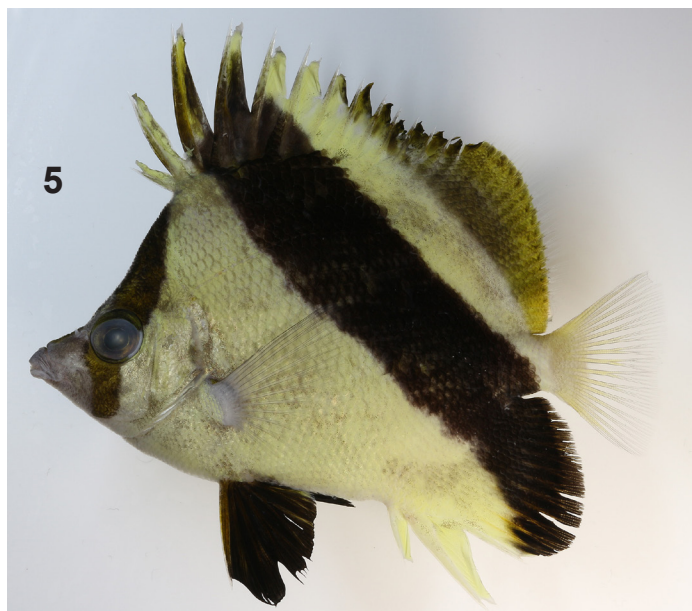


**ウラシマチョウチョウウオ属 Genus *Prognathodes* Gill 1862**

**ウラシマチョウチョウウオ**  
***Prognathodes guyotensis***  
**(Yamamoto & Tameka 1982)**

熊野灘、東シナ海および九州・パラオ海嶺から記録がある。国外ではモルディブおよびニューカレドニアから知られる。身体の色は淡い黄色で、背鰭棘条部から体側を横切り臀鰭軟条部に至る幅広の黒色斜帯がある。水深 100 m 以深の深場に生息する稀種。三重県からは熊野灘の水深 140 m で底曳網によって混獲された標本が得られている(饗場・遠藤, 2023)。(松尾 怜)

ウラシマチョウチョウウオ  
*Prognathodes guyotensis*, BSKU 133193  
 90 mm SL, 熊野灘



**ゲンロクダイ属 Genus *Roa* Jordan 1923**

**ゲンロクダイ**  
***Roa modesta***  
**(Temminck & Schlegel 1844)**

津軽海峡以南の太平洋および日本海沿岸、瀬戸内海および沖縄島に分布。国外では朝鮮半島南岸、台湾および中国沿岸に分布。体側に幅広の茶褐色横帯を2本もつほか、背鰭軟条部に黒色斑をもつ。本科魚類では珍しい温帯種で、やや深場の岩礁帯や砂泥底に生息する。(松尾 怜)

ゲンロクダイ *Roa modesta*, FRLM 50663  
 115 mm SL, 南伊勢町





## ヒイラギ科 Family Leiognathidae Gill 1893

### ウケグチヒイラギ属 Genus *Deveximentum* Fowler 1904

#### ホソウケグチヒイラギ *Deveximentum indicium* (Monkolprasit 1973)

タイランド湾からインドネシア、日本までの西太平洋に分布。国内では土佐湾および宮崎、鹿児島各県の九州太平洋沿岸から記録がある（幸ほか、2021）。三重県では志摩市御座、南伊勢町宿浦、尾鷲市から標本が得られた。本属魚類は口が前上方に伸出することで特徴付けられ、頬部に鱗がないこと、体側背面の破線状横帯の数が15–22であることにより、日本産同属のカドガワウケグチヒイラギ *Deveximentum interruptum* (Valenciennes 1835) やヤンバル



ホソウケグチヒイラギ *Deveximentum indicium*, FRLM 62996, 66 mm SL, 尾鷲市

ウケグチヒイラギ *Deveximentum* 1989) と区別できる。（鈴木 啓）  
*meagalolepis* (Mochizuki & Hayashi

### イトヒキヒイラギ属 Genus *Equulites* Fowler 1904

#### ヒメヒイラギ *Equulites popei* (Whitley 1932)

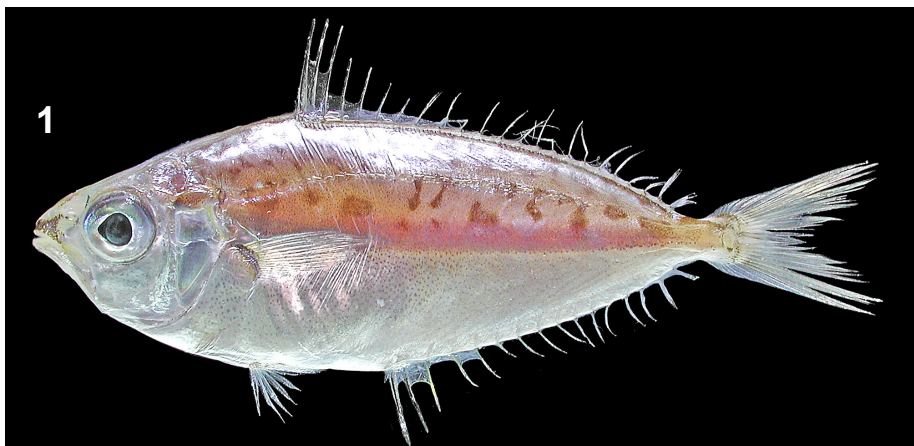
アフリカ東岸から日本にかけてのインド-西太平洋。国内では相模湾以南の太平洋沿岸、石川県以南の日本海沿岸および沖縄島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体高が著しく低く標準体長の20–30%であること、眼窩後縁に欠刻があることにより、日本産同科他種と区別できる（Suzuki and Kimura, 2023）。（鈴木 啓）



ヒメヒイラギ *Equulites popei*, FRLM 25992, 68 mm SL, 志摩市志摩町御座

#### オキヒイラギ *Equulites rivulatus* (Temminck & Schlegel 1845)

亜熱帯・温帯性種で、中国の南シナ海沿岸から朝鮮半島、国内では茨城県以南の太平洋沿岸、秋田県以南の日本海沿岸、瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は口が前下方に伸出すること、体高が標準体長の31–40%であること、眼窩後方感覚管の上方分枝が前鰓蓋骨後縁を大きく超えて伸長することにより日本産同科他種と区別できる（Suzuki and Kimura, 2023）。（鈴木 啓）



オキヒイラギ *Equulites rivulatus*, FRLM 28077, 56 mm SL, 志摩市志摩町御座



## ヒイラギ属 Genus *Nuchequula* Whitley 1932

### ヒイラギ

*Nuchequula nuchalis*  
(Temminck & Schlegel 1845)

亜熱帯・温帯性種で、ベトナム北部から朝鮮半島。国内では宮城県以南の太平洋沿岸、青森県以南の日本海沿岸、瀬戸内海、沖縄島にかけて分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘に分布する。本種は口が前下方に伸出すること、頂部および背鰭棘条部に暗色斑があること、体前半上部が無鱗であることにより日本産同科他種と区別できる。(鈴木 啓)



ヒイラギ *Nuchequula nuchalis*, FRLM 29563, 84 mm SL, 伊勢市宮川河口

## キビレヒイラギ属 Genus *Photopectoralis* Sparks, Dunlap & Smith 2005

### ネッタヒイラギ

*Photopectoralis bindus*  
(Valenciennes 1835)

熱帯・亜熱帯種で、紅海からフィジーにかけてのインド-西太平洋に広く分布し、国内では高知県から鹿児島県までの太平洋沿岸、奄美大島および沖縄島から記録がある。三重県では尾鷲市から得られた写真による記録がある。本種は口が前方に伸出すること、両顎に発達した犬歯状歯がないこと、眼の下縁から下顎関節部に向かう黒線がないこと、体高が比較的高く標準体長の44-58%であることにより同科他種と区別できる。(鈴木 啓)



ネッタヒイラギ *Photopectoralis bindus*, 尾鷲市 (津本欣吾氏撮影)

## アマシイラ科 Family Luvaridae Gill 1885

## アマシイラ属 Genus *Luvarus* Rafinesque 1810

アマシイラ  
*Luvarus imperialis*  
Rafinesque 1810

全世界の亜熱帯、温帯域。日本では三重県、神奈川県、岩手県、青森県、北海道から記録がある。三重県では熊野灘で漁獲された。(木村清志)



アマシイラ *Luvarus imperialis*  
上 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)  
左 頭部, FRLM 46920, 熊野灘

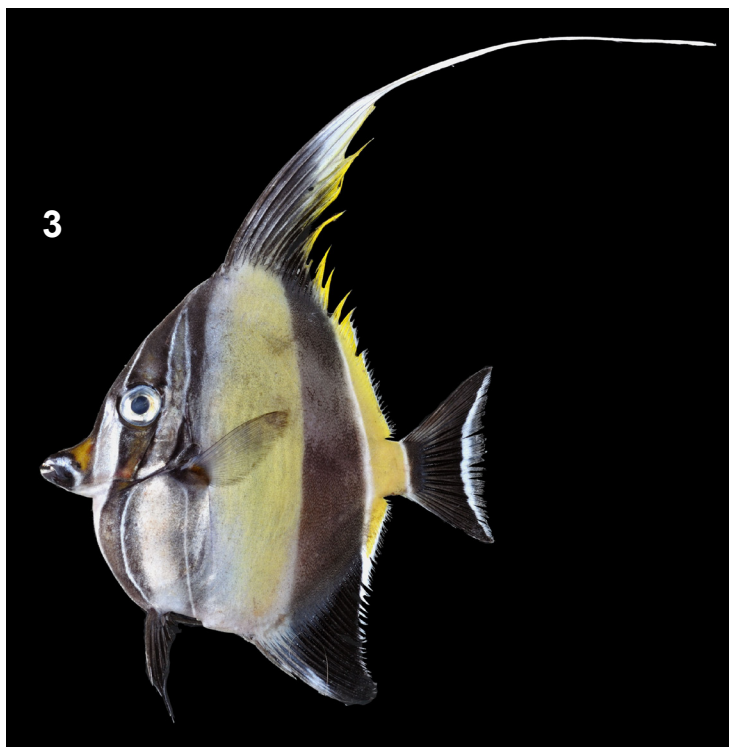
## ツノダシ科 Family Zanclidae Bleeker 1876

ツノダシ属 Genus *Zanclus* Cuvier 1831ツノダシ  
*Zanclus cornutus*  
(Linnaeus 1758)

インドー太平洋の熱帯域から温帯域に分布。日本国内では青森県から鹿児島県までの太平洋沿岸、山口県以西の日本海、南西諸島および小笠原諸島。ツノダシ科は1属1種でニザダイ科に近縁とされる。体は強く側扁し、背鰭3-7棘は糸状に伸長する。成魚では眼隔部に1対の突起をもつ。特徴的な形態と鮮やかな色彩から観賞魚として人気がある。

(松尾 怜)

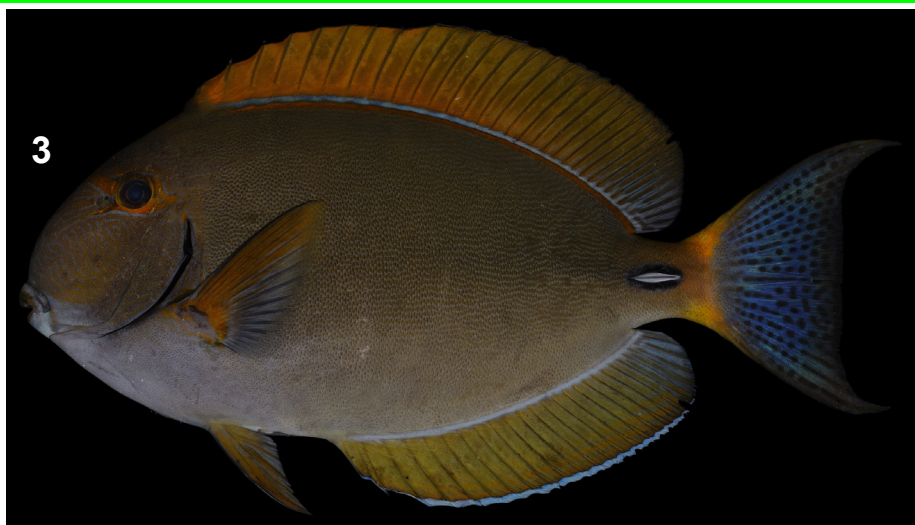
ツノダシ *Zanclus cornutus*  
FRLM 36813, 76 mm SL  
志摩市志摩町御座沖



## ニザダイ科 Family Acanthuridae Bonaparte 1835

クロハギ属 Genus *Acanthurus* Forsskål 1775ニセカンランハギ  
*Acanthurus dussumieri*  
Valenciennes 1835

ハワイを含むインドー西太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では新潟県や茨城県以南の太平洋側で記録がある。本種は尾柄の可動棘を覆う皮膜は白色なこと、背鰭に顕著な縦帯が無いこと、尾鰭後半部に多数の暗色斑点があること、胸鰭は上部が薄黄色で下部が薄暗色であること、眼の直前および直後部に黄色域があることで日本産同属他種と区別できる。(大島夢加)



ニセカンランハギ

*Acanthurus dussumieri*

上 FRLM 61750, 251 mm SL, 尾鷲市

下 FRLM 40493, 142 mm SL, 南伊勢町





**ニジハギ**  
***Acanthurus lineatus***  
**(Linnaeus 1758)**

インドー太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では相模湾以南の太平洋側で記録がある。三重県では死滅回遊魚で、主に幼魚が確認される。本種は体側に7-8本の縦線があることで日本産同属他種と容易に区別できる。

(大島夢加)

ニジハギ *Acanthurus lineatus*  
 FRLM 61776, 32 mm SL, 熊野市二木島町

**ヒラニザ**  
***Acanthurus mata***  
**(Cuvier 1829)**

インドー太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では千葉県館山湾以南の太平洋側で記録がある。本種は体長が吻長の約6.0倍以上、尾鰭と体側が同色であること、頭長は尾柄高の約2.7-3.0倍、体長は吻長の約6.0-7.1倍であることで日本産同属他種と区別できる。

(大島夢加)

ヒラニザ *Acanthurus mata*, FRLM 63343  
 258 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

**ナガニザ**  
***Acanthurus nigrofuscus***  
**(Forsskål 1775)**

インドー太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では神奈川県三浦半島以南で記録がある。本種は体長が吻長の約5.5倍以下、背鰭と臀鰭の基底後端に1黒色斑があることで日本産同属他種と区別できる。

(大島夢加)

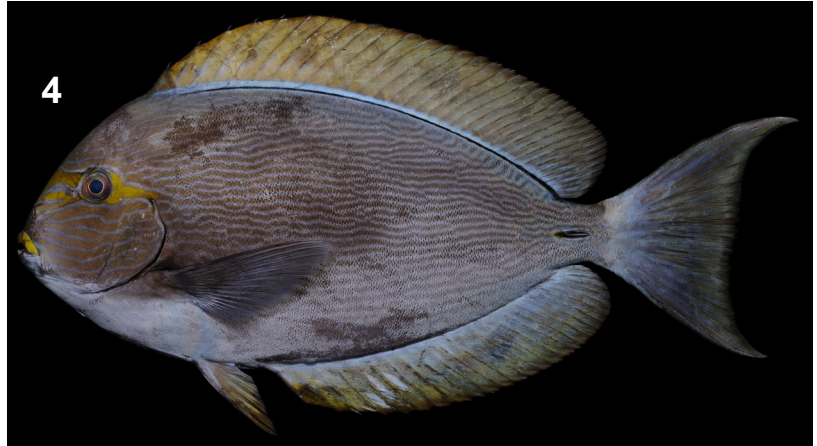
ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus*  
 FRLM 45922, 108 mm SL, 熊野市二木島町

**シマハギ**  
***Acanthurus triostegus***  
**(Linnaeus 1758)**

紅海を除くインドー太平洋およびアフリカ西岸に分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では千葉県館山湾以南の太平洋側および新潟県で記録がある。三重県では死滅回遊魚で、主に幼魚が確認される。本種は体側に顕著な5-6本の暗黒横帯があることで日本産同属他種と区別できる。

(大島夢加)

シマハギ *Acanthurus triostegus*  
 FRLM 45923, 58 mm SL, 熊野市二木島町





## クロハギ

***Acanthurus xanthopterus*  
Valenciennes 1835**

インドー太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では茨城県以南の太平洋側で記録がある。本種は体長が吻長の約5.5倍以下、体側に顕著な帯や斑が無いこと、尾柄の可動棘を覆う皮膚は暗色なこと、背鰭に縦帯があること、尾鰭に顕著な斑点がないこと、胸鰭は黄色一透明であること、眼の直前および直後部に黄色一暗黄色域があることで日本産同属他種と区別できる。

(大島夢加)

3



クロハギ *Acanthurus xanthopterus*, FRLM 55767, 68 mm SL, 英虞湾内座賀島

**テングハギ属 Genus *Naso* Lacepède 1801****テングハギモドキ  
*Naso hexacanthus*  
(Bleeker 1855)**

インドー太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では千葉県館山湾以南の太平洋側で記録がある。三重県では南伊勢町で漁獲された個体の写真記録がある。この個体は頭部や背部に突出部がないこと、体側に顕著な斑紋が無いこと、前鰓蓋と主鰓蓋の縁取りが存在することから本種に同定された。

(大島夢加)



テングハギモドキ *Naso hexacanthus*, 南伊勢町 (岡田 誠撮影)

**ミヤコテングハギ  
*Naso lituratus*  
(Forster 1801)**

インドー太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では神奈川県横須賀以南の太平洋沿岸で記録がある。三重県では尾鷲市から1標本が得られている。本種は吻が尖り、その背縁がややくぼむこと、背鰭軟条部外縁に白色帯があることで日本産同属他種と区別できる。

(大島夢加)

5



ミヤコテングハギ *Naso lituratus*, FRLM 38941, 78 mm SL, 尾鷲市

**ナガテングハギモドキ  
*Naso lopezi* Herre 1927**

台湾南部、アンダマン海、西太平洋で確認されている。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では千葉県外房以南の太平洋沿岸で記録がある。本属魚類では大型個体が南方より偶発的に来遊すると思われること、(富森ほか, 2019)、本個体も南方より来遊したものと考えられる。本種は体側に固定後も黒色斑が散在すること、背鰭棘数が5であること、体長が体高の約3倍以上であることで日本産同属他種と区別できる。三重県初記録。

(大島夢加)

5



ナガテングハギモドキ *Naso lopezi*, FRLM 65073, 388 mm SL, 熊野灘



**ゴマテングハギモドキ**  
***Naso maculatus***  
**Randall & Struhsaker 1981**

台湾南部，ハワイ諸島，オーストラリア東岸，ニューカレドニアに分布する。岩礁・サンゴ域に生息し，国内では神奈川県横須賀以南の太平洋沿岸で記録がある。本種はナガテングハギモドキ *Naso lopezi* Herre 1927 に似るが背鰭棘数が6-7，体長が体高の約2.9倍以下であることで区別できる。（大島夢加）



ゴマテングハギモドキ *Naso maculatus*, FRLM 26531, 229 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

**マサカリテングハギ**  
***Naso mcdadei***  
**Johnson 2002**

ナタールからダンピア諸島までのインド洋，台湾およびオーストラリア東岸に分布する。国内では相模湾，三重県尾鷲市，薩摩半島で記録されている（高橋・木村，2019；小枝，2022）。本種は日本で再生産を行っておらず，国内で確認される個体は台湾等の南方から黒潮により輸送されていると考えられている（瀬能ほか，2013）。本種は吻背縁が突出し，突出部は眼の前方にあること，吻突出部は前後の輪郭がほぼ直線状のため，明瞭に角張ること，固定後の体側が一様に茶褐色であることにより日本産同属他種と区別できる。また



マサカリテングハギ *Naso mcdadei*, FRLM 55806, 468 mm SL, 尾鷲市

体側の胸鰭付近に痣のような暗色斑をもつことが多い。（大島夢加）

**シノビテングハギ**  
***Naso tergus***  
**Ho, Shao & Chang 2011**

国外ではフィリピンおよび台湾で確認されている。国内では相模湾，三重県志摩市，トカラ列島中之島および琉球列島で記録されている（高橋・木村，2020；本田ほか，2023）。本種は頭部や背部に突出部がないこと，体側に顕著な斑紋がないこと，テングハギモドキ *Naso hexacanthus* (Bleeker 1855) と似るが，各鰭に帯や斑紋をもたないこと，前鰓蓋と主鰓蓋の縁取りがないことで区別できる。（大島夢加）



シノビテングハギ *Naso tergus*, FRLM 34172, 340 mm SL, 志摩市志摩町片田

**ボウズハギ**  
***Naso thynnoides***  
**(Cuvier 1829)**

インドー西太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し，国内では神奈川県館山湾以南の太平洋沿岸で記録がある。本種は尾柄部の骨質板数が1個であることでキビレボウズハギ *Naso minor* (Smith 1966) に似るが，背鰭棘数が4であることで区別できる。本標本は三重県尾鷲市の定置網で得られた。（大島夢加）



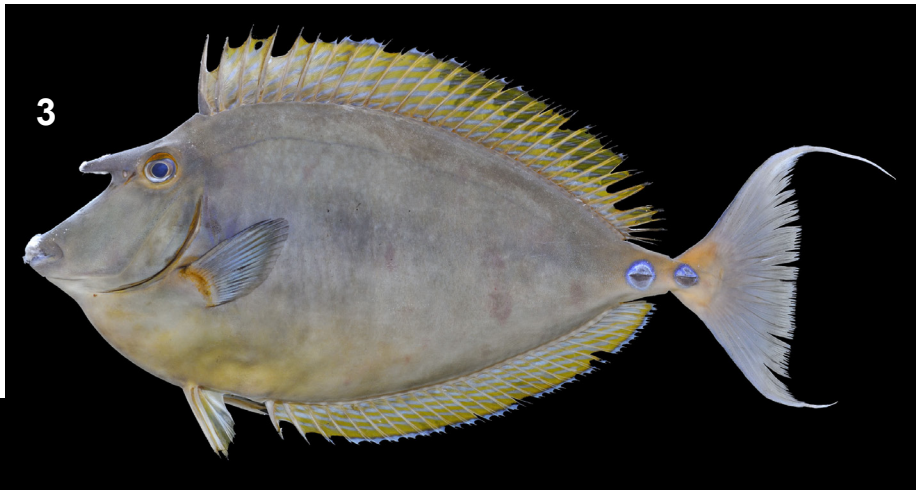
ボウズハギ *Naso thynnoides*, FRLM 35056, 81 mm SL, 尾鷲市



**テングハギ**  
***Naso unicornis***  
**(Forsskal 1775)**

インドー太平洋に広く分布する。岩礁・サンゴ礁域に生息し、国内では青森県以南の太平洋沿岸で記録がある。本種は前頭部に角状突起があること、尾鰭に横帯が無いこと、尾柄の骨質板は青色であることで日本産同属他種と区別できる。

(大島夢加)



テングハギ *Naso unicornis*

上 成魚, FRLM 37330, 316 mm SL, 志摩市 大王町波切

左 未成魚, FRLM 46720, 141 mm SL, 志摩市志摩町御座

**ニザダイ属 Genus *Prionurus* Lacepède 1804**

**ニザダイ**  
***Prionurus scalprum***  
**Valenciennes 1835**

朝鮮半島南岸から南シナ海にかけて分布する。国内では北海道南部以南に分布する。三重県では熊野灘で普通にみられる。本種は尾柄に黒斑が3-4個存在することで日本産同科他種と容易に区別できる。

(大島夢加)

ニザダイ *Prionurus scalprum*

上 成魚, FRLM 50641, 320 mm SL

志摩市志摩町和具

下 幼魚, FRLM 54840, 42 mm SL

英虞湾内座賀島



**ヒレナガハギ属 Genus *Zebrasoma* Swainson 1839**

**ヒレナガハギ**  
***Zebrasoma velifer***  
**(Bloch 1795)**

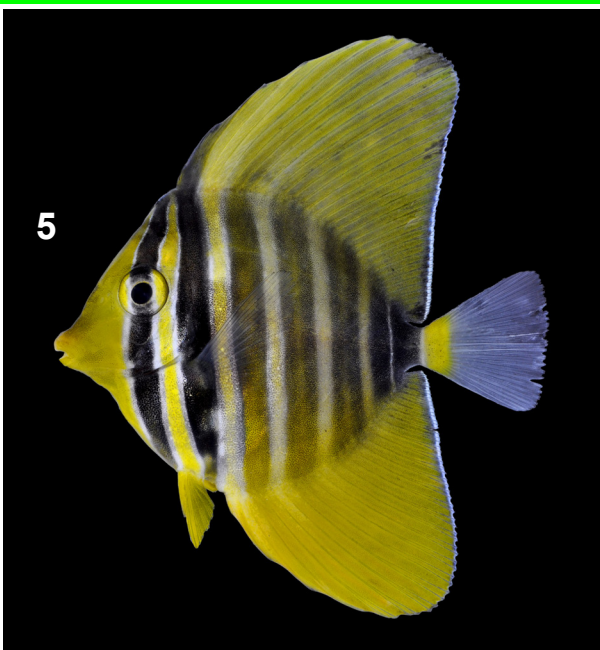
台湾からオーストラリア西岸に広く分布する。岩礁・サンゴ域に生息し、国内では神奈川県三浦半島以南の太平洋沿岸で記録がある。三重県では死滅回遊魚で、初夏から幼魚が見られる。本種は背鰭と臀鰭が大きく、体側に顕著な横帯があることで日本産同科他種と区別できる。

(大島夢加)

ヒレナガハギ *Zebrasoma velifer*

FRLM 51120, 26 mm SL

英虞湾内座賀島





## シキシマハナダイ科 Family Callanthiidae Ogilby 1899

シキシマハナダイ属 Genus *Callanthias* Lowe 1839シキシマハナダイ  
*Callanthias japonicus*  
Franz 1910

台湾, 朝鮮半島, 日本. 日本では鹿児島県から神奈川県, 秋田県に分布する. 三重県では熊野灘で釣りなどで採集される. 背鰭はXI, 11-12, 主鰓蓋骨棘は2本. (木村清志)

シキシマハナダイ *Callanthias japonicus*  
上 FRLM 54623, 176 mm SL  
志摩市志摩町御座沖  
下 FRLM 64611, 89 mm SL, 熊野灘

テンジクハナダイ属 Genus *Grammatonotus* Gilbert 1905テンジクハナダイ  
*Grammatonotus surugaensis*  
Katayama, Yamakawa &  
Suzuki 1980

沖縄県から千葉県の日本. 三重県では南伊勢町で採集された. 背鰭はXI, 9, 主鰓蓋骨棘は1本, 眼径は眼後頭長より短い. (木村清志)

テンジクハナダイ  
*Grammatonotus surugaensis*, FRLM 45675  
88 mm SL, 南伊勢町



## イトヨリダイ科 Family Nemipteridae Regan 1913

イトヨリダイ属 Genus *Nemipterus* Swainson 1839ソコイトヨリ  
*Nemipterus bathybius*  
Snyder 1911

アンダマン海からオーストラリア, パプアニューギニアにかけてのインド-西太平洋に分布する. 国内では相模湾以南の太平洋沿岸, 若狭湾以南の日本海沿岸, 伊予灘および沖縄県から記録されている. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は尾鰭上葉が糸状に伸長すること, 側線始部に赤色斑がないことで日本産同属のヒメイトヨリ *Nemipterus zysron* (Bleeker 1857) と類似するが, 胸鰭が長く肛門に達すること, 体側に2黄色縦帯があること, 体腹縁が黄色に



ソコイトヨリ *Nemipterus bathybius*, FRLM 45895, 210 mm SL, 尾鷲市  
縁取られることで区別できる.  
(鈴木 啓)



**イトヨリダイ**  
***Nemipterus virgatus***  
**(Houttuyn 1782)**

オーストラリア北西岸からベトナム、フィリピン、朝鮮半島、国内では千葉県、新潟県から九州南岸にかけての太平洋・日本海・東シナ海沿岸および瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は尾鰭上葉が糸状に伸長すること、側線始部に赤色斑があることで日本産同属のニホンイトヨリ *Nemipterus japonicus* (Bloch 1791) と類似するが、臀鰭が3棘8軟条であることで区別できる (中村・本村, 2021)。

(鈴木 啓)



イトヨリダイ *Nemipterus virgatus*, FRLM 41100, 298 mm SL, 志摩市

**タマガシラ属 Genus *Parascolopsis* Boulenger 1901**

**タマガシラ**  
***Parascolopsis inermis***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

インドから朝鮮半島にかけてのインド-西太平洋。国内では千葉県以南の太平洋沿岸、山口県以南の日本海・東シナ海沿岸および南西諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は前鰓蓋骨に鱗がないこと、頭部の鱗域が眼の前縁に達しないことで、日本産同属のアカタマガシラ *Parascolopsis akatamae* Miyamoto, McMahan & Kaneko 2020 やエンビアカタマガシラ *Parascolopsis eriomma* (Jordan & Richardson 1909) と類似するが、第1鰓弓の鰓耙数が9-10であることにより区別できる。 (鈴木 啓)



タマガシラ *Parascolopsis inermis*, FRLM 56681, 190 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**キツネウオ属 Genus *Pentapodus* Quoy & Gaimard 1824**

**イトタマガシラ**  
***Pentapodus nagasakiensis***  
**(Tanaka 1915)**

オーストラリアからインドネシア、フィリピン、南シナ海沿岸。国内では千葉県以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島に分布する。三重県では南伊勢町賛浦および尾鷲市から標本が得られている。本種は頭頂部の鱗域が後鼻孔に達しないこと、尾鰭の上下両葉が伸長しないことで日本産同属のヤクシマキツネウオ *Pentapodus aureofasciatus* Russell 2001 と類似するが、前鰓蓋骨に鱗がないこと、体側中央の縦帯が白色であることにより区別できる。 (鈴木 啓)



イトタマガシラ *Pentapodus nagasakiensis*, FRLM 43690, 96 mm SL, 尾鷲市三木浦町

## ヨコシマタマガシラ属 Genus *Scolopsis* Cuvier 1814

### ヒメタマガシラ *Scolopsis affinis* Peters 1877

ミャンマー，アンダマン海からソロモン諸島にかけてのインドー西太平洋．国内では伊豆大島以南の太平洋沿岸および南西諸島に生息する．三重県では尾鷲市から2標本が得られている．本種は眼下骨と眼の間に前方棘がないこと，前鰓蓋骨に鱗があること，背鰭5-6棘基部と側線の間の鱗が3-4列であること，側線鱗数が43-46であること，体側中央に黄褐色縦帯があること，尾鰭上葉が伸長しないことにより日本産同属他種と区別できる．（鈴木 啓）



ヒメタマガシラ *Scolopsis affinis*, FRLM 33803, 125 mm SL, 尾鷲市

## フエフキダイ科 Family Lethrinidae Bonaparte 1831

## ノコギリダイ属 Genus *Gnathodentex* Bleeker 1873

### ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* (Lacepède 1802)

アフリカ南岸・東岸からピトケアン諸島，日本，仏領ポリネシアに至るインドー太平洋．日本では琉球列島から茨城県に分布する．三重県では熊野灘の定置網や釣りで採集された．頬部は被鱗する，側線有孔鱗数60-70．（木村清志）



ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus*  
上 FRLM 63341, 203 mm SL, 南伊勢町古和浦  
左 FRLM 63394, 100 mm SL, 尾鷲市九鬼町

## メイチダイ属 Genus *Gymnocranius* Klunzinger 1870

### サザナミダイ *Gymnocranius grandoculis* (Valenciennes 1830)

紅海，アフリカ東岸から仏領ポリネシア，日本，トンガに至るインドー太平洋．日本では琉球列島から三重県に分布する．三重県では志摩市沖の熊野灘で採集された．体高はやや低い，吻から頬部にかけて数本の細い波状青色縦帯がある．（木村清志）



サザナミダイ *Gymnocranius grandoculis*, FRLM 49921, 447 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



**メイチダイ**  
***Gymnocranius griseus***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

インド東岸からパプアニューギニア、日本に至る東インド洋、西太平洋。日本では沖縄県から北海道に分布する。三重県では主に熊野灘の定置網や釣りで漁獲される。体高は高い、眼をとる暗色横帯がある。

(木村清志)

メイチダイ *Gymnocranius griseus*  
 FRLM 51109, 183 mm SL  
 志摩市志摩町越賀沖



**フェフキダイ属 Genus *Lethrinus* Cuvier 1829**

**イトフエフキ**  
***Lethrinus genivittatus***  
**(Valenciennes 1830)**

インドネシアからバヌアツ、日本、ニューカレドニアに至る東インド洋、西太平洋。日本では琉球列島から千葉県、新潟県に分布する。三重県では熊野灘の定置網や釣りで漁獲される。背鰭第2棘が伸長する、胸鰭の上方に四角形の暗色斑がある。

(木村清志)

イトフエフキ *Lethrinus genivittatus*  
 FRLM 51108, 205 mm SL  
 志摩市志摩町越賀沖



**フェフキダイ**  
***Lethrinus haematopterus***  
**Temminck & Schlegel 1844**

中国南シナ海・東シナ海、台湾、日本に至る北西太平洋。日本では琉球列島から神奈川県、新潟県に分布する。三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲される。体高は頭長よりも長い、背鰭棘部中央下における側線上方横列鱗列数5。 (木村清志)

フェフキダイ *Lethrinus haematopterus*  
 FRLM 60334, 224 mm SL, 紀北町島勝浦



**ハマフエフキ**  
***Lethrinus nebulosus***  
**(Forsskål 1775)**

紅海、アフリカ東岸からトンガ、日本、ニューカレドニアに至るインド-西太平洋。日本では琉球列島から神奈川県・新潟県に分布する。三重県では熊野灘の定置網や刺網で漁獲される。背鰭棘部中央下における側線上方横列鱗列数5、眼から前方や前下方に向かう青白色の斜走帯がある。 (木村清志)

ハマフエフキ *Lethrinus nebulosus*  
 FRLM 43170, 125 mm SL  
 志摩市志摩町御座





## タイ科 Family Sparidae Rafinesque 1818

### クロダイ属 Genus *Acanthopagrus* Peters 1855

#### キチヌ

#### *Acanthopagrus latus* (Houttuyn 1782)

ベトナムから日本および韓国までの北西太平洋，日本では岩手県角ノ浜，兵庫県浜坂および茨城県久慈川から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，小笠原諸島，種子島に分布する。本種は汽水域でもよく見られる。三重県では伊勢湾，熊野灘に分布する。本種は腹鰭と臀鰭が黄色いことでオキナワキチヌ *Acanthopagrus chinshira* Kume & Yoshino 2008 に似るが，背鰭棘条部中央下の横列鱗数は3.5（オキナワキチヌでは4.5）であることで区別できる。（笹木大地）



キチヌ *Acanthopagrus latus*, FRLM 57403, 330 mm SL, 志摩市志摩町御座

#### クロダイ

#### *Acanthopagrus schlegelii* (Bleeker 1854)

ベトナムから日本および韓国までの北西太平洋，日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海，太平洋沿岸，瀬戸内海，種子島，口永良部島に分布する。本種は汽水域でもよく見られる。三重県では伊勢湾，熊野灘に分布する。本種はミナミクロダイ *Acanthopagrus sivicolus* Akazaki 1962 に似るが，背鰭棘条部中央下の横列鱗数は5.5–6.5（ミナミクロダイでは4.5）であることで区別できる。（笹木大地）



クロダイ *Acanthopagrus schlegelii*, FRLM 49235, 198 mm SL, 津市志登茂川河口

### キダイ属 Genus *Dentex* Cuvier 1814

#### キダイ

#### *Dentex hypselosomus* Bleeker 1854

南シナ海から日本，韓国までの北西太平洋，日本では青森県出来島，山形県および福島県から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，東シナ海大陸棚から縁辺域，宇治群島，大隅諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体が橙赤色で背部に大きな黄色斑が3つあること，各鰭が赤色であることから近縁のキビレアカレンコ *Dentex abei* Iwatsuki, Akazaki & Taniguchi 2007 から区別できる。（笹木大地）



キダイ *Dentex hypselosomus*, FRLM 35648, 212 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



## チダイ属 Genus *Evynnis* Jordan & Thompson 1912

### ヒレコダイ *Evynnis cardinalis* (Lacepède 1802)

南シナ海から日本，韓国までの北西太平洋，日本では青森県から九州南岸の太平洋，山口県日本海沿岸，種子島，東シナ海南部に分布する。2020年以降に三重県で採集されることが増えており，これまでに志摩市安乗，波切，越賀，御浜町阿田和から標本が得られている。本種は背鰭第3，4棘が著しく糸状に延長すること，鰓膜の鮮紅色部の幅は狭いことが特徴。（笹木大地）

ヒレコダイ *Evynnis cardinalis*  
FRLM 61746, 167 mm SL  
志摩市志摩町越賀沖



### チダイ *Evynnis tumifrons* (Temminck & Schlegel 1843)

中国から日本，韓国までの北西太平洋およびインドネシアのバリ島から記録がある。日本では北海道渡島半島から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，種子島に分布する。三重県では熊野灘で普通にみられ，伊勢湾にも分布する。本種は背鰭第3，4棘がやや伸びること（ただし，幼魚では伸長する），鰓膜の鮮紅色部の幅は広いことなどが特徴。（笹木大地）

チダイ *Evynnis tumifrons*, FRLM 39934  
107 mm SL, 志摩市志摩町御座



## マダイ属 Genus *Pagrus* Cuvier 1816

### マダイ *Pagrus major* (Temminck & Schlegel 1843)

南シナ海から日本，韓国までの北西太平洋，日本では北海道全沿岸から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋，瀬戸内海，大隅諸島，奄美大島，沖縄島に分布する。三重県では伊勢湾，熊野灘で普通に見られ，様々な沿岸漁業で漁獲される。臀鰭軟条数は9であること，背鰭棘は伸長しないこと，尾鰭後縁は黒く，下縁は白いことが特徴。（笹木大地）

マダイ *Pagrus major*, FRLM 29528  
202 mm SL, 志摩市志摩町御座沖



## ヘダイ属 Genus *Rhabdosargus* Fowler 1933

### ヘダイ *Rhabdosargus sarba* (Gmelin 1775)

インドー西太平洋, 日本では北海道日本海沿岸, 新潟県および宮城県から九州南岸の日本海・東シナ海, 太平洋沿岸, 瀬戸内海, 大隅諸島以南に分布する. 本種は体色が銀黒色であること, 臀鰭軟条数は10-12であること, 背鰭棘条部中央下の横列鱗数は6.5以上であることが特徴.  
(笹木大地)

ヘダイ *Rhabdosargus sarba*, FRLM 44141  
176 mm SL, 志摩市志摩町御座



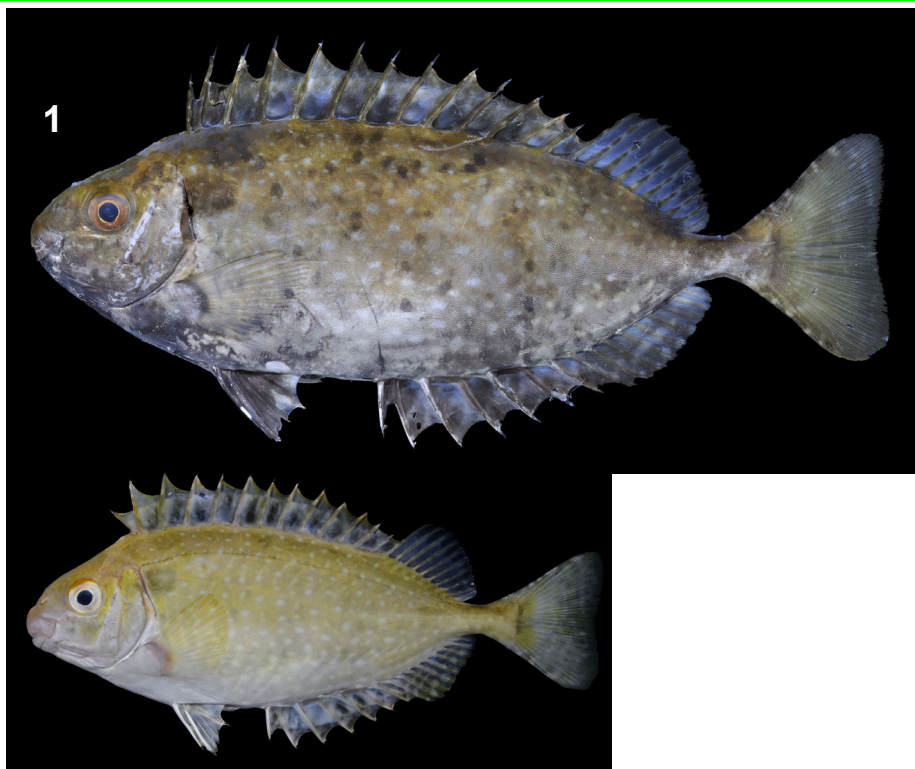
## アイゴ科 Family Siganidae Richardson 1837

### アイゴ属 Genus *Siganus* Fabricius 1775

#### アイゴ *Siganus fuscescens* (Houttuyn 1782)

東インド洋から西太平洋の東西はミャンマー, インドネシアからボーンペイ, ニューアイルランドおよびソロモン諸島まで, 南北は韓国, 日本からフリマントル, ナジー, ロードハウ島まで分布し, 日本では青森県以南に分布する. 三重県では伊勢湾及び熊野灘沿岸で普通にみられる. 他のアイゴ科の種とは背鰭の棘条部と軟条部の間に欠刻があること, 体側に多数の小斑点があることで区別できる.  
(武内 俊)

アイゴ *Siganus fuscescens*  
上 FRLM 37113, 151 mm SL  
志摩市志摩町御座  
下 FRLM 53652, 104 mm SL  
英虞湾内座賀島



#### アミアイゴ *Siganus spinus* (Linnaeus 1758)

インドー西太平洋のスリランカ, ミャンマー, アンダマン海, マーシャル諸島東部とソシエテ諸島, 北は日本南部, 南はオーストラリア北部に分布し, 日本では太平洋側の三浦半島以南に分布する. 三重県では尾鷲市の定置網から標本が得られている. 他のアイゴ科の種とは背鰭の棘条部と軟条部の間に欠刻があること, 少なくとも体側上半部には虫くい状斑紋があることで区別できる.  
(武内 俊)

アミアイゴ *Siganus spinus*, FRLM 34077  
130 mm SL, 尾鷲市





## クロホシマンジュウダイ科 Family Scatophagidae Gill 1883

### クロホシマンジュウダイ属 Genus *Scatophagus* Cuvier 1831

#### クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus* (Linnaeus 1766)

インドー西太平洋の熱帯域から温帯域に分布。日本国内では北海道オホーツク海側および噴火湾、宮城県から鹿児島県の太平洋沿岸、秋田県以南の日本海、東シナ海、瀬戸内海および南西諸島。体の地色は金属光沢を帯びた褐色で体側には黒色斑が散在する。チョウチョウウオ科魚類と同様、稚魚期にトリクテス幼生期を経る。河川汽水域から内湾に生息。三重県では汽水域などで主に未成魚が見られるが、稀に成魚が採集されることもある。（松尾 伶）

クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus*  
上 成魚, FRLM 63348, 272 mm SL  
南伊勢町礪浦  
下 幼魚, FRLM 39349, 39 mm SL  
津市白塚町



## アカタチ科 Family Cepolidae Rafinesque 1815

### アカタチ属 Genus *Acanthocepola* Bleeker 1874

#### インドアカタチ *Acanthocepola indica* (Day 1888)

パキスタンからフィリピン、日本に至るインドー西太平洋。日本では鹿児島県から神奈川県に分布する。三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網で採集された。体高はやや高い、背鰭前部に輪郭の不明瞭な暗色斑がある、生鮮時体側に多くの細い橙黄色横帯がある。（木村清志）

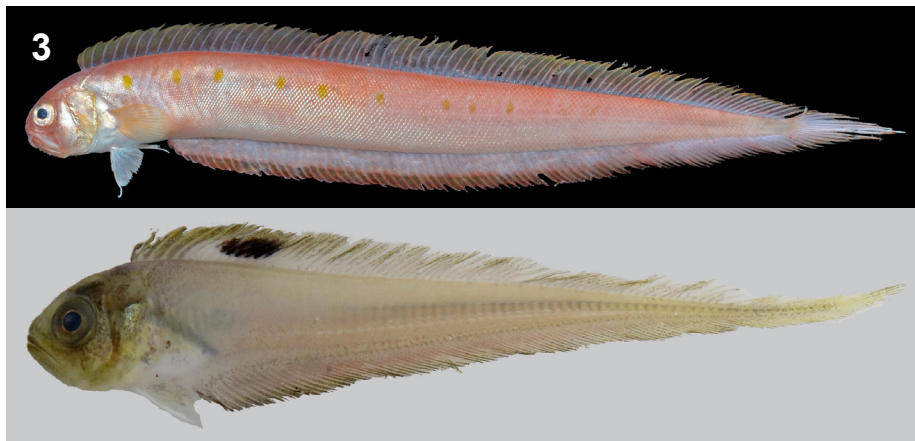
インドアカタチ *Acanthocepola indica*  
上 FRLM 35033, 451 mm SL, 伊勢湾  
下 FRLM 61562, 197 mm SL  
志摩市志摩町御座



#### アカタチ *Acanthocepola krusensternii* (Temminck & Schlegel 1845)

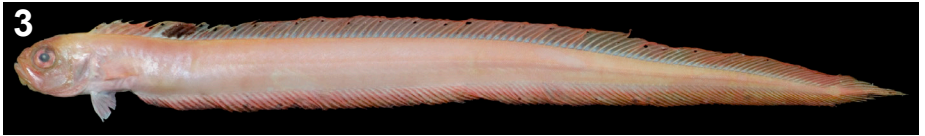
インドネシア、日本、オーストラリアに至る西太平洋。日本では鹿児島県から神奈川県・新潟県に分布する。三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網で採集された。体高はやや低い、背鰭前部に暗色斑がない、生鮮時体側に多くの橙黄色円斑がある。（木村清志）

アカタチ *Acanthocepola krusensternii*  
上 FRLM 48540, 271 mm SL, 伊勢湾  
下 FRLM 61656, 66 mm SL, 尾鷲市



**イッテンアカタチ**  
***Acanthocepola limbata***  
**(Valenciennes 1835)**

インドからインドネシア, 日本に至るインドー西太平洋. 日本では琉球列島から神奈川県・富山県に分布する. 三重県では熊野灘の定置網や



イッテンアカタチ *Acanthocepola limbata*, FRLM 33831, 326 mm SL, 尾鷲市

巻網で採集された. 体高は低く, 背 時体側に明瞭な斑紋はない. 鰭前部に明瞭な暗色斑がある, 生鮮 (木村清志)

**スミツキアカタチ属 Genus *Cepola* Linnaeus 1764**

**スミツキアカタチ**  
***Cepola schlegelii***  
**Bleeker 1854**

南アフリカ, インドネシアからバプアニューギニア, 日本に至るインドー西太平洋. 日本では宮城県・長崎県から青森県に分布する. 三重県では熊野灘の底曳網や巻網で採集された. 前鰓蓋骨後縁は円滑, 主上顎骨と前上顎骨の間の膜に細長い暗色斑がある. (木村清志)



スミツキアカタチ *Cepola schlegelii*, 熊野灘  
 上 FRLM 64633, 385 mm SL  
 下 FRLM 38993, 126 mm SL

**ソコアマダイ属 Genus *Owstonia* Tanaka 1908**

**ソコアマダイモドキ**  
***Owstonia japonica***  
**Kamohara 1935**

現在のところ日本のみから知られ, 鹿児島県から神奈川県に分布する. 三重県では熊野灘の底曳網で漁獲されている. 体は後方に向かって急に細くなる, 頬部は被鱗する. (木村清志)

ソコアマダイモドキ *Owstonia japonica*  
 FRLM 61342, 137 mm SL, 熊野灘



**オキアマダイ**  
***Owstonia tosaensis***  
**Kamohara 1934**

フィリピン, 台湾, 日本, オーストラリア西部. 日本では熊野灘の底曳網で採取された. 体は後方に向かって急に細くならない. 生鮮時背鰭, 臀鰭, 尾鰭下葉は黄色. (木村清志)

オキアマダイ *Owstonia tosaensis*  
 FRLM 61781, 239 mm SL, 熊野灘



**ソコアマダイ**  
***Owstonia totomiensis***  
**Tanaka 1908**

現在のところ日本のみから知られ, 宮城県から静岡県に分布する. 三重県では熊野灘の底曳網で採集された. 体は後方に向かって急に細くなる, 頬部は無鱗. (木村清志)

ソコアマダイ *Owstonia totomiensis*  
 FRLM 61344, 59 mm SL, 熊野灘





## キントキダイ科 Family Priacanthidae Günther 1859

### チカメキントキ属 Genus *Cookeolus* Fowler 1928

#### チカメキントキ *Cookeolus japonicus* (Cuvier 1829)

インドー西太平洋，日本では青森県から九州北西岸の日本海・東シナ海沿岸，北海道襟裳岬以南の太平洋沿岸，瀬戸内海，東シナ海大陸棚縁辺域，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は体高が高いこと，体側に横帯がないこと，腹鰭は大きくその後端は臀鰭基部をはるかに超えることが特徴．  
(笹木大地)

チカメキントキ *Cookeolus japonicus*  
FRLM 37329, 143 mm SL  
志摩市志摩町和具沖

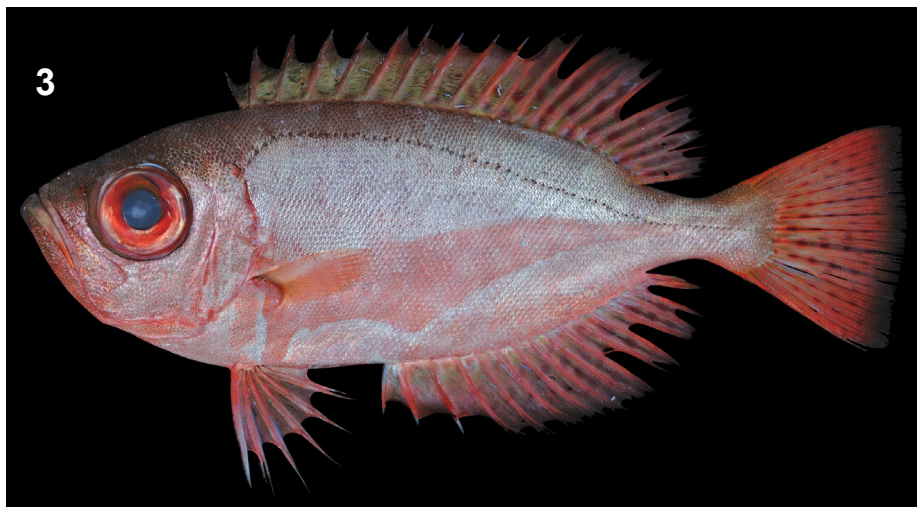


### ゴマヒレキントキ属 Genus *Heteropriacanthus* Fitch & Crooke 1984

#### ゴマヒレキントキ *Heteropriacanthus carolinus* (Cuvier 1829)

全世界の熱帯・亜熱帯海域，日本では相模湾から琉球列島，伊豆・小笠原諸島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は背鰭および臀鰭の軟条部，尾鰭に黒褐色点が散在することが特徴．  
(笹木大地)

ゴマヒレキントキ  
*Heteropriacanthus carolinus*, FRLM 61713  
137 mm SL, 尾鷲市

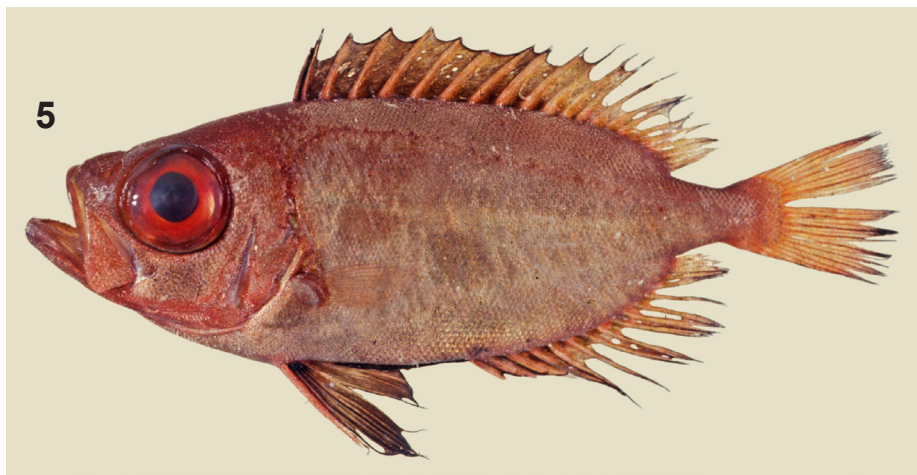


### キントキダイ属 Genus *Priacanthus* Oken 1817

#### アカネキントキ *Priacanthus blochii* Bleeker 1853

インドー西太平洋，日本では京都府，神奈川県藤沢，日向灘，内之浦湾，種子島，奄美大島から記録されている．三重県では志摩市御座の定置網で1標本が得られている．この標本は背鰭，臀鰭，尾鰭に斑紋がないこと，背鰭第1-3棘間の鰭膜に黒斑がないことから本種に同定された．  
(笹木大地)

アカネキントキ *Priacanthus blochii*  
FRLM 12155, 74 mm SL  
志摩市志摩町御座





**ウスベニキントキ**  
***Priacanthus fitchi***  
**Starnes 1988**

インドー西太平洋, 日本ではこれまでに宮崎県日南市, 薩摩半島西岸, 奄美大島, 東シナ海大陸棚縁辺から記録されていた。三重県では熊野灘で操業するまき網および尾鷲市場に沖合底曳網によって水揚げされた2標本があり, この2標本は本州初記録である。本種は体高が低く, 最大体高は頭部後方にあること, 背鰭・臀鰭は一様に橙色であり, それぞれの軟条部後端は透明であることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



ウスベニキントキ *Priacanthus fitchi*, FRLM 60871, 122 mm SL, 熊野灘

**ハウセキキントキ**  
***Priacanthus hamrur***  
**(Fabricius 1775)**

インドー太平洋, 日本では京都府, 相模湾から沖縄県, 八丈島, 沖縄舟状海盆に分布する。三重県で最も普通に見られるキントキダイ科魚類である。各鰭に目立つ模様はなく, 尾鰭は湾入形であることが特徴。(笹木大地)

ハウセキキントキ *Priacanthus hamrur*  
 FRLM 36946, 255 mm SL  
 志摩市志摩町御座



**キントキダイ**  
***Priacanthus macracanthus***  
**Cuvier 1829**

アンダマン海・オーストラリア西岸からニューギニア東部・オーストラリア東部, 北は日本および朝鮮半島までの東インド洋から西太平洋に分布する。日本では新潟県佐渡から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸, 青森県, 宮城県, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海大陸棚域, 屋久島沖に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は背鰭および臀鰭に黄色斑点があることが特徴。(笹木大地)



キントキダイ *Priacanthus macracanthus*, FRLM 46714, 117 mm SL, 志摩市志摩町御座

**ミナミキントキ**  
***Priacanthus sagittarius***  
**Starnes 1988**

インドー西太平洋, 日本では青森県つがる市, 富山湾, 千葉県から鹿児島県本土, 三宅島, 甕島, 種子島, 奄美大島, 沖縄県, 石垣島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は背鰭第1から第3棘間の鰭膜上に明瞭な黒斑があること, 腹鰭基底に明瞭な黒斑があること, 背鰭・臀鰭の鰭膜が全体に白く透明感があることから同属他種と区別できる。(笹木大地)

ミナミキントキ *Priacanthus sagittarius*  
 FRLM 40326, 306 mm SL  
 志摩市志摩町和具





**キビレキントキ**  
***Priacanthus zaiserae***  
**Starnes & Moyer 1988**

西太平洋，日本では神奈川県三浦，静岡県内浦，三重県志摩市，日向灘，三宅島，大隅諸島，奄美大島，沖縄県，尖閣諸島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は腹鰭の鰭膜が暗色で基部に黒色斑がないこと，胸鰭は黄色であることから同属他種と区別できる．（笹木大地）

キビレキントキ *Priacanthus zaiserae*  
 FRLM 39923, 177 mm SL  
 志摩市志摩町和具

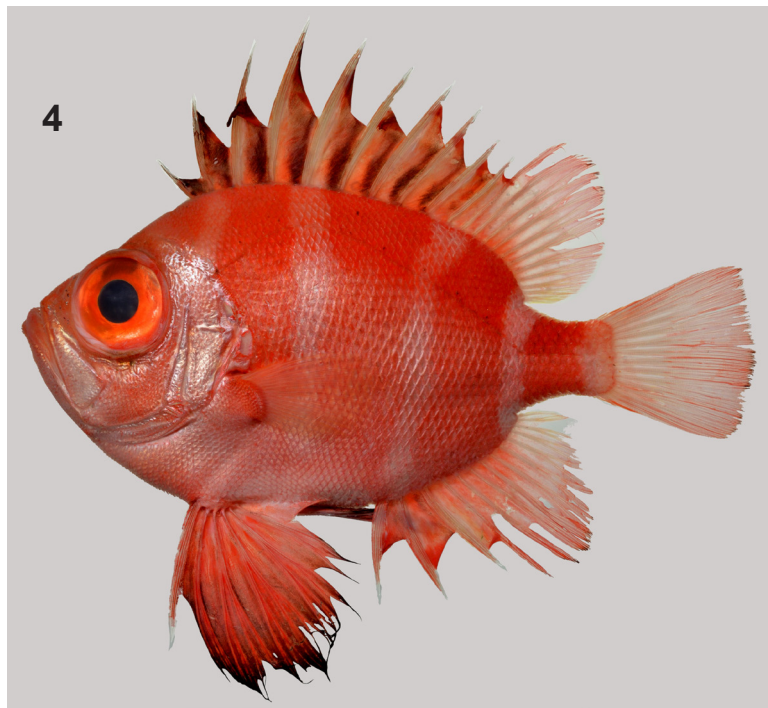


**クルマダイ属 Genus *Pristigenys* Agassiz 1835**

**クルマダイ**  
***Pristigenys nipponia***  
**(Cuvier 1829)**

東インド洋から西大西洋，日本では新潟県佐渡から九州北西岸の日本海・玄海灘沿岸，相模湾から九州南岸の太平洋沿岸，東シナ海大陸棚縁辺域，大隅諸島，沖縄県に分布する．本種は体に4本の太い赤色横帯があること，背鰭・臀鰭の軟条部，尾鰭の縁辺は黒くないことで同属他種と区別できる．（笹木大地）

クルマダイ *Pristigenys nipponia*  
 FRLM 57415, 109 mm SL, 熊野灘



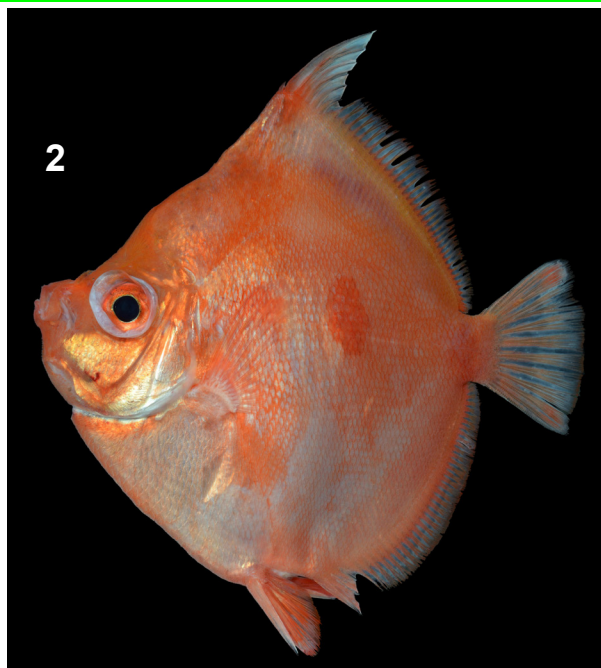
**ヒシダイ科 Family *Antigoniidae* Jordan & Evermann 1898**

**ヒシダイ属 Genus *Antigonia* Lowe 1843**

**ヒシダイ**  
***Antigonia capros***  
**Lowe 1843**

東太平洋を除く全世界の熱帯から温帯域，日本では富山湾，島根県浜田，福島県，房総半島東岸から日向灘の太平洋沿岸，伊豆諸島，東シナ海大陸棚縁辺域，大隅諸島以南，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種はミナミヒシダイ *Antigonia rubicunda* Ogilby 1910 に似るが，背鰭軟条数は33-37であること，臀鰭軟条数は30-35であることで区別できる．（笹木大地）

ヒシダイ *Antigonia capros*, FRLM 52304  
 158 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



**ベニヒシダイ**  
***Antigonia rubescens***  
**(Günther 1860)**

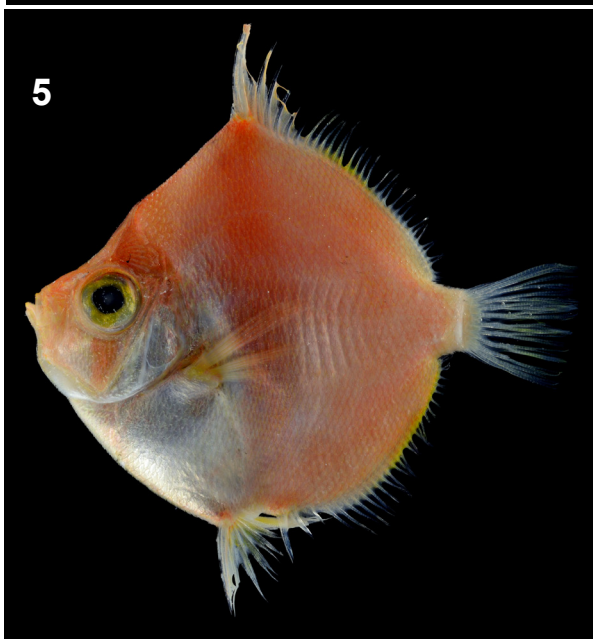
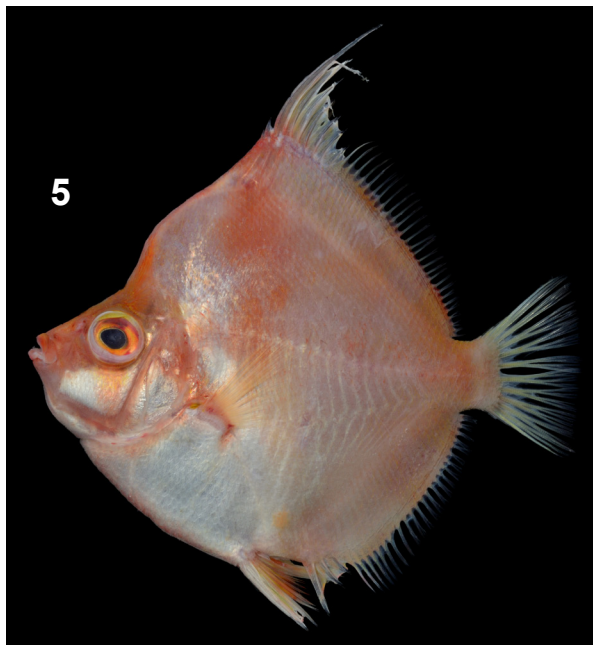
インドー西太平洋，日本では熊野灘から土佐湾の太平洋，薩南海域，宇治群島沖，東シナ海大陸棚縁辺域，伊豆大島沖，九州ーパラオ海嶺から記録されている．三重県では底曳網で水揚げされた1標本が得られている．本種は眼の後方の背縁は著しくくぼむこと，吻は長いこと，口はほぼ水平位であることから同属他種と区別できる．（笹木大地）

ベニヒシダイ *Antigonia rubescens*  
 FRLM 52238, 123 mm SL, 熊野灘

**ミナミヒシダイ**  
***Antigonia rubicunda***  
**Ogilby 1910**

西太平洋，日本では和歌山県すさみ町，宇治群島，小笠原諸島，沖縄県，沖縄舟状海盆から記録されている．三重県では熊野灘で操業するまき網および尾鷲市から標本が得られている．本種は背鰭軟条数が26-30であること，臀鰭軟条数が25-28であることが特徴．（笹木大地）

ミナミヒシダイ *Antigonia rubicunda*  
 FRLM 54536, 70 mm SL, 熊野灘



**アンコウ目 Order Lophiiformes**

**アンコウ亜目 Suborder Lophioidei**

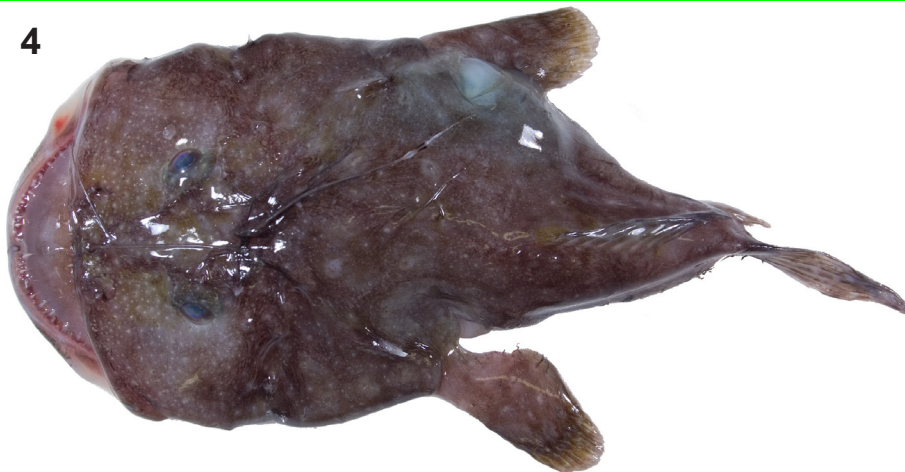
**アンコウ科 Family Lophiidae Rafinesque 1810**

**ヒメアンコウ属 Genus *Lophiodes* Goode & Bean 1896**

**エンドウヒメアンコウ**  
***Lophiodes endoi***  
**Ho & Shao 2008**

西太平洋，日本では伊豆半島南端沖から土佐湾，沖縄トラフ，九州ーパラオ海嶺に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は背鰭棘が5であること，擬餌状体は単純な球体で，一様に黒色もしくは先端のみ明色であること，胸鰭鰭条数が19-22であること，下顎の歯列は大小2タイプの歯からなる2列であることで同属他種と区別できる（松沼ほか，2022）．（笹木大地）

4



エンドウヒメアンコウ *Lophiodes endoi*, FRLM 33587, 138 mm SL, 熊野灘



**メダマアンコウ**  
***Lophiodes mutilus***  
**(Alcock 1894)**

インドー西太平洋, 南東アフリカ, オーストラリア, 台湾, 日本では福島県以南の太平洋沿岸, 九州ーパラオ海嶺, 沖縄舟状海盆, 東シナ海に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。本種はエンドウヒメアンコウ *Lophiodes endoi* Ho & Shao 2008 に似るが, 胸鰭鰭条数が通常 15-18 であること, 下顎の歯列は大きさの異なる 4 タイプの歯からなる 4 列であることで区別できる (松沼ほか, 2022)。 (榊原弘陸)



メダマアンコウ *Lophiodes mutilus*, FRLM 33759, 69 mm SL, 熊野灘

**ヒメアンコウ**  
***Lophiodes naresi***  
**(Günther 1880)**

フィリピン諸島, オーストラリア東岸, 台湾南部, 日本では駿河湾から九州南部の太平洋沿岸, 沖縄舟状海盆, 東シナ海に分布する。深海性。本種は背鰭棘が 6 棘であることで日本産同属他種と容易に区別できる。 (榊原弘陸)



ヒメアンコウ *Lophiodes naresi*, FRLM 54466, 242 mm SL, 熊野灘

**アンコウ属 Genus *Lophiomus* Gill 1883**

**アンコウ**  
***Lophiomus setigerus***  
**(Vahl 1797)**

紅海, インドー西太平洋に広く分布し, 日本では北海道から沖縄に広く分布する。鰓孔は胸鰭始部より背面上方に達しない。口腔内に白色斑があることでキアンコウ *Lophius litulon* (Jordan 1902) と区別できる。 (榊原弘陸)



アンコウ *Lophiomus setigerus*, FRLM 29531, 336 mm SL, 志摩市志摩町和具

## キアンコウ属 Genus *Lophius* Linnaeus 1758

### キアンコウ *Lophius litulon* (Jordan 1902)

黄海，朝鮮半島，済州島，日本では北海道から九州に分布する．鰓孔は胸鰭始部より背面上方に達しない．口腔内に白色斑がない．日本産同科でもっとも大型になり，定置網や底曳網の漁獲対象種である．

(榑原弘陸)



キアンコウ *Lophius litulon*  
上 FRLM 46453, 325 mm SL, 南伊勢町賛浦沖  
左 FRLM 49105, 128 mm SL, 伊勢湾



## アカグツ亜目 Suborder Ogcocephaloidei

## アカグツ科 Family Ogcocephalidae Gill 1893

## ソコグツ属 Genus *Dibranchus* Peters 1876

### ソコグツ *Dibranchus japonicus* Amaoka & Toyoshima 1981

南アフリカ，台湾，オーストラリア，日本では岩手県以南の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆に分布する．深海性．三重県では熊野灘の底曳網で採集される．吻は突出しないこと，体は黒褐色であることなどが特徴．

(榑原弘陸)

ソコグツ *Dibranchus japonicus*  
FRLM 34766, 59 mm SL, 熊野灘





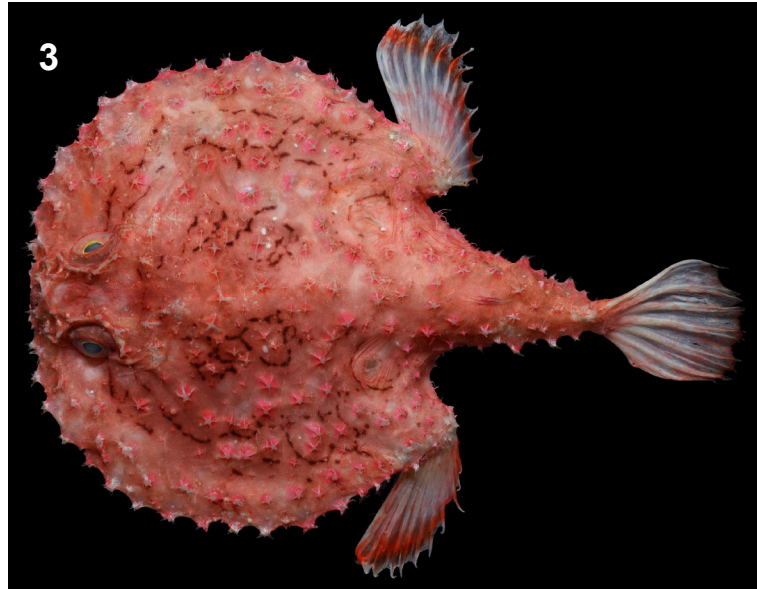
## アカグツ属 Genus *Halieutaea* Valenciennes 1837

### アカグツ *Halieutaea stellata* (Vahl 1797)

インドー西太平洋, 日本では新潟県から九州西岸の日本海沿岸, 青森県から九州南部の太平洋沿岸に分布する. 三重県では熊野灘の定置網や底曳網などで採集される. 本種は胸鰭・尾鰭・臀鰭の縁辺部は明瞭に黒くないことで同属のヘリグロアカグツ *Halieutaea* sp. 1 と区別できる.

(榑原弘陸)

アカグツ *Halieutaea stellata*  
FRLM 61381, 103 mm SL, 熊野灘



### ヘリグロアカグツ *Halieutaea* sp.

済州島南部から温州湾, 日本では三重県の他に東シナ海, 愛媛県, 山口県日本海側で採集されている. 同属のアカグツ *Halieutaea stellata* (Vahl 1797) とは胸鰭・尾鰭・臀鰭の周縁部が黒いことで区別できる.

(榑原弘陸)

ヘリグロアカグツ *Halieutaea* sp.  
FRLM 27206, 190 mm SL, 熊野灘

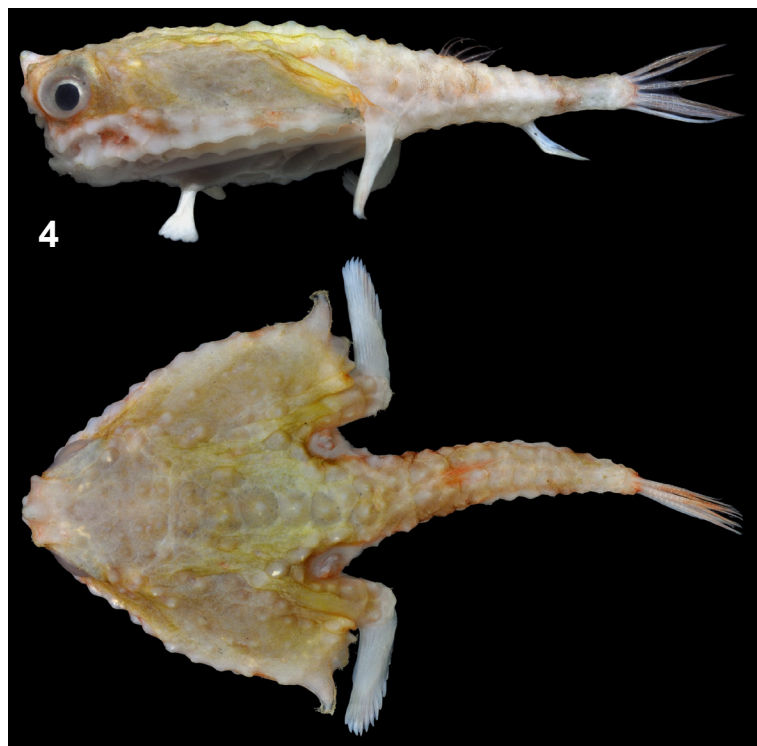


## フウリュウウオ属 Genus *Malthopsis* Alcock 1891

### ワヌケフウリュウウオ *Malthopsis annulifera* Tanaka 1908

日本海西南海域, 千葉県から九州南部の太平洋沿岸, 東シナ海, 中国東シナ海南部からフィリピンに分布する. 同属のコワヌケフウリュウウオ *Malthopsis gigas* Ho & Shao 2010 とは腹部に骨質疱状物が密に分布することで区別できる. (榑原弘陸)

ワヌケフウリュウウオ  
*Malthopsis annulifera*, FRLM 45664  
62 mm SL, 熊野灘



**コワヌケフウリュウウオ**  
***Malthopsis gigas***  
**Ho & Shao 2010**

千葉県から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆，台湾，マリアナ諸島，オーストラリア，ソマリア，マダガスカルに分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。  
 (榊原弘陸)

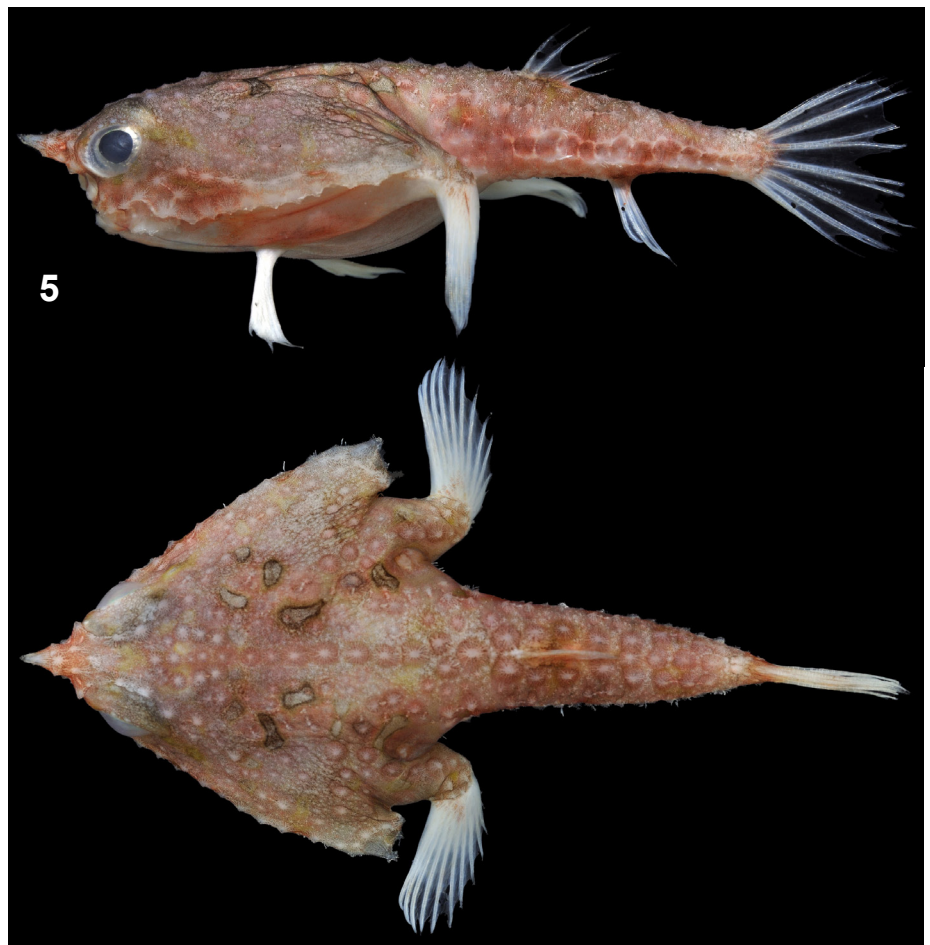
コワヌケフウリュウウオ  
*Malthopsis gigas*, FRLM 63604  
 81 mm SL, 熊野灘



**フウリュウウオ**  
***Malthopsis kobayashii***  
**Tanaka 1916**

日本海沿岸（香住，壱岐），駿河湾から九州南部の太平洋沿岸，東シナ海，朝鮮半島南部からオーストラリアに分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。本種は前鰓蓋骨に顕著な前向棘がないこと，前頭部に通常3-5列の瘤状突起があること，尾部の茶褐色横帯はかなり薄くて不明瞭であることが特徴。  
 (榊原弘陸)

フウリュウウオ *Malthopsis kobayashii*  
 FRLM 45663, 57 mm SL, 熊野灘





**カギフウリュウウオ**  
***Malthopsis mitrigera***  
**Gilbert & Cramer 1897**

三重県，土佐湾，九州－パラオ海嶺，東シナ海，台湾からフィリピン，ハワイ諸島，アンダマン海，アフリカ南東岸に分布する．三重県では熊野灘沖のカゴで採集された．本種は前鰓蓋骨に前向棘を2本もつことが特徴．  
 (榊原弘陸)

カギフウリュウウオ  
*Malthopsis mitrigera*, FRLM 15049  
 56 mm SL, 志摩半島沖熊野灘 (固定標本)



**カエルアンコウ亜目 Suborder Antennarioidei**

**カエルアンコウ科 Family Antennariidae Jarocki 1822**

**カエルアンコウ属 Genus Antennarius Daudin 1816**

**オオモンカエルアンコウ**  
***Antennarius commerson***  
**(Lacepède 1798)**

ハワイ諸島，タヒチ島を含むインド－太平洋の沿岸に広く分布する．国内では相模湾以南，伊豆諸島，小笠原諸島に生息する．三重県では熊野灘に分布する．本科魚類の体色は変異に富み，体色だけでの同定は困難である．本種は背鰭第2棘の後方には鰭膜があり第3棘と連結しないこと，通常背鰭8軟条，胸鰭11軟条，背鰭13軟条であることで日本産同属他種と区別できる．  
 (大島夢加)



オオモンカエルアンコウ *Antennarius commerson*, FRLM 26587  
 179 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**イロカエルアンコウ**  
***Antennarius pictus***  
**(Shaw 1794)**

紅海を含むインド－太平洋の沿岸に広く分布する．国内では相模湾以南に生息する．体色は変異に富む．本種は背鰭第2棘の後方には鰭膜があり第3棘と連結しないこと，通常背鰭7軟条，胸鰭10軟条，背鰭12軟条であることで日本産同属他種と区別できる．本標本は三重県志摩市志摩町和具のエビ網で採集された．多くの本科魚類がエビ網で混獲される．  
 (大島夢加)

イロカエルアンコウ *Antennarius pictus*  
 FRLM 26532, 120 mm SL  
 志摩市志摩町和具沖





**カエルアンコウ**  
***Antennarius striatus***  
 (Shaw 1794)

紅海, ハワイ諸島を含むインド-太平洋の沿岸に広く分布する。国内では北海道から奄美大島, 小笠原諸島に生息する。体色は変異に富む。本種は背鰭第2棘の後方には鰭膜がないこと, 吻上棘先端(エスカ)の皮弁が基部で2-7本に分岐することで日本産同属他種と区別できる。写真の個体のように, *Sarcotaces* 属の寄生性カイアシ類によって体表が腫瘍状に膨らんだ個体もしばしば見られる。(大島夢加)



カエルアンコウ *Antennarius striatus*, FRLM 54841, 103 mm SL, 英虞湾内座賀島

**ソウシカエルアンコウ属 Genus *Fowlerichthys* Barbour 1941**

**ソウシカエルアンコウ**  
***Fowlerichthys scriptissimus***  
 (Jordan 1902)

フィリピン諸島, ニューゼーランド, レユニオン島で記録されている。国内では三浦半島から高知県にかけて点在的に確認される。三重県では熊野灘から標本が得られている。胸鰭軟条が分岐することで日本産同属他種と区別できる。本科魚類はハナオコゼ *Histrio histrio* (Linnaeus 1758) を除いて底生性が強く, ほとんど遊泳しない。(大島夢加)



ソウシカエルアンコウ *Fowlerichthys scriptissimus*, FRLM 48205, 207 mm SL, 尾鷲市

**ハナオコゼ属 Genus *Histrio* Fischer 1813**

**ハナオコゼ**  
***Histrio histrio***  
 (Linnaeus 1758)

インド-西太平洋の沿岸に広く分布し, ハワイ諸島および大西洋でも稀に記録される。国内では北海道以南, 小笠原諸島に生息する。本種は体表が低い円形小瘤で被われることで日本産同科他種と区別できる。本種はホンダワラ類をはじめとする流れ藻についていることが多く, モジャコ(ブリの幼魚)と共に網で掬われることがある。(大島夢加)



ハナオコゼ *Histrio histrio*, FRLM 29123, 114 mm SL, 英虞湾内座賀島



## フサアンコウ亜目 Suborder Chaunacioidei

## フサアンコウ科 Family Chaunacidae Gill 1863

フサアンコウ属 Genus *Chaunax* Lowe 1846

## ミドリフサアンコウ

*Chaunax abei*

Le Danois 1978

千葉県から九州南岸の太平洋沿岸、青森県、富山湾、朝鮮半島、台湾、ベトナムに分布する。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。背鰭軟条部前方にくぼみが無いことで同属のホンフサアンコウ *Chaunax fimbriatus* Hilgendorf 1879 と区別できる (榊原弘陸)



## アカフウセン

*Chaunax apus*

Lloyd 1909

インドー西太平洋に分布する。本種は志摩市大王崎沖から得られた標本に基づいて和名が提唱された (小泉・田城, 2020)。本種は体色が一樣に赤色で斑紋を欠くことから日本産同属他種と区別できる (小泉・田城, 2020)。(笹木大地)



アカフウセン *Antennarius apus*, FAKU 1151508, 194 mm SL, 熊野灘 (愛知県水揚げ)

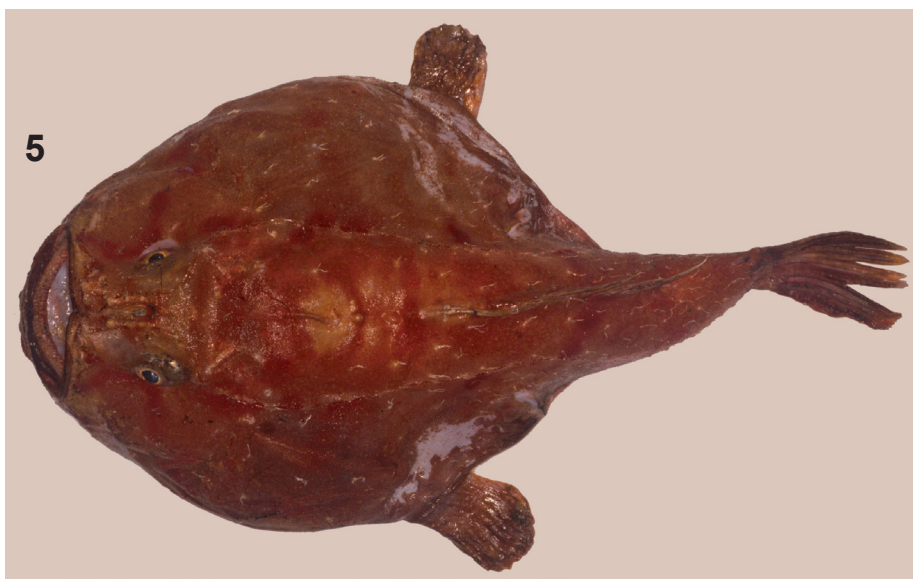
## ホンフサアンコウ

*Chaunax fimbriatus*

Hilgendorf 1879

千葉県から九州南部の太平洋沿岸、青森県、東シナ海、九州ーパラオ海嶺、韓国、台湾、オーストラリアに分布する。三重県では熊野灘の刺網や底曳網で採集される。体背面に大きな黄色斑をもつことが特徴。(榊原弘陸)

ホンフサアンコウ *Chaunax fimbriatus*, FRLM 10373, 志摩市志摩町御座沖



## ハナグロフサアンコウ

*Chaunax penicillatus*

McCulloch 1915

インドー西太平洋に広く分布し、日本では千葉県から九州南部の太平洋沿岸、東シナ海、九州ーパラオ海嶺に分布する。体に斑紋があること、誘引突起のあるくぼみの後端が眼の前縁を結ぶ線に達しないことで日本産同属他種と区別できる。(榊原弘陸)

ハナグロフサアンコウ  
*Chaunax penicillatus*, FRLM 34147  
86 mm SL, 熊野灘



## チョウチンアンコウ亜目 Suborder Ceratioidei

### ミツクリエナガチョウチンアンコウ科 Family Ceratiidae Gill 1861

#### ビワアンコウ属 Genus *Ceratias* Krøyer 1845

##### エナシビワアンコウ *Ceratias uranoscopus* Murray 1877

世界中の温帯から熱帯域に分布する。日本では相模湾、熊野灘で採集されている。中深層遊泳性。同属のビワアンコウ *Ceratias holboelli* Krøyer 1845 とは吻上棘先端の疑餌状体の先端に糸状皮弁がないことで区別できる。(榊原弘陸)

エナシビワアンコウ  
*Ceratias uranoscopus*, FRLM 8881  
80 mm SL, 熊野灘 (固定標本, 左右反転)



#### ミツクリエナガチョウチンアンコウ属 Genus *Cryptopsaras* Gill 1883

##### ミツクリエナガチョウチンアンコウ *Cryptopsaras couesii* Gill 1883

世界中の温帯から熱帯域、日本では太平洋側に広く分布する。中深層遊泳性。三重県では熊野灘で採集されている。本種の雌では背鰭前方の肉質突起が3個であることが特徴。(榊原弘陸)



ミツクリエナガチョウチンアンコウ *Cryptopsaras couesii*, FRLM 10304, 12 mm SL  
熊野灘 (固定標本)

## フグ目 Order Tetraodontiformes

### ベニカワムキ亜目 Suborder Triacanthodoidei

#### ベニカワムキ科 Family Triacanthodidae Gill 1862

#### ヤミカワムキ属 Genus *Bathypylax* Myers 1934

##### ヤミカワムキ *Bathypylax omen* Tyler 1966

インド洋のケニアおよび三重県志摩市大王崎南東沖から記録されている (Matsuura et al., 2021)。本種は背鰭の前方3棘が後方3棘に比べ大きいこと、口はやや上を向くこと、吻が短いことなどが特徴 (Tyler, 1968; 1983; Santini, 2006; Matsuura et al., 2021)。(笹木大地)

ヤミカワムキ *Bathypylax omen*  
BSKU 135770, 57 mm SL, 宮崎県





## フエカワムキ属 Genus *Macrorhamphosodes* Fowler 1934

### フエカワムキ

#### *Macrorhamphosodes uradoi* (Kamohara 1933)

インドー西太平洋, 日本では秋田県, 東北地方から宮崎県の太平洋, 鹿児島県枕崎と黒島の間海域, 東シナ海, 中・西マリアナ海嶺に分布する. 三重県では熊野灘から標本が得られている. 本種はナガカワムキ *Halimochirurgus alcocki* Weber 1913 に似るが, 口幅は吻部の幅の約2倍であること, 背鰭第3棘は大きく, 長さは第2棘の約2/3倍であることで区別できる. (笹木大地)



フエカワムキ *Macrorhamphosodes uradoi*, FRLM 63056, 47 mm SL, 熊野灘

## ベニカワムキ属 Genus *Triacanthodes* Bleeker 1857

### ベニカワムキ

#### *Triacanthodes anomalus* (Temminck & Schlegel 1850)

西太平洋, 日本では新潟県および茨城県から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 東シナ海大陸棚域, 中・西マリアナ海嶺に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体側に黄色の縦線が2本あること, 両眼間隔域は丸く膨出すること, 眼径は吻長と等しいかわずかに短いことで同属他種と区別できる. (笹木大地)

ベニカワムキ *Triacanthodes anomalus*  
FRLM 64594, 71 mm SL, 熊野灘



### シマベニカワムキ

#### *Triacanthodes ethiops* Alcock 1894

インドー西太平洋, 日本ではこれまでに土佐湾から記録されていた. 本標本は沖合底曳網で漁獲され, その後尾鷲市場に水揚げされた. 本種は体側に黄色の縦線が3本あること, 両眼間隔域は平坦かわずかに膨らむこと, 眼径は吻長より短いことで同属他種と区別できる. (笹木大地)

シマベニカワムキ *Triacanthodes ethiops*  
FRLM 35036, 126 mm SL, 熊野灘

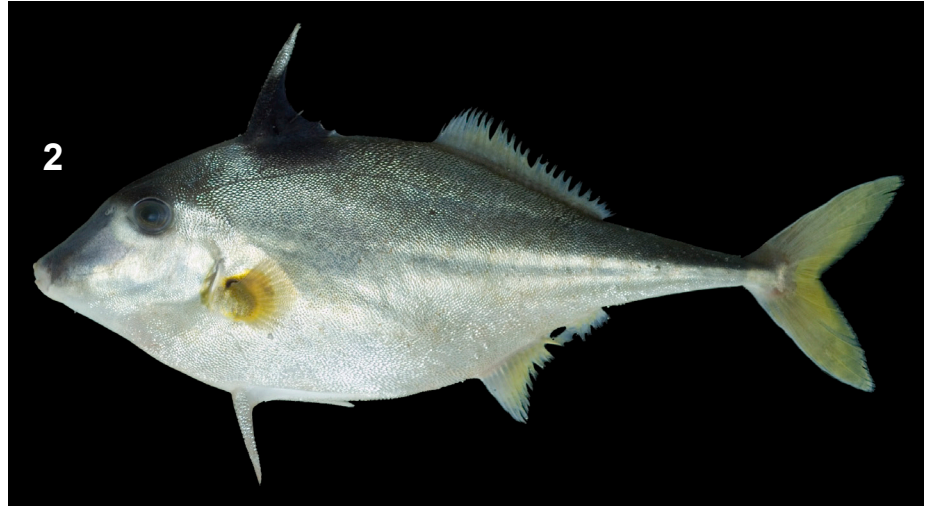


## ギマ科 Family Triacanthidae Bleeker 1859

### ギマ属 Genus *Triacanthus* Oken 1817

#### ギマ

#### *Triacanthus biaculeatus* (Bloch 1786)



ギマ *Triacanthus biaculeatus*

左 稚魚, FRLM 41658, 17 mm SL, 津市白塚町

右 成魚, FRLM 31579, 202 mm SL, 志摩市志摩町御座

インドー西太平洋, 日本では新潟県佐渡および北海道南部から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 屋久島, 沖縄に分布する。

三重県では伊勢湾から熊野灘に分布し, 幼魚は汽水域やアマモ場でみられる。熊野灘の定置網にしばしばまとまって入網することがある。本種

は背鰭第1棘や左右の腹鰭の1棘が強く長いことが特徴。(笹木大地)

## フグ亜目 Suborder Tetraodontoidei

### ウチワフグ科 Family Triodontidae Bleeker 1859

### ウチワフグ属 Genus *Triodon* Cuvier 1829

#### ウチワフグ

#### *Triodon macropterus* Lesson 1829

インドー西太平洋, 日本では富山湾, 福島県いわき市, 神奈川県三崎, 和歌山県串本, 土佐湾, 草垣群島, トカラ列島以南から記録されている。三重県では尾鷲市で得られた個体の写真記録がある。本種は体が側扁すること, 腹部の膜状部が著しく大きいことが特徴。(笹木大地)

ウチワフグ *Triodon macropterus*  
尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)





## マンボウ科 Family Molidae Bonaparte 1832

ヤリマンボウ属 Genus *Masturus* Gill 1884ヤリマンボウ  
*Masturus lanceolatus*  
(Liénard 1840)

世界中の熱帯から温帯に分布する。日本では青森県以南の各地から記録されている。三重県では御浜町阿田和の定置網で漁獲された個体の写真記録がある。尾鰭はなく、本科特有の舵鰭と呼ばれる鰭をもつ。本種は舵鰭の中央が突出することで近縁のマンボウ属の3種と区別できる。  
(笹木大地)

ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus*  
御浜町阿田和 (笹木大地撮影)

マンボウ属 Genus *Mola* Koelreuter 1766ウシマンボウ  
*Mola alexandrini*  
(Ranzani 1839)

極地を除く全世界の海洋に分布し、国内でもほぼ全域で見られる。頭部背縁および腹縁が顕著に膨らむこと (> 162.5 cm TL), 舵鰭後縁は丸く 14-24 (平均 17.3) 鰭条であること, 舵鰭後縁の骨板が 8-15 (11.8) であること (> 60 cm TL), 鱗は小さな長方形 (真上から見ると線状) であることなどによって同属他種と区別可能 (Sawai et al., 2017).

(阿部公哉)

ウシマンボウ *Mola alexandrini*  
FRLM 40945, 843 mm TL  
志摩市志摩町片田

4

マンボウ  
*Mola mola*  
(Linnaeus 1758)

極地を除く全世界の海洋に分布し、国内でもほぼ全域で見られる。頭部背縁および腹縁が膨らまないこと, 舵鰭後縁は波打ち 11-14 (平均 12.3) 鰭条であること, 舵鰭後縁の骨板が 8-9 (8.6) であること (> 60 cm TL), 鱗は円錐状で先端が分枝する (真上から見ると点状) ことなどによって同属他種と区別可能 (Sawai et al., 2017).

(阿部公哉)

ウシマンボウ *Mola mola*, FRLM 37398  
406 mm TL, 志摩市志摩町片田

2



## クサビフグ属 Genus *Ranzania* Nardo 1840

### クサビフグ *Ranzania laevis* (Pennant 1776)

全世界の熱帯から温帯域に分布する。国内では富山県以南で散発的に確認されている。胸鰭が尖ること、舵鰭は切り落とされたような截形であること、体がくさび型であることによって同属他種と区別可能。沖合に生息する稀種である。(阿部公哉)

クサビフグ *Ranzania laevis*, 219 mm TL  
熊野灘 (岡田 誠撮影)



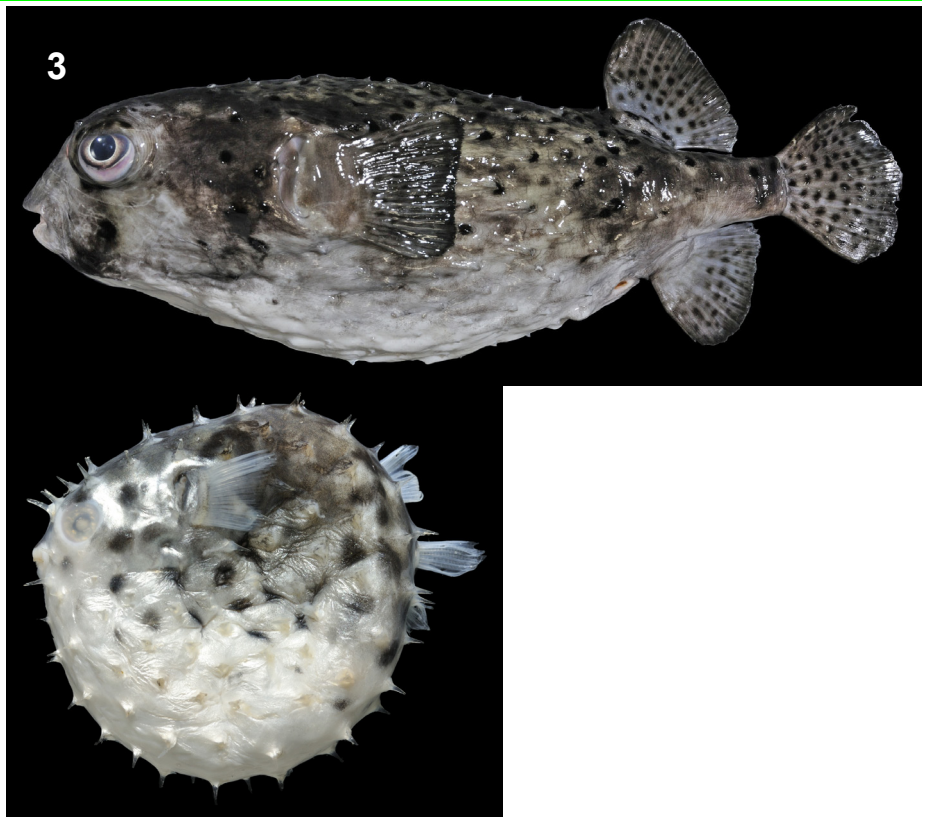
## ハリセンボン科 Family Diodontidae Billberg 1833

## イシガキフグ属 Genus *Chilomycterus* Brisout de Barneville 1846

### イシガキフグ *Chilomycterus reticulatus* (Linnaeus 1758)

世界中の熱帯から温帯域に分布する。国内では北海道から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸、大隅諸島以南、小笠原諸島に分布。体の棘が不動性であること、尾柄部背方にも棘があることによって日本産同属他種と区別可能。体に小黑点が散在する個体とない個体がいる(小枝, 2018b)。各鰭には小黑点がある。ハリセンボン科の中では全身を覆う棘が短く、やや鈍い。無毒であり、最大 55 cm に達する大型種。(阿部公哉)

イシガキフグ *Chilomycterus reticulatus*  
上 FRLM 45590, 342 mm SL  
熊野市遊木町  
下 FRLM 44442, 47 mm SL, 熊野灘



## ハリセンボン属 Genus *Diodon* Linnaeus 1758

### ハリセンボン *Diodon holocanthus* Linnaeus 1758

世界中の熱帯から温帯域に分布する。国内では北海道から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸、大隅諸島以南に分布。体に多数の小黑点があるが、各鰭にはない。鰓蓋の直前の鰓蓋部に白く縁取られた黒色斑がなく、体背面の黒色斑には白い縁取りがないことによってヒトヅラハリセンボン *Diodon liturosus* Shaw 1804 と区別することができる。(阿部公哉)



ハリセンボン *Diodon holocanthus*, FRLM 53656, 149 mm SL, 英虞湾内座賀島



**ネズミフグ**  
***Diodon hystrix***  
**Linnaeus 1758**

世界中の熱帯から温帯域に分布する。国内では青森県から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸、大隅諸島以南、小笠原諸島に分布。背鰭、尾鰭に黒点があること、背鰭、臀鰭の先端が丸いこと、尾柄下部に棘がないこと、体の棘は可動性であることによって日本産同属他種と区別可能。最大 70 cm に達する大型種。(阿部公哉)

ネズミフグ *Chilomycterus hystrix*

上 FRLM 46586, 309 mm SL

志摩市志摩町和具沖

下 FRLM 63322, 226 mm SL

御浜町阿田和



**フグ科 Family Tetraodontidae Bonaparte 1831**

**モヨウフグ属 Genus Arothron Müller 1841**

**ホシフグ**  
***Arothron firmamentum***  
**(Temminck & Schlegel 1850)**

インドー西太平洋と南アフリカ南岸の暖海域。日本では青森県以南の日本海・東シナ海・太平洋沿岸に分布する。三重県ではしばしばまき網や定置網で大量に混獲され操業の妨げになっている。体の断面は丸く、背腹面に小棘がある。尾鰭後縁は丸い。鼻孔は1個。背鰭は14軟条。臀鰭は13-14軟条。(岡田 誠)



ホシフグ *Arothron firmamentum*, FRLM 49185, 141 mm SL, 熊野市甫母町

**サザナミフグ**  
***Arothron hispidus***  
**(Linnaeus 1758)**

インドー太平洋の暖海域。日本では青森県以南の太平洋沿岸に分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘から幼魚が採集されている。体の断面は丸く、背腹面に小棘がある。尾鰭後縁は丸い。鼻孔は1個。背鰭は10-11軟条。臀鰭は10-11軟条。尾鰭には白色ないし青白色点が散在する。体の背方は白色点が散在、腹方は黒褐色の波状紋がある。幼魚では体の地色は黒い。(岡田 誠)

サザナミフグ *Arothron hispidus*

上 FRLM 60886, 147 mm SL

南伊勢町中津浜

下 FRLM 51142, 90 mm SL

英虞湾内座賀島





**カスミフグ**  
***Arothron immaculatus***  
**(Bloch & Schneider 1801)**

インドー西太平洋の暖海域。日本では琉球列島に分布する。三重県では鳥羽市浦村から幼魚1個体が採集された。体の断面は丸く、背腹面に小棘がある。尾鰭後縁は丸い。鼻孔は1個。背鰭は10-11軟条。臀鰭は9-10軟条。尾鰭には白色点も黒色点もなく後縁は黒い。体には黒色点がない。(岡田 誠)

**スジモヨウフグ**  
***Arothron manilensis***  
**(Marion de Procé 1822)**

西太平洋の暖海域。日本では相模湾、日向灘、鹿児島県本土、大隅諸島以南に分布する。三重県では紀北町島勝浦および尾鷲市の定置網から2標本が得られている。サンゴ礁、藻場、砂地、汽水域に生息。体の断面は丸く、背腹面に小棘がある。尾鰭後縁は丸い。鼻孔は1個。背鰭は9-11軟条。臀鰭は9-10軟条。頭部背側面は流れ模様。尾鰭には明瞭な黒い縞模様がなく、後縁は暗色。(岡田 誠)

**ケショウフグ**  
***Arothron mappa***  
**(Lesson 1831)**

インドー西太平洋の暖海域。日本では相模湾、鹿児島県本土、屋久島、沖縄諸島以南に分布する。三重県では Suzuki et al. (1994) によって鳥羽市本浦からの記録が報告されている。サンゴ礁に生息。体の断面は丸く、背腹面に小棘がある。尾鰭後縁は丸い。鼻孔は1個。背鰭は11-12軟条。臀鰭は9-11軟条。目の周囲の斑紋は放射状。尾鰭には白色ないし青白色の白色点が散在する。(岡田 誠)

**モヨウフグ**  
***Arothron stellatus***  
**(Anonymous 1798)**

インドー太平洋の暖海域。日本では新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸、茨城県以南の太平洋沿岸に分布する。三重県では熊野灘の定置網から標本が得られており、2019年に降目撃例が増加している。サンゴ礁に生息。体の断面は丸く、背腹面に小棘がある。尾鰭後縁は丸い。鼻孔は1個。背鰭は10-12軟条。臀鰭は10-12軟条。尾鰭には黒色点が散在する。成魚の地色は白色で不定形の小黒点が敷き詰められる。幼魚は黄色で黒い波模様がある。(岡田 誠)

5



カスミフグ *Arothron immaculatus*, FRLM 39622, 136 mm SL, 静岡県

4



スジモヨウフグ *Arothron manilensis*, FRLM 46595, 167 mm SL, 尾鷲市

5



ケショウフグ *Arothron mappa*, FRLM 35817, 138 mm SL, インドネシア

3



モヨウフグ *Arothron stellatus*  
 上 成魚, FRLM 61239, 325 mm SL  
 南伊勢町宿浦  
 下 幼魚, FRLM 57227, 37 mm SL  
 英虞湾内座賀島



## キタマクラ属

Genus *Canthigaster* Swainson 1839

ハナキンチャクフグ  
*Canthigaster axiologus*  
Whitley 1931

東インド洋および太平洋の暖海域。日本では相模湾以南の太平洋沿岸に分布する。三重県では熊野灘に分布する。砂礫底、藻場、サンゴ礁付近に生息する。体には側線がなく、断面は側扁する。体側の鞍状斑には縁取りがあり、腹部下方まで達しない。(岡田 誠)



ハナキンチャクフグ *Canthigaster axiologus*, FRLM 45361, 48 mm SL  
志摩市志摩町御座

キタマクラ  
*Canthigaster rivulata*  
(Temminck & Schlegel 1850)

インドー太平洋の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沿岸、対馬以南の日本海・東シナ海沿岸に分布する。三重県では熊野灘で普通にみられる。岩礁底、転石帯、サンゴ礁、砂底域に生息する。体には側線がなく、断面は側扁する。体側には2本の暗色縦帯がある。(岡田 誠)



キタマクラ *Canthigaster rivulata*  
上 FRLM 50693, 95 mm SL  
志摩市志摩町和具沖  
下 FRLM 51135, 74 mm SL  
英虞湾内座賀島

## サバフグ属

Genus *Lagocephalus* Swainson 1839

クロサバフグ  
*Lagocephalus cheesemanii*  
(Clarke 1897)

西太平洋の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沿岸、能登半島以南の日本海・東シナ海沿岸に分布する。三重県では熊野灘の定置網で多く漁獲され、伊勢湾口海域にも多い。伊勢湾からも記録される。体の断面は丸い。体背方の小棘域は通常胸鰭先端の前方までしか達しない。尾鰭は二重湾入形で上下葉端は白く、下縁は黒い。筋肉、精巢、皮は食用。(岡田 誠)



クロサバフグ *Lagocephalus cheesemanii*, FRLM 33430, 250 mm SL, 志摩市志摩町御座

**カナフグ*****Lagocephalus inermis*  
(Temminck & Schlegel 1850)**

インドー西太平洋の暖海域。日本では東北以南の太平洋沿岸、富山湾以南の日本海沿岸に分布する。三重県では熊野灘、伊勢湾から記録されている。体の断面は丸い。体に小棘はない。鰓孔は黒い。尾鰭はほとんど湾入しない。筋肉、精巢、皮は食用。  
(岡田 誠)



カナフグ *Lagocephalus inermis*, FRLM 65817, 453 mm SL, 御浜町阿田和

**クマサカフグ*****Lagocephalus lagocephalus*  
(Linnaeus 1758)**

インドー太平洋の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海沿岸に分布する。三重県では熊野灘に分布する。体の断面は丸い。胸鰭上半分は黒い。尾鰭下葉は上葉より明らかに長い。  
(岡田 誠)



クマサカフグ *Lagocephalus lagocephalus*  
上 FRLM 56611, 344 mm SL  
鳥羽市国崎沖  
下 FRLM 60873, 46 mm SL  
南伊勢町奈屋浦

**センニンフグ*****Lagocephalus scleratus*  
(Gmelin 1789)**

インドー西太平洋の暖海域、地中海東部。日本では北海道以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海沿岸に分布する。三重県では熊野灘に分布する。体の断面は丸い。鰓孔は黒い。体の背面に小黑点が散在する。尾鰭はよく湾入する。  
(岡田 誠)



センニンフグ *Lagocephalus scleratus*, FRLM 64663, 571 mm SL, 御浜町阿田和

**シロサバフグ*****Lagocephalus spadiceus*  
(Richardson 1845)**

西太平洋の暖海域。日本では北海道以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘に分布する。体の断面は丸い。体背方の小棘域は通常胸鰭先端の前方までしか達しない。尾鰭は湾入形で下縁は白い。筋肉、精巢、皮は食用。  
(岡田 誠)



シロサバフグ *Lagocephalus spadiceus*, FRLM 31395, 109 mm SL, 志摩市志摩町御座

**カイユウセンニンフグ*****Lagocephalus suezensis*  
Clark & Gohar 1953**

紅海、地中海東部。日本では高知県以布利、宮崎県門川町、鹿児島県本土、種子島、奄美大島、沖縄島、西表島で記録されている。三重県では志摩市志摩町御座の定置網から記録されている。体の断面は丸い。鰓孔は黒い。体の背面に茶褐色の斑点が散在し、それらの間に複雑な形の褐色斑がある。尾鰭はよく湾入する。  
(岡田 誠)



カイユウセンニンフグ *Lagocephalus suezensis*, FRLM 12148, 106 mm SL  
志摩市志摩町御座



## ヨリトフグ属 Genus *Sphoeroides* Anonymous [Lacepède] 1798

### ヨリトフグ *Sphoeroides pachygaster* (Müller & Troschel 1848)

世界中の温帯から熱帯域。津軽海峡以南の太平洋沿岸、日本海沿岸に分布する。三重県では熊野灘で操業する沖合底曳網で漁獲対象となっており、まき網でも混獲されることがある。体の断面は丸い。体に小棘がなく、極微細線が密に走る。産地市場等ではヒガンフグ *Takifugu pardalis* (Temminck & Schlegel 1850) のことを「よりと」と呼ぶことがある。筋肉、精巢、皮は食用。(岡田 誠)

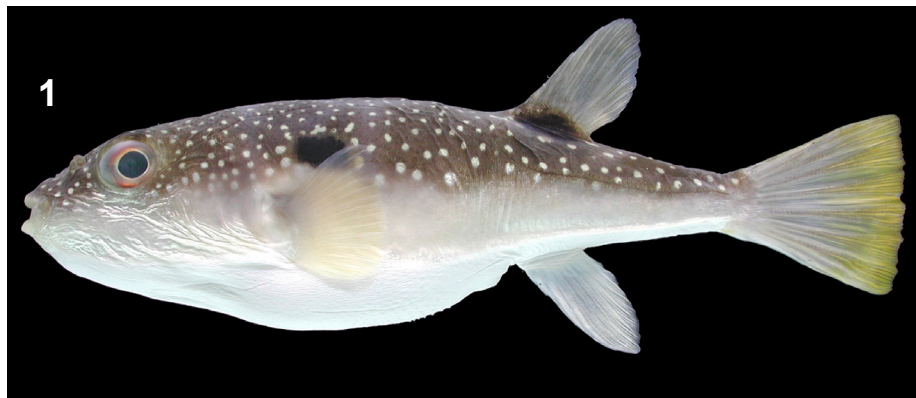


ヨリトフグ *Sphoeroides pachygaster*, FRLM 55331, 260 mm SL, 志摩市志摩町片田沖

## トラフグ属 Genus *Takifugu* Abe 1949

### クサフグ *Takifugu alboplumbeus* (Richardson 1845)

サハリンから南シナ海の沿岸域。日本では北海道南西岸以南の日本海沿岸、青森県以南の太平洋沿岸に分布する。三重県では沿岸域から河川汽水域で普通にみられる。体の断面は丸い。体表には小棘が分布し、背・腹面の小棘は連続しない。体側下部を走る1皮褶がある。胸鰭後方に大黒斑があり、円形で白い縁取りがない。背鰭は12-14軟条。やや黄色味のある小白円斑が体に散在する。産地市場等では本種を含む複数種の小型フグをまとめて「しおさいふぐ」と呼ぶことがある。筋肉は食用。(岡田 誠)



クサフグ *Takifugu alboplumbeus*, FRLM 26102, 102 mm SL, 志摩市志摩町御座

### アカメフグ *Takifugu chrysops* (Hilgendorf 1879)

日本と朝鮮半島南岸の沿岸域。日本では福島県から土佐湾の太平洋沿岸と九州北岸、瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。体の断面は丸い。体側下部を走る1皮褶がある。体の背面と側面に黒斑が散在する。体表には小棘がなく、背面と腹面には小瘤状突起があるが、頬には斑紋がないことでヒガンフグ *Takifugu pardalis* (Temminck & Schlegel 1850) と区別できる(松浦, 2018)。産地市場等ではヒガンフグのことを「あかめふぐ」と呼ぶことがある。筋肉、精巢は食用。(岡田 誠)



アカメフグ *Takifugu chrysops*  
上 FRLM 56675, 180 mm SL  
志摩市志摩町御座沖  
下 FRLM 29397, 186 mm SL  
志摩市志摩町和具沖

**ムシフグ**  
***Takifugu exascurus***  
**(Jordan & Snyder 1901)**

日本固有種。新潟県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、千葉県から和歌山県の太平洋沿岸、瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。体の断面は丸い。体表には小棘が分布し、背・腹面の小棘は連続しない。体側下部を走る1皮褶がある。体の斑紋は虫食い状。

(岡田 誠)



ムシフグ *Takifugu exascurus*, FRLM 32718, 151 mm SL, 志摩市志摩町和具

**コモンフグ**  
***Takifugu flavipaterus***  
**Matsuura 2017**

日本と朝鮮半島東岸・南岸・南部西岸、済州島、台湾、香港の沿岸域。日本では北海道以南の太平洋、日本海・東シナ海沿岸に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘で普通にみられる。体の断面は丸い。体表には小棘が分布し、背・腹面の小棘は胸鰭の前方と後方で連続する。体側下部を走る1皮褶がある。体背面に白色斑が散在し、背鰭後方の白色斑は通常円形に近い。体背面小棘の基部は通常顕著な微小白点となっていない。



コモンフグ *Takifugu flavipaterus*, FRLM 39639, 176 mm SL, 志摩市志摩町御座

い。産地市場等では本種を含む複数「ふぐ」と呼ぶことがある。筋肉は食用。種の小型フグをまとめて「しおさい用。」(岡田 誠)

**ヒガンフグ**  
***Takifugu pardalis***  
**(Temminck & Schlegel 1850)**

日本と朝鮮半島の沿岸域、渤海、黄海、済州島、沿海州オルガ湾。日本では北海道以南の太平洋・日本海・東シナ海沿岸に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘に分布する。体の断面は丸い。体表には小棘がなく小瘤状突起が密に分布する。体側下部を走る1皮褶がある。体の斑紋は黒く、数や形は様々でほとんど無紋の個体もみられる。産地市場等では「あかめふぐ」や「より」と呼ばれることがある。筋肉は食用。

(岡田 誠)



ヒガンフグ *Takifugu pardalis*, FRLM 50816, 153 mm SL, 英虞湾内座賀島

**マフグ**  
***Takifugu porphyreus***  
**(Temminck & Schlegel 1850)**

日本と間宮海峡、朝鮮半島東岸・南岸、渤海、黄海、済州島、中国東シナ海沿岸、香港、台湾北部。日本ではオホーツク海南西部、北海道から九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海、日本海・東シナ海沿岸に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘から標本が得られているが個体数は多くない。体の断面は丸い。体表は円滑。



マフグ *Takifugu porphyreus*, FRLM 60758, 271 mm SL, 御浜町阿田和

体側下部を走る1皮褶がある。胸鰭後方に縁取りのない1大黒褐色斑がある。臀鰭は黄色みを帯びる。体の背側面は成魚では暗褐色、若魚では網目模様。筋肉、精巢は食用。(岡田 誠)



**アミメフグ**  
***Takifugu reticularis***  
**(Tian, Cheng & Wang 1975)**

日本と朝鮮半島南岸，渤海，黄海，中国東シナ海沿岸．日本では兵庫県香住と東シナ海，伊勢湾および遠州灘で記録がある．体の断面は丸い．体表には小棘が分布し，背・腹面の小棘は連続しない．体側下部を走る1皮褶がある．胸鰭後方に白い縁取りのある1大黒斑がある．背鰭は15-19軟条．体背面の斑紋は網目状．三重県で漁獲された個体はいずれも体表の小棘が弱く，尾鰭の形状や体の斑紋，鰭の色もトラフグ *Takifugu*

5



アミメフグ *Takifugu reticularis*, FRLM 49385, 179 mm SL, 伊勢湾

*rubripes* (Temminck & Schlegel 1850) とマフグ *Takifugu porphyreus* (Temminck & Schlegel 1850) の中間

形を呈していることから，これらの雑種である可能性も考えられる．  
 (岡田 誠)

**トラフグ**  
***Takifugu rubripes***  
**(Temminck & Schlegel 1850)**

日本と沿海州オルガ湾，サハリン南部オホーツク海沖，千島列島南部の太平洋沖，朝鮮半島全沿岸，済州島，中国東シナ海沿岸，台湾．日本では北海道から九州南岸の太平洋沿岸，瀬戸内海，日本海・東シナ海沿岸，東シナ海北部に分布する．三重県では伊勢湾から伊勢湾口域に多い．体の断面は丸い．体表には小棘が分布し，背・腹面の小棘は連続しない．体側下部を走る1皮褶がある．胸鰭

1



トラフグ *Takifugu rubripes*, FRLM 35103, 160 mm SL, 志摩市浜島町浜島

後方に白い縁取りのある1大黒斑がある．背鰭は15-19軟条．体背部の後半には不定形の黒斑がある．臀鰭は白みを帯びる．栽培対象種として

人工種苗の放流が盛んにおこなわれており，多い時では放流魚が漁獲物の大半を占めることがある．筋肉，精巢，皮は食用．  
 (岡田 誠)

**ショウサイフグ**  
***Takifugu snyderi***  
**(Abe 1988)**

日本と朝鮮半島南岸・東岸，東シナ海．日本では津軽海峡から九州南岸の太平洋沿岸，日本海沿岸に分布する．三重県では伊勢湾，熊野灘に分布する．体の断面は丸い．体表は円滑．体側下部を走る1皮褶がある．胸鰭後方に1大黒褐色斑がないか，あっても分割されている．臀鰭は白みを帯びる．体の背面に密な斑点または網目状模様がある．筋肉，精巢は食用．  
 (岡田 誠)

2



ショウサイフグ *Takifugu snyderi*, 志摩市志摩町御座上 FRLM 31580, 224 mm SL  
 下 FRLM 39928, 141 mm SL

**ゴマフグ**  
***Takifugu stictonotus***  
**(Temminck & Schlegel 1850)**

日本とピョートル大帝湾，朝鮮半島東岸，済州島，黄海東岸，中国東シナ海沿岸．日本では北海道北西岸および南西岸から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，東シナ海に分布する．三重県では熊野灘から記録されている．体の断面は丸い．体表には小棘が分布し，背・腹面の小棘は連続しない．体側下部を走る1皮褶がある．臀鰭は黄色みを帯びる．体には藍色小点が密在する．筋肉，精巢は食用．  
 (岡田 誠)

4



ゴマフグ *Takifugu stictonotus*, FRLM 33408, 239 mm SL, 尾鷲市

## ナシフグ

**Takifugu vermicularis**  
(Temminck & Schlegel 1850)

日本と渤海，黄海，済州島，中国浙江省北部以北の東シナ海沿岸，朝鮮半島南岸・西岸，沿海州オルガ湾，日本では新潟県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸，対馬，瀬戸内海，房総半島，相模湾，日向灘に分布する．三重県では熊野灘に分布する．体の断面は丸い．体表は円滑．体側下部を走る1皮褶がある．胸鰭後方に菊花状の白い縁取りのある1大暗

ナシフグ *Takifugu vermicularis*, FRLM 33290, 212 mm SL, 尾鷲市

褐色斑がある．臀鰭は白みを帯びる．尾鰭下縁は白い． (岡田 誠)

## シマフグ

**Takifugu xanthopterus**  
(Temminck & Schlegel 1850)

日本と沿海州オルガ湾，朝鮮半島沿岸，渤海，黄海，済州島，中国東シナ海・南シナ海沿岸，台湾，日本では北海道太平洋沿岸，青森県から九州南岸の沿岸，伊豆諸島，小笠原諸島，東シナ海に分布する．三重県では伊勢湾，熊野灘に分布する．体の断面は丸い．体表には小棘が分布し，背・腹面の小棘は連続しない．体側下部を走る1皮褶がある．虹彩や各鰭は黄色みを帯びる．体の斑紋は斜走帯．筋肉，精巢，皮は食用． (岡田 誠)

シマフグ *Takifugu xanthopterus*

志摩市志摩町御座

上 FRLM 10371, 243 mm SL

下 FRLM 40952, 221 mm SL

シッポウフグ属 Genus *Torquigener* Whitley 1930

## シッポウフグ

***Torquigener brevipinnis***  
(Regan 1903)

日本と台湾南部，大スンダ列島・小スンダ列島南岸，ニューカレドニア．日本では八丈島，相模湾から九州南岸の太平洋沿岸，東シナ海，種子島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．体の断面は丸い．体表には小棘が分布し，背・腹面の小棘は連続しない．背鰭は8-10軟条，臀鰭は7-8軟条．体側の黄褐色縦帯は通常不連続．頭部側面の褐色縦帯は5本．胸鰭は14-17軟条． (岡田 誠)

シッポウフグ *Torquigener brevipinnis*

上 FRLM 42175, 159 mm SL

志摩市志摩町御座

下 FRLM 59582, 30 mm SL

南伊勢町宿浦





## モンガラカワハギ亜目 Suborder Balistoidei

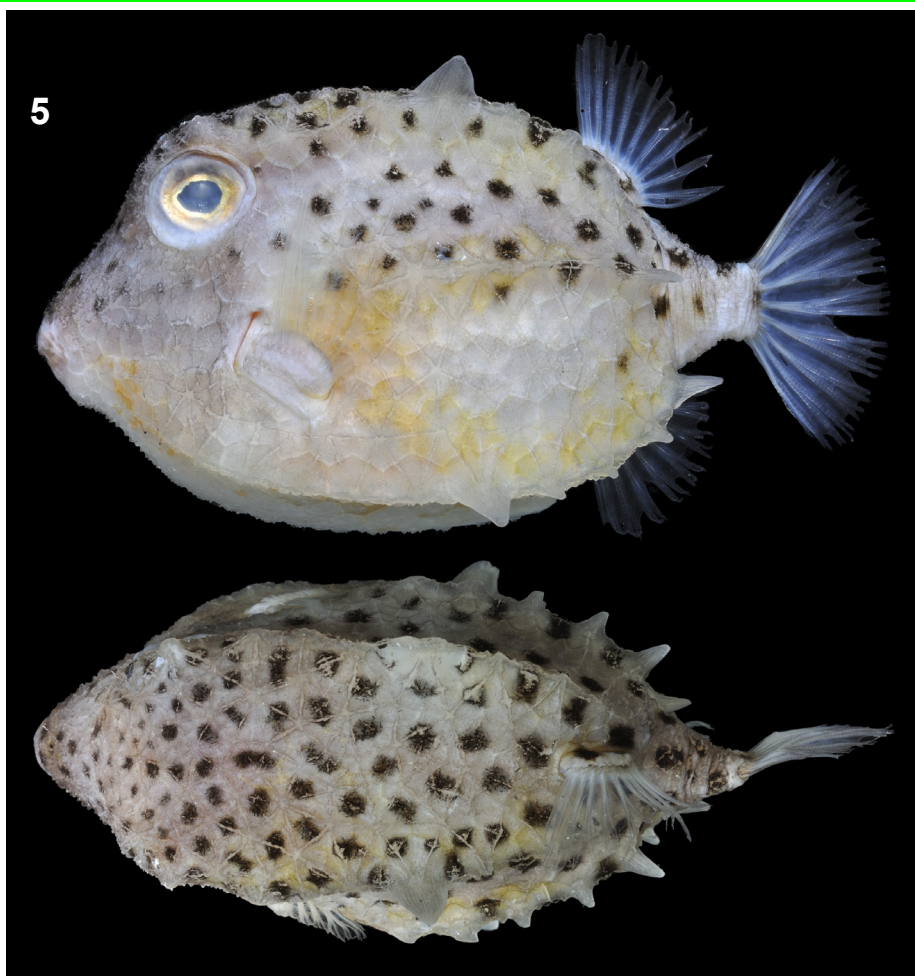
## イトマキフグ科 Family Aracanidae Hollard 1860

イトマキフグ属 Genus *Kentrocapros* Kaup 1855イトマキフグ  
*Kentrocapros aculeatus*  
(Houttuyn 1782)

朝鮮半島南岸から浙江省に分布する。水深 100–200 m の深場に生息し、国内では青森県以南から点的に記録がある。三重県では熊野灘から 2 標本が得られている。本種は背鰭・臀鰭の直後は体甲に被われないこと、甲板に多くの棘があることで日本産同属他種と区別できる。

(大島夢加)

イトマキフグ *Kentrocapros aculeatus*  
FRLM 44506, 61 mm TL, 熊野灘



## ハコフグ科 Family Ostraciidae Rafinesque 1810

コンゴウフグ属 Genus *Lactoria* Jordan & Fowler 1902コンゴウフグ  
*Lactoria cornuta*  
(Linnaeus 1758)

インドー太平洋に広く分布する。国内では主に伊豆半島以南に分布するが、青森県以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海沿岸から幼魚の記録がある。本種は眼上棘、腹側隆起棘および尾鰭が著しく長いことで日本産同属他種と区別できる。三重県では個体数が多くないものの毎年見られる。

(大島夢加)

コンゴウフグ *Lactoria cornuta*  
上 FRLM 60942, 165 mm SL  
紀北町島勝浦  
下 FRLM 51126, 46 mm SL  
英虞湾内座賀島



**ウミスズメ**  
***Lactoria diaphana***  
**(Bloch & Schneider 1801)**

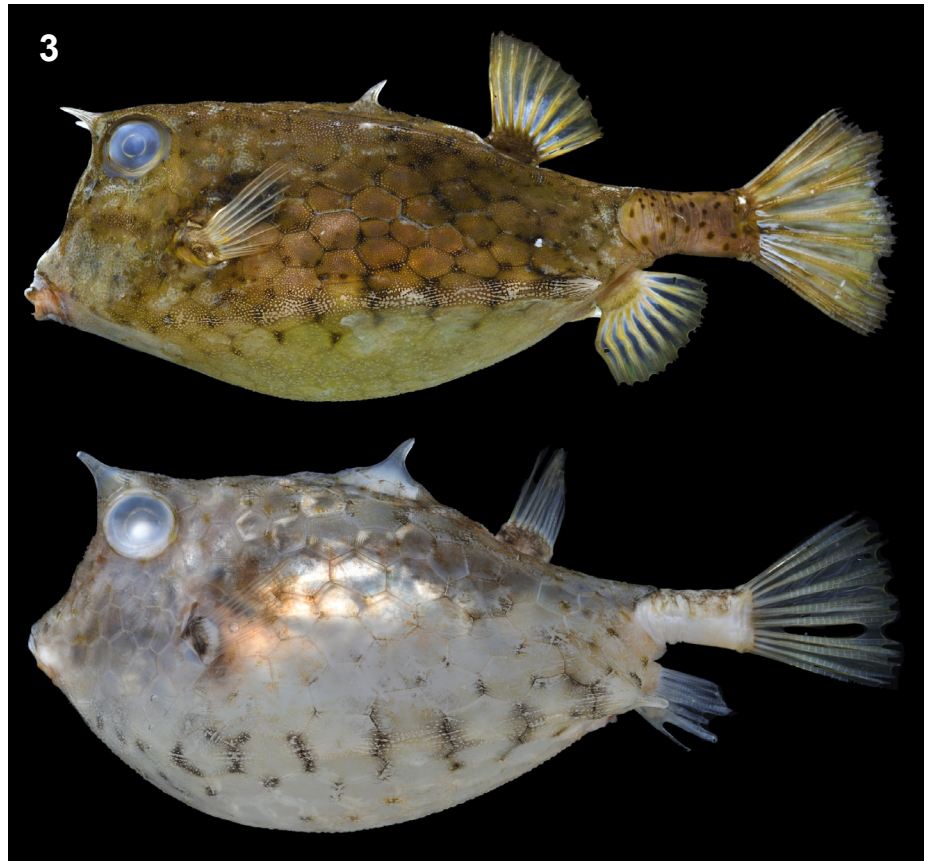
インドー太平洋に広く分布する。国内では主に伊豆半島以南に分布するが、函館以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海沿岸から幼魚の記録がある。本種は眼上棘が短いこと、背隆起は低く棘が上向きであることで日本産同属他種と区別できる。幼魚の体骨板は半透明。(大島夢加)

ウミスズメ *Lactoria diaphana*

上 FRLM 37167, 138 mm SL

志摩市志摩町御座

下 FRLM 37088, 106 mm SL, 熊野灘



**シマウミスズメ**  
***Lactoria fornasini***  
**(Bianconi 1846)**

東シナ海からオーストラリア東海岸にかけておよびアフリカ南東岸に分布する。国内では主に伊豆半島以南に分布する。本種はウミスズメ *Lactoria diaphana* (Bloch & Schneider 1801) に似るが、背隆起は高く棘が後ろ向きであること、体表に青色の虫食い状の模様があることで区別できる。本標本は志摩市志摩町のエビ網で採集された。本種のほか多くのハコフグ科魚類をエビ網漁の混獲物中から採集することができた。(大島夢加)



シマウミスズメ *Lactoria fornasini*, FRLM 36942, 91 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

**ハコフグ属 Genus *Ostracion* Linnaeus 1758**

**ミナミハコフグ**  
***Ostracion cubicum***  
**Linnaeus 1758**

インドー西太平洋に広く分布する。国内では茨城県以南の太平洋沿岸から記録がある。本標本は幼魚でありハコフグ *Ostracion immaculatum* Temminck & Schlegel 1850 幼魚と酷似するが、黒色円斑が眼径大であることから本種に同定した。三重県では幼魚が主で、成魚はほとんど見られない。(大島夢加)



ミナミハコフグ *Ostracion cubicum*, FRLM 45710, 48 mm SL, 英虞湾内座賀島



**ハコフグ**  
***Ostracion immaculatum***  
**Temminck & Schlegel 1850**

中国南シナ海，東シナ海沿岸，朝鮮半島，日本に分布する。国内では北海道以南に分布する。本種の成魚はミナミハコフグ *Ostracion cubicum* Linnaeus 1758 と類似するが，体高が高いことや色彩が異なることで区別できる。三重県南部では普通種で，夏季漁港等でしばしば観察することができる。（大島夢加）

ハコフグ *Ostracion immaculatum*  
 上 FRLM 30545, 141 mm SL  
 志摩市志摩町和具沖  
 下 FRLM 51886, 50 mm SL  
 英虞湾内座賀島



**テングハコフグ**  
***Ostracion rhinorhynchos***  
**Bleeker 1851**

インドー西太平洋に広く分布する。国内では青森県以南の太平洋沿岸，山口県の日本海沿岸で記録されている。本種は成魚において吻が突出することで日本産同属他種と区別できる。本標本は尾鷲市早田町の定置網で採集された。（大島夢加）



テングハコフグ *Ostracion rhinorhynchos*, FRLM 65816, 283 mm SL, 尾鷲市早田町

**ラクダハコフグ属 Genus *Tetrosomus* Swainson 1839**

**ハマフグ**  
***Tetrosomus reipublicae***  
**(Whitley 1930)**

インドー西太平洋に広く分布する。国内では主に伊豆半島以南に分布するが，北海道以南の太平洋沿岸，山口県の日本海沿岸で点在的に記録がある。本種は体の横断面が三角形であること，背隆起中央および眼上棘が2本であることで日本産同属他種と区別できる。（大島夢加）

ハマフグ *Tetrosomus reipublicae*  
 上 FRLM 46143, 174 mm SL  
 志摩市志摩町和具沖  
 下 FRLM 36769, 27 mm SL  
 志摩市志摩町御座



# カワハギ科 Family Monacanthidae Nardo 1843

## ウスバハギ属 Genus *Aluterus* Cloquet 1816

### ウスバハギ

*Aluterus monoceros*  
(Linnaeus 1758)

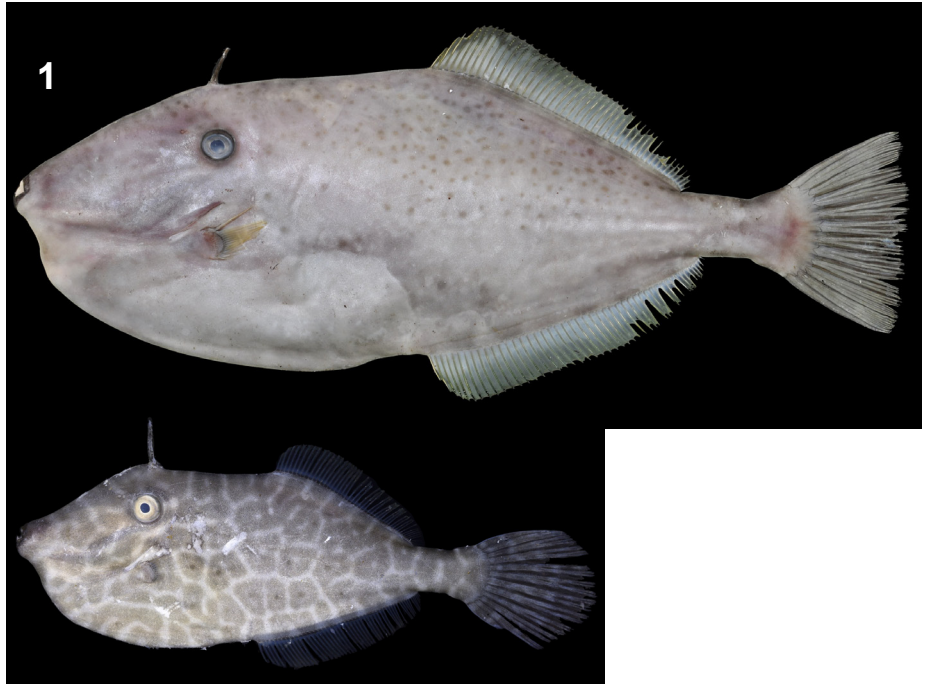
全世界の熱帯から温帯域に分布。国内では北海道から沖縄までの日本海・東シナ海・太平洋沿岸，八丈島，小笠原諸島に分布。体は灰白色で明瞭な模様はない。背・臀鰭軟条数が43以上であること，第1背鰭棘が眼の真上に位置すること，尾鰭が截形であることなどによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）

ウスバハギ *Aluterus monoceros*

上 FRLM 42079, 345 mm SL, 熊野灘

下 FRLM 60893, 89 mm SL

志摩市大王町波切



### ソウシハギ

*Aluterus scriptus*  
(Osbeck 1765)

全世界の熱帯から温帯域に分布する。国内では新潟県から九州西岸にかけての日本海・東シナ海沿岸，北海道から九州南岸にかけての太平洋沿岸，琉球諸島，小笠原諸島，大東諸島に分布。体は黄褐色であり，青色の虫食い模様と多数の小黑点がみられる。背鰭棘は眼の真上に位置し，細長く折れやすい。肝臓や消化管に猛毒のパリトキシンを含む場合があり，注意が必要である。尾鰭が長く，全長1 m近くまで成長する大型種。（阿部公哉）

ソウシハギ *Aluterus scriptus*

上 FRLM 39651, 321 mm SL

志摩市志摩町御座

下 FRLM 53659, 93 mm SL

英虞湾内座賀島



## アオサハギ属 Genus *Brachaluteres* Bleeker 1865

### アオサハギ

*Brachaluteres ulvarum*  
Jordan & Fowler 1902

日本固有種であり，茨城県から屋久島にかけての太平洋沿岸に分布。山口県から福岡県の日本海沿岸でも確認されている。腰骨の後端に鞘状鱗がないこと，背鰭と臀鰭の軟条数の合計が39以下であることにより日本産同属他種と区別可能。体は黄褐色であり，体側の小黑点は複数の縦列を形成する。（阿部公哉）

アオサハギ *Brachaluteres ulvarum*

尾鷲市（岩田昭人氏撮影；左右反転）





## ハクセイハギ属

Genus *Cantherhines* Swainson 1839

### ハクセイハギ *Cantherhines dumerilii* (Hollard 1854)

インドー太平洋と東太平洋の熱帯域に分布する。国内では新潟県以南、北海道の日本海沿岸からも偶発的な記録がある。尾柄部に上下2対の前向棘があること、腰骨の鞘状鱗は不可動であることなどにより日本産同属他種と区別可能。未成魚の体には多数の白色点がある。成魚になると白色点は消失し、体は褐色。背鰭、臀鰭、胸鰭は黄色。尾鰭は暗褐色である。（阿部公哉）

ハクセイハギ *Cantherhines dumerilii*  
FRLM 42118, 146 mm SL, 熊野灘



### メガネウマヅラハギ *Cantherhines fronticinctus* (Günther 1867)

インドー西太平洋の熱帯域に分布する。国内では千葉県以南。第1背鰭棘の小棘列は微小であること、体側に網目状斑がないこと、腰骨の鞘状鱗は不可動であること、尾柄部に大きな棘がないことなどから日本産同属他種と区別可能。体は黄褐色で不規則な暗色斑をもつ。生時、眼下縁は青色に縁取られる。（阿部公哉）

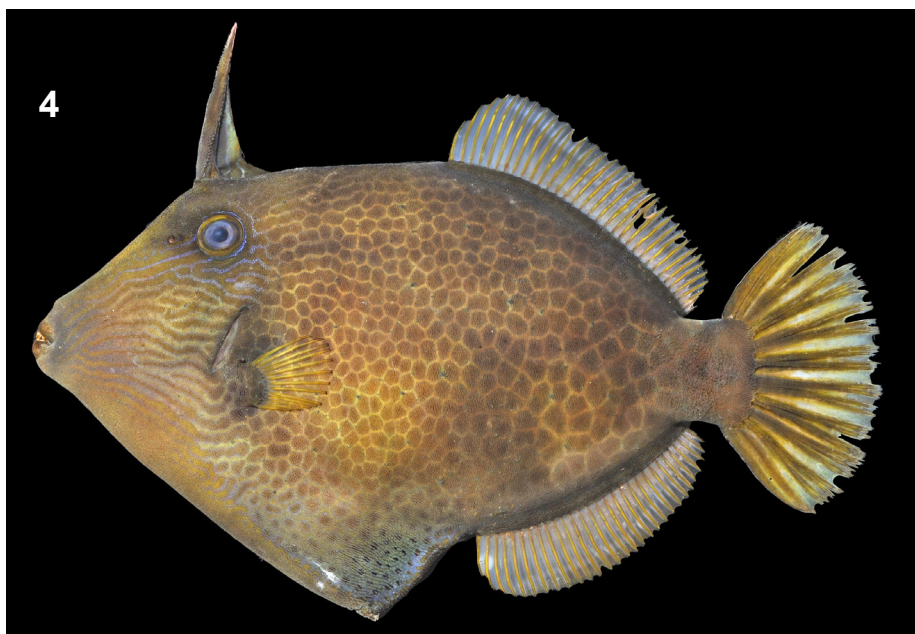
メガネウマヅラハギ  
*Cantherhines fronticinctus*, FRLM 37311  
127 mm SL, 志摩市志摩町御座



### アミメウマヅラハギ *Cantherhines pardalis* (Rüppell 1837)

インドー西太平洋の熱帯域に分布する。国内では茨城県以南。第1背鰭棘の小棘列が顕著であること、生時、体側に多数の網目状斑があること、腰骨の鞘状鱗は不可動であること、尾柄部に大きな棘がないことなどから日本産同属他種と区別可能。体は褐色で、淡黄色の網目模様があり、頭部には多数の褐色縦帯がみられる。尾柄上部には1白色斑があるが、固定後は不明瞭になる。（阿部公哉）

アミメウマヅラハギ  
*Cantherhines pardalis*, FRLM 44076  
153 mm SL, 志摩市志摩町和具沖





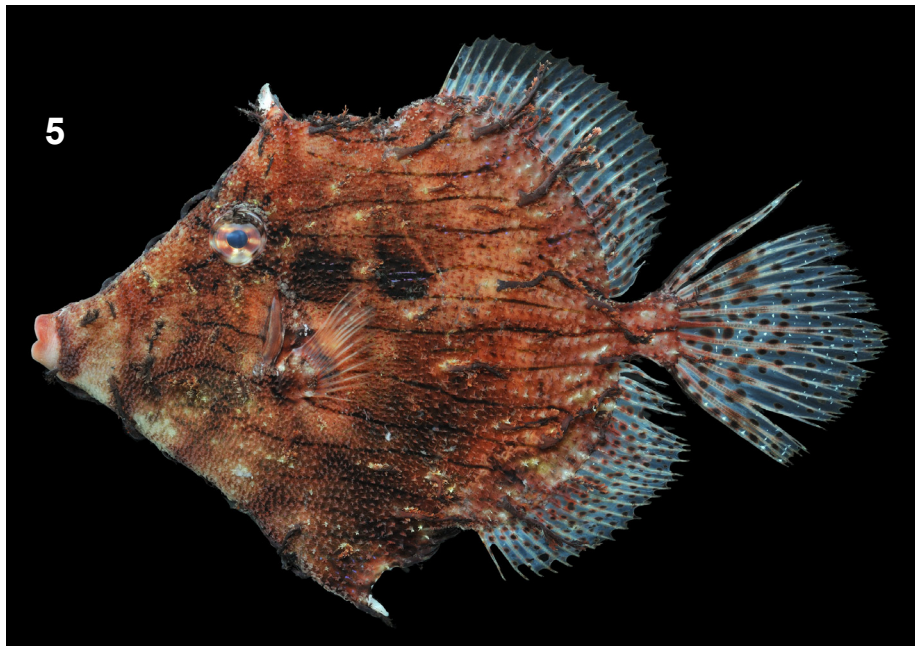
## ヒゲハギ属 Genus *Chaetodermis* Swainson 1839

### ヒゲハギ

#### *Chaetodermis penicilligera* (Cuvier 1816)

西部太平洋からオーストラリア北岸の熱帯や温帯域に分布する。国内では新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸，千葉県以南の太平洋沿岸，東シナ海北部から散発的に記録されている。体や背鰭棘に多数の皮弁がある。体側には多数の暗色縦帯がはしり，胸鰭以外の各鰭には暗色斑が散在する。（阿部公哉）

ヒゲハギ *Chaetodermis penicilligera*  
FRLM 46318, 144 mm SL  
志摩市志摩町和具沖



## ヨソギ属 Genus *Paramonacanthus* Bleeker 1865

### ヨソギ

#### *Paramonacanthus oblongus* (Temminck & Schlegel 1850)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布。国内では青森県から九州南岸にかけての日本海・東シナ海沿岸，岩手県から九州南岸にかけての太平洋沿岸，大隅諸島以南に分布。鞘状鱗の可動部が細長いこと，眼の後縁は第1背鰭棘と鰓孔を結んだ線より後方であることなどによって日本産同属他種と区別可能。形態に雌雄差があり，オスは体高がやや低く，尾鰭の先端が糸状に伸長する。（阿部公哉）

ヨソギ *Paramonacanthus oblongus*  
FRLM 39812, 55 mm SL  
志摩市志摩町御座



### ツラナガハギ

#### *Paramonacanthus pusillus* (Rüppell 1829)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布。国内では神奈川県から高知県の太平洋沿岸，鹿児島湾などで散発的に確認されている。鞘状鱗の可動部が細長いこと，眼の後縁は第1背鰭棘と鰓孔を結んだ線上か，その前方であること，吻の背縁が突出することなどによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）

ツラナガハギ *Paramonacanthus pusillus*  
FRLM 34081, 138 mm SL, 尾鷲市





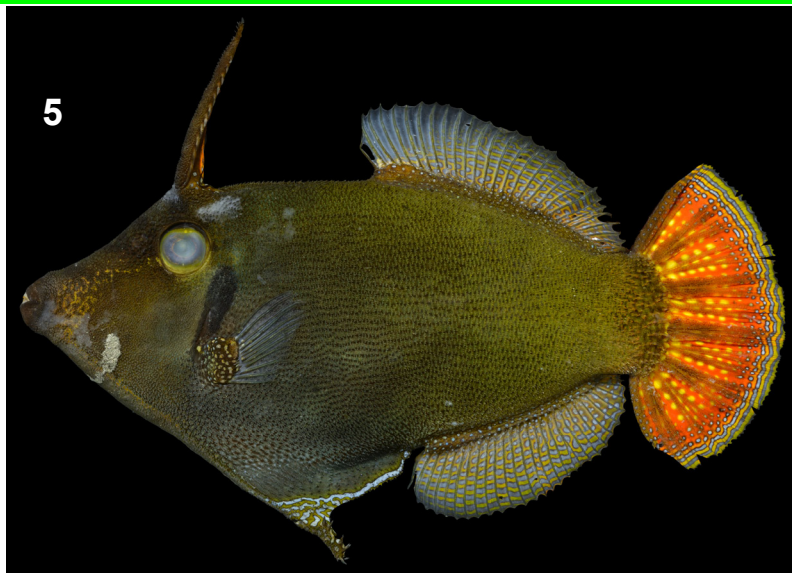
## ニシキカワハギ属 Genus *Pervagor* Whitley 1930

### ニシキカワハギ *Pervagor janthinosoma* (Bleeker 1854)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布。国内では千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、小笠原諸島に分布。第1背鰭棘の後側面に下向きの強い小棘が10本あること、鰓孔の周辺に暗色斑があること、腰骨の鞘状鱗は可動であることなどによって日本産同属他種と区別可能。

(阿部公哉)

ニシキカワハギ *Pervagor janthinosoma*  
FRLM 55340, 104 mm SL, 与那国島



## アミメハギ属 Genus *Rudarius* Jordan & Fowler 1902

### アミメハギ *Rudarius ercodes* Jordan & Fowler 1902

日本、朝鮮半島南岸、広東省に分布。国内では青森県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、北海道から九州南岸にかけての太平洋沿岸に分布。体は茶褐色で白色斑が密に入り網目模様を形成する。最大でも6 cmほどの小型種。カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* (Temminck & Schlegel 1850) の未成魚とは鰓孔下端が胸鰭基部より上方にあること（カワハギでは鰓孔下端が胸鰭基部の背縁に達する）、腰帯後端にある鞘状鱗の関節部が不可動であること（可動）などによって区別される。

(阿部公哉)



アミメハギ *Rudarius ercodes*, FRLM 51140, 37 mm SL, 英虞湾内座賀島

## カワハギ属 Genus *Stephanolepis* Gill 1861

### カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* (Temminck & Schlegel 1850)

太平洋北西部の温帯域に分布する。国内では青森県から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸に分布。腰骨の鞘状鱗は可動であり、その可動部は短いこと、腹側の膜状部は発達しないことなどによって日本産同属他種と区別可能。体は灰白色で、暗色のまだら模様が体側にみられる。オスでは背鰭軟条部の前方が糸状に伸長する。

(阿部公哉)



カワハギ *Stephanolepis cirrhifer*, FRLM 51116, 138 mm SL, 英虞湾内座賀島

# ウマヅラハギ属 Genus *Thamnaconus* Smith 1949

## サラサハギ

*Thamnaconus hypargyreus*  
(Cope 1871)

日本からオーストラリアにかけての西太平洋に分布。国内では新潟県から九州北岸にかけての日本海沿岸，千葉県から豊後水道にかけての太平洋沿岸，鹿児島湾に分布。体側に多数の黄褐色小斑が散在すること，尾鰭後縁が黒いこと，腰骨の鞘状鱗は不可動であることなどによって日本産同属他種と区別可能。水深85-220 m程度のやや深い場所に生息する。（阿部公哉）



サラサハギ *Thamnaconus hypargyreus*, FRLM 40494, 119 mm SL, 尾鷲市

## キビレカワハギ

*Thamnaconus modestoides*  
(Barnard 1927)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布する。国内では山口県から五島列島南西沖の日本海沿岸，神奈川県から九州南岸にかけての太平洋沿岸，大隅諸島以南，大東諸島，小笠原諸島に分布。体は一様に灰色で模様はないこと，鰓孔は眼の前半部下方に位置すること，腰骨の鞘状鱗は不可動であることなどによって日本産同属他種と区別可能。生時，背面正中線上に明瞭な白色帯がみられる場合がある。（阿部公哉）



キビレカワハギ *Thamnaconus modestoides*, FRLM 55911, 354 mm SL  
志摩市志摩町御座沖

## ウマヅラハギ

*Thamnaconus modestus*  
(Günther 1877)

北西太平洋の温帯域に分布する。国内では北海道から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸，八丈島，大隅諸島に分布。体は灰白色で，体側に不規則な雲状斑がみられること，鰓孔は眼の中央下方に位置すること，腰骨の鞘状鱗は不可動であることなどによって日本産同属他種と区別可能。成魚の背鰭，臀鰭，尾鰭は青色だが，未成魚ではやや黄色みがかかる場合がある。（阿部公哉）

ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus*  
上 FRLM 39549, 151 mm SL  
志摩市志摩町御座沖  
下 FRLM 57257, 34 mm SL  
伊勢市村松町沖





**センウマツラハギ**  
***Thamnaconus multilineatus***  
**(Tanaka 1918)**

インド・西太平洋の熱帯域に分布。国内では富山県以南の日本海沿岸，千葉県以南の太平洋沿岸，東シナ海で散発的に確認されている。体側に多くの縦帯がはしること，腰帯の鞘状鱗は不可動であることなどから日本産同属他種と区別可能。水深120–150 m 程度のやや深い場所に生息する稀種である。（阿部公哉）

センウマツラハギ

*Thamnaconus multilineatus*, FRLM 50532  
 107 mm SL, 尾鷲市早田町



**ゴイシウマツラハギ**  
***Thamnaconus tessellatus***  
**(Günther 1880)**

西太平洋に分布する。国内では相模灘以南に分布。体側に多数の暗褐色小斑が散在すること，尾鰭後縁が黒くならないこと，腰骨の鞘状鱗は不可動であることなどによって日本産同属他種と区別可能。サラサハギ *Thamnaconus hypargyreus* (Cope 1871) に似るが，本種の体側にみられる小斑は暗褐色である（サラサハギでは黄褐色）。（阿部公哉）

ゴイシウマツラハギ

*Thamnaconus tessellatus*, 尾鷲市  
 (岩田昭人氏撮影)



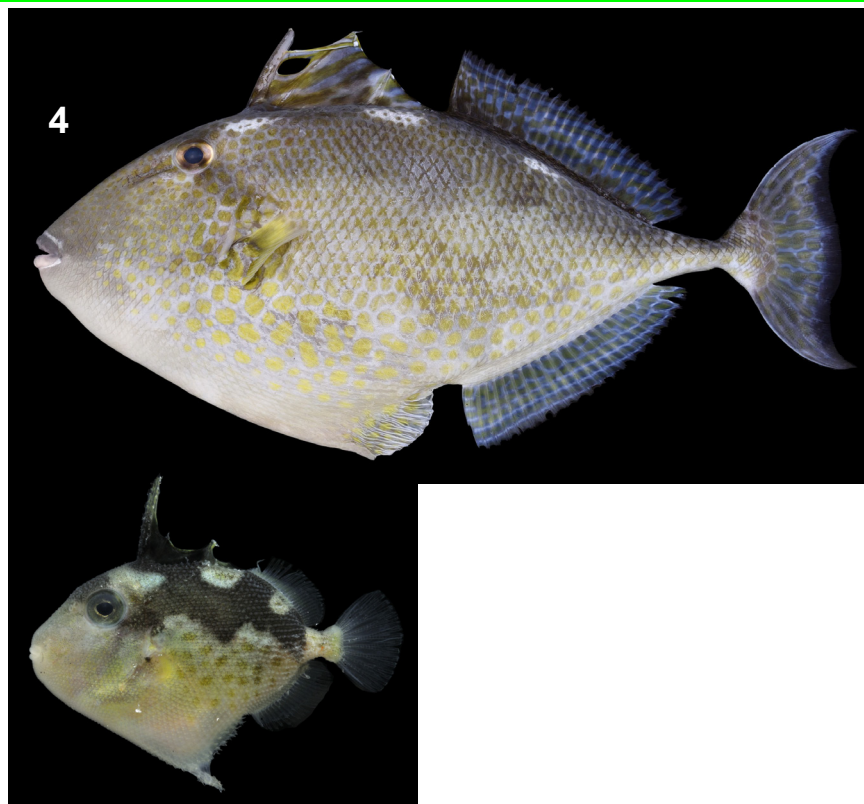
**モンガラカワハギ科 Family Balistidae Rafinesque 1810**

**オキハギ属 Genus Abalistes Jordan & Seale 1906**

**オキハギ**  
***Abalistes stellatus***  
**(Anonymous 1798)**

インドー西太平洋，日本では千葉県館山から鹿児島県本土，大隅諸島以南に分布する。三重県では日比野・長野（2020）により熊野市から記録されているほか，志摩市波切の定置網で成魚が，志摩市御座の定置網で幼魚の標本がそれぞれ得られている。本種はイトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus* Matsuura & Yoshino 2004 に似るが，頬に縦溝がないこと，体側に黄色点や青白点が散在することで区別できる。（笹木大地）

オキハギ *Abalistes stellatus*  
 上 FRLM 60896, 322 mm SL  
 志摩市大王町波切  
 下 FRLM 46197, 25 mm SL  
 志摩市志摩町御座



## モンガラカワハギ属 Genus *Balistoides* Fraser-Brunner 1935

### モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum* (Bloch & Schneider 1801)

インドー西太平洋, 日本では岩手県, 新潟県および鹿児島から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体の腹側に大きな白色斑が散在することが特徴. (笹木大地)

モンガラカワハギ

*Balistoides conspicillum*, FRLM 26738  
216 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



4

### ゴマモンガラ *Balistoides viridescens* (Bloch & Schneider 1801)

インドー太平洋, 日本では東京湾から鹿児島県本土, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 大東諸島に分布する. 三重県では熊野灘で幼魚がみられる. 本種は吻部が口唇を除いて鱗に被われること, 口角後方に無鱗の1皮褶があることが特徴. なお, 幼魚はキヘリモンガラ *Pseudobalistes flavimarginatus* (Rüppell 1829) によく似るが, 眼から胸鰭基部へと向かう暗色帯があること (キヘリモンガラではない), 背鰭起部から臀鰭基部後端へとつながる暗色帯をもつこと (暗色帯はつながらない) で区別できる (小枝, 2020b). (笹木大地)



3

ゴマモンガラ *Balistoides viridescens*, FRLM 52157, 29 mm SL, 英虞湾内座賀島

## アミモンガラ属 Genus *Canthidermis* Swainson 1839

### アミモンガラ *Canthidermis maculata* (Bloch 1786)

全世界の暖海域に広く分布する. 日本では瀬戸内海を含む北海道から九州南岸の各地, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では伊勢湾から熊野灘で幼魚がみられるほか, 熊野灘で操業する巻網で成魚がまとまって混獲されることがある. 本種はボウズモンガラ *Canthidermis macrolepis* (Boulenger 1888) に似るが, 体側に白色斑をもつこと, 体側鱗列数が40-49であることなどで区別できる (Matsunuma et al., 2020). (笹木大地)

アミモンガラ *Canthidermis maculata*  
上 FRLM 57231, 225 mm SL, 熊野灘  
下 FRLM 51105, 58 mm SL  
英虞湾内座賀島



3





## ソロイモンガラ属 Genus *Melichthys* Swainson 1839

### クロモンガラ *Melichthys vidua* (Richardson 1845)

インドー太平洋, 日本では北海道南部から高知県柏島・愛媛県宇和海の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 大東諸島に分布する。三重県では志摩市志摩町和具の刺網および熊野灘で操業する巻網から標本が得られている。本種は体が黒いこと, 背鰭および臀鰭は白く, 縁辺が黒いことが特徴。(笹木大地)

クロモンガラ *Melichthys vidua*

上 FRLM 26526, 130 mm SL

志摩市志摩町御座沖

下 FRLM 44433, 88 mm SL, 熊野灘

4



## アカモンガラ属 Genus *Odonus* Gistel 1848

### アカモンガラ *Odonus niger* (Rüppell 1836)

インドー太平洋, 日本では三浦半島, 伊豆半島, 高知県柏島, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島から記録がある。三重県では尾鷲市の定置網で1標本が得られている。本種は上顎に突出した強大な牙状歯があること, 歯が赤いこと, 尾鰭が伸長することなどが特徴。(笹木大地)

アカモンガラ *Odonus niger*

FRLM 35080, 166 mm SL, 尾鷲市

5



## キヘリモンガラ属 Genus *Pseudobalistes* Bleeker 1865

### キヘリモンガラ *Pseudobalistes flavimarginatus* (Rüppell 1829)

インドー太平洋, 日本では北海道小樽および山口県の日本海側, 青森県八戸, 千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する。三重県では志摩市英虞湾の座賀島, 南伊勢町賛浦および方座浦から幼魚の標本が得られている。本種は吻部が口唇を含めて鱗に被われないこと, 成魚の背鰭, 臀鰭, 尾鰭の縁辺が黄色いことなどが特徴。幼魚はゴマモンガラ *Balistoides viridescens* (Bloch & Schneider 1801) によく似るが識別方法はゴマモンガラの項を参照。(笹木大地)

4



キヘリモンガラ *Pseudobalistes flavimarginatus*, FRLM 36689, 42 mm SL, 英虞湾内座賀島

**イソモンガラ**  
***Pseudobalistes fuscus***  
**(Bloch & Schneider 1801)**

インドー太平洋，兵庫県浜坂，三浦半島から鹿児島県本土，小笠原諸島，大隅諸島以南，南大東島に分布する。三重県では尾鷲市早田の定置網で標本が得られている。本種は吻部が口唇を含めて鱗に被われないこと，尾柄に小棘がないこと，成魚の尾鰭両葉は伸長することが特徴。

(笹木大地)

イソモンガラ *Pseudobalistes fuscus*  
 FRLM 61261, 258 mm SL, 尾鷲市早田町



**ムラサメモンガラ属 Genus *Rhinecanthus* Swainson 1839**

**ムラサメモンガラ**  
***Rhinecanthus aculeatus***  
**(Linnaeus 1758)**

インドー太平洋，日本では相模湾，駿河湾，大分県別府湾，小笠原諸島，大隅諸島以南，南大東島に分布する。三重県では志摩市英虞湾の座賀島から1標本が得られている。本種は眼と胸鰭を結ぶ3本の青色線があること，体側中央から臀鰭基部に4本の青色から白色線があることが特徴。

(笹木大地)

ムラサメモンガラ  
*Rhinecanthus aculeatus*, FRLM 45892  
 55 mm SL, 英虞湾内座賀島



**メガネハギ属 Genus *Sufflamen* Jordan 1916**

**ツマジロモンガラ**  
***Sufflamen chrysopteron***  
**(Bloch & Schneider 1801)**

アフリカ南岸・東岸からサモア，日本，オーストラリア，ニューカレドニアに至るインドー西太平洋。日本では琉球列島から千葉県・山口県に分布する。三重県では尾鷲市で採集された，尾鰭後縁は明瞭に白い。

(木村清志)

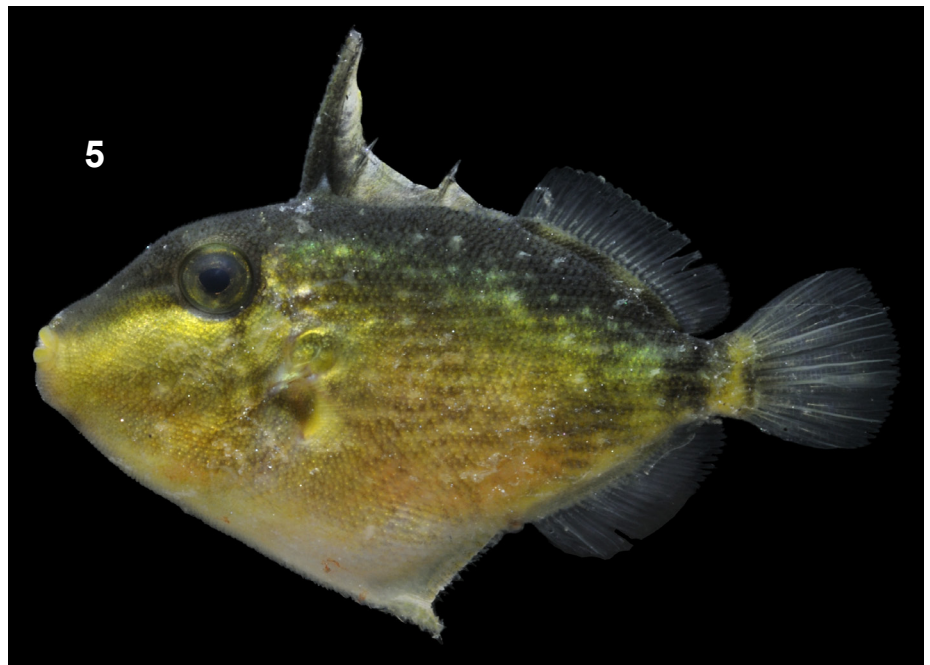


ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron*, FRLM 42462, 155 mm SL, 和歌山県



**メガネハギ**  
***Sufflamen fraenatum***  
**(Latreille 1804)**

インドー太平洋，日本では山口県日本海側，千葉県館山から鹿児島県本土，伊豆・小笠原諸島，大隅諸島以南，南大東島に分布する．三重県では志摩市御座の定置網で幼魚が採集された．本種は尾鰭後縁に顕著な斑紋がないこと，眼の周囲に横帯がないことで同属他種と区別できる．本種の幼魚は体側に多数の暗色縦帯があることが特徴．（笹木大地）



メガネハギ *Sufflamen fraenatum*, FRLM 46196, 37 mm SL, 志摩市志摩町御座



英虞湾，2022 年 2 月（武藤 滉撮影）